自 己 点 検 ・評 価 報 告 書

北翔大学短期大学部

目　　次

はじめに

短期大学の特色等…… 1

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標…… 7

Ⅱ　教育の内容…… 11

Ⅲ　教育の実施体制…… 27

Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果…… 39

Ⅴ　学生支援　…… 63

Ⅵ　研究…… 75

Ⅶ　社会的活動…… 79

Ⅷ　管理運営…… 85

Ⅸ　財務…… 109

Ⅹ　改革・改善…… 115

将来計画の策定…… 119

おわりに

平成 20 年度 教育課程表

はじめに

近年、全国的動向である少子化、大学ユニバーサル化の進行で大学の果たす役割が問い直されるなかで、短期大学の存在意義を問う議論も活発化している。

本学も、平成 15 年４月に「地域総合科学科」への再編を試み、３学科を統合した「人間総合学科」を開設し、地域と連携した学びの実現に取り組み、平成 17 年４月に初等教育学科を改組し、こども学科を設置した。

平成 17 年に発覚した前学園理事長等による不祥事により、本学は補助金返還等の未曾有の事態に直面した。ここ３年間、新体制を組織し、事実関係及び原因の究明と再発防止に向けた環境整備を図るとともに、広く社会の信頼と期待に応えていくべく従来にも増して教育の質および教育支援に真摯に取り組む地道な努力を続けている。

短期大学は「２年間」という短い期間を前向きに捉え、社会の要請に応えられる人材を送り出すことに重点を置いて、将来構想の検討にあたる必要がある。本学は「地域の力」と連携して生活者としての人間基礎力・社会人基礎力を持ち共生社会を創造していける人材の育成を目指しており、今回の第三者評価に向けた作業はまさに好機となっている。本学の構成員の総力を挙げてこの作業にかかわり、自己点検を行うことによって、自らを客観的に評価し、時代の要請に添った、そして伝統に裏打ちされた特色ある短期大学を創りあげていきたい。

短期大学の特色等

(1)　短期大学を設置する学校法人(以下「法人」という）の沿革(概要）及び短期大学の沿革(概要)。

1）学校法人浅井学園の沿革（概要）

学校法人浅井学園は、昭和 14 年の創設以来、70 年にわたり、建学の精神「女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を持つ自立できる社会人の育成」を掲げ、「愛と和」の教育理念に基づく学園づくりをめざし、社会に貢献できる女性のための高等教育機関として重要な役割を果たしてきた。

昭和 14 年に創設した北海ドレスメーカー女学園（現在北海道ドレスメーカー学院、創設者、故浅井淑子）は、当時、自立の手段を持たず狭い社会に閉じこめられていた女性に職業的技能と教養を身につけたファッションスペシャリストの養成をめざした専門教育を展開し、北海道内外のファッション界に多くの優れた人材を送り出し、服飾文化の向上に貢献している。

昭和 38 年に創設した北海道女子短期大学（現在北翔大学短期大学部）においては、豊かな自然と文化環境の中で生活に関わる総合的教育を展開してきた。卒業生は北海道内はもとより、全国各地の企業、教育機関等において活躍し、社会に貢献している。

また、平成９年に創設した四年制大学、北海道女子大学（現在北翔大学）においては、時代のニーズに応えた人間福祉学部の設置をはじめ、平成３年度に生涯学習の場として設置した生涯学習センターでの実績と経験をもとに、平成 12 年４月に生涯学習システム学部の設置、平成 21 年４月に生涯スポーツ学部を設置し、健康やスポーツに関わる人材の育成を目指している。

昭和 14 年 9 月　北海ドレスメーカー女学園創設
昭和 26 年 6 月　準学校法人浅井学園創立、北海洋裁専門女学院を北海道ドレスメーカー女学院に校名変更
昭和 32 年 2 月　法人名を学校法人浅井学園に改称
昭和 38 年 1 月　北海道女子短期大学設置認可(被服科入学定員 80 人)
昭和 38 年 4 月　北海道女子短期大学開学
昭和 39 年10 月　北海道女子短期大学「被服科」を「服飾美術科」に科名変更認可
昭和 41 年 1 月　北海道女子短期大学工芸美術科(入学定員 100 人)、体育科(入学定員 100 人)設置認可、服飾美術科入学定員増(80 人→200 人)認可
昭和 42 年 1 月　北海道女子短期大学専攻科服飾美術専攻設置認可(入学定員 30 人)
12 月　北海道女子短期大学専攻科工芸美術専攻設置認可(入学定員 10 人)
昭和 43 年 4 月　北海道女子短期大学服飾美術科を服飾美術コースと家庭科学コースとする
昭和 44 年 1 月　北海道女子短期大学専攻科体育専攻設置認可(入学定員 10 人)
3 月　北海道女子短期大学初等教育学科設置認可(入学定員 50 人)
北海道女子短期大学工芸美術科定員減認可(100 人→50 人)
昭和 44 年 12 月　北海道女子短期大学体育科を保健体育科に科名変更認可
昭和 45 年 4 月　北海道女子短期大学保健体育科を体育コースと養護教諭コースとする
昭和 53 年 12 月　北海道女子短期大学保健体育科(100 人→150 人)、初等教育学科(50 人→100 人)入学定員増認可
昭和 54 年 12 月　北海道女子短期大学専攻科初等教育専攻設置認可(入学定員 20 人)
昭和 55 年 1 月　北海道女子短期大学専攻科体育専攻を専攻科保健体育専攻に名称変更認可
昭和 60 年 12 月　北海道女子短期大学に期間を付した入学定員増認可(昭和 61 年 4 月から平成 12 年 3 月まで)
服飾美術科 200 人→300 人、工芸美術科 50 人→100 人、保健体育科 150 人→300 人
昭和 61 年12 月　北海道女子短期大学経営情報学科設置認可(入学定員 150 人)
平成 7 年 4 月　北海道女子短期大学経営情報学科を経営情報コースと国際情報コースとする
平成 8 年 4 月　北海道女子短期大学服飾美術科家庭科学コースを生活文化コースに名称変更

12 月　北海道女子大学設置認可(人間福祉学部介護福祉学科入学定員 80 人、生活福祉学科入学定員 80 人・3 年次編入学定員 10 人)
北海道女子短期大学を北海道女子大学短期大学部に校名変更認可、服飾美術科を服飾美術学科、工芸美術科を工芸美術学科、保健体育科を保健体育学科に科名変更認可

平成 9 年 4 月　北海道女子大学開学

平成 11 年 11 月　北海道女子大学を北海道浅井学園大学に、北海道女子大学短期大学部を北海道浅井学園大学短期大学部に校名変更認可

平成 11 年12 月　北海道女子大学生涯学習システム学部設置認可(健康プランニング学科入学定員 120 人・3 年次編入学定員 15 人、芸術メディア学科入学定員 120 人・3 年次編入学定員 15 人)
北海道女子大学短期大学部入学定員減認可、服飾美術学科入学定員 200 人→80 人(期間を付した入学定員を除く)、経営情報学科入学定員 150 人→110 人
期間を付した入学定員の延長計画認可(平成 12 年度～16 年度迄)
北海道浅井学園大学短期大学部工芸美術学科の入学生募集停止

平成 12 年 7 月　北海道浅井学園大学人間福祉学部福祉心理学科設置認可(入学定員 80 人・3 年次編入学定員 20 人)

平成 12 年 12 月　北海道浅井学園大学大学院人間福祉学研究科（人間福祉学専攻）修士課程設置認可(入学定員 8 人)

平成 13 年 5 月　北海道浅井学園大学短期大学部工芸美術学科廃止認可
北海道浅井学園大学短期大学部専攻科工芸美術専攻廃止認可

平成 14 年 7 月　北海道浅井学園大学短期大学部人間総合学科設置認可(入学定員 340 人)

平成 14 年 12 月　北海道浅井学園大学大学院人間福祉学研究科(人間福祉学専攻)入学定員変更認可(入学定員 8 人→4 人)
北海道浅井学園大学大学院人間福祉学研究科(臨床心理学専攻)修士課程設置承認(入学定員 6 人)

平成 16 年 9 月　北海道浅井学園大学短期大学部全体の学生定員増認可(入学定員 480 人、収容定員 960 人)

平成 16 年11 月　北海道浅井学園大学短期大学部こども学科設置受理

平成 17 年 2 月　北海道浅井学園大学大学院、北海道浅井学園大学、北海道浅井学園大学短期大学部を浅井学園大学大学院、浅井学園大学、浅井学園大学短期大学部に校名変更認可

平成 17 年 9 月　浅井学園大学全体の学生定員増認可(入学定員 540 人、編入学定員 100 人、収容定員 2,360 人)
浅井学園大学生涯学習システム学部学習コーチング学科設置受理

平成 18 年 4 月　浅井学園大学短期大学部服飾美術学科、経営情報学科廃止届出

平成 18 年 9 月　浅井学園大学大学院、浅井学園大学、浅井学園大学短期大学部を北翔大学大学院、北翔大学、北翔大学短期大学部に校名変更届出

平成 19 年 3 月　北翔大学短期大学部保健体育学科、初等教育学科廃止届出

平成 19 年 9 月　北翔大学短期大学部人間総合学科入学定員変更届出(300 人→150 人)

平成 20 年 5 月　北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科設置届出
北翔大学人間福祉学部、介護福祉学科を地域福祉学科、生活福祉学科を医療福祉学科に名称変更届出
北翔大学人間福祉学部医療福祉学科入学定員変更届出(80 人→50 人)
北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科編入学定員変更届出(15 人→10 人)

平成 20 年 8 月　北翔大学生涯学習システム学部健康プランニング学科学生募集停止届出

2）短期大学の沿革（概要）

北翔大学短期大学部は、昭和 38 年北海道女子短期大学被服科をもって開学した。その後、工芸美術学科、保健体育学科、初等教育学科、経営情報学科を増設し、45 年にわたり建学の精神と教育理念に基づき、教育を展開してきた。

平成 15 年、既存の服飾美術学科、保健体育学科、経営情報学科の３学科を統合し、多岐にわたる内容を総合的に学ぶことが可能となる人間総合学科を設置した。

平成 17 年、初等教育学科を改組し、乳幼児期から児童期までのこどもを対象として、こども自身やこどもを取り巻く環境を理解するとともに、広くその支援について学ぶ「こども学科」を設置した。

(2)　短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

1）所在地

北海道江別市文京台 23 番地

2）位置・周囲の状況

江別市は石狩平野の中央部に位置し、総面積は 187.75 平方キロメートル。全般的に平坦な地勢で豊かな自然環境に恵まれ、札幌市、北広島市、岩見沢市などと隣接している。札幌市のベッドタウンとして成長を続け、人口は約 12 万３千人となっている。また、本学を含め４つの私立大学が立地し北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センター等の各種研究機関が集まる文教地区としても知られている。

本学へのアクセスは、札幌からＪＲ函館本線大麻駅下車徒歩約 15 分、札幌市営地下鉄（東西線）新さっぽろ駅下車バス利用約 10 分で、札幌市中心部から約 40 分程度の距離にある。

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ＡＬＯの氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、ＴＥＬ、ＦＡＸ、Ｅ－Ｍａｉｌ等を記載して下さい。

理事長　鈴木（すずき）　弘泰（ひろやす）

連絡先　TEL　011-386-8011

略　歴　昭和32年 4月～平成 2年　北海道職員（人事委員会（給与課）／自治研修所主任教授／札幌医科大学事務局長／北海道生活福祉部長／北海道企画振興部長）

平成 3年 5月～平成 7年 5月　北海道副知事

平成 7年 6月～平成14年10月　北海道信用保証協会会長

平成13年 4月～平成17年 3月　財団法人北海道開拓の村理事長

平成14年 5月～平成17年 3月　北海道社会福祉協議会会長

平成18年 2月～現在　学校法人浅井学園理事長

学　長　遠藤（えんどう）　知恵子（ちえこ）

連絡先　TEL　011-386-8011

略　歴　昭和38年 4月～昭和41年 3月　北海道大学法学部助手

平成 3年 4月～平成 5年 3月　弘前学院短期大学助教授

平成 5年 4月～平成 6年 9月　弘前学院大学文学部助教授

平成 6年10月～平成15年 3月　弘前学院大学文学部教授

平成 7年 4月～平成13年 3月　弘前学院大学地域総合文化研究所所長

平成11年 4月～平成15年 3月　弘前学院大学　文学部長

平成15年 4月～現在　北海道浅井学園大学生涯学習システム学部教授（現 北翔大学）

平成18年 2月～現在　浅井学園大学・浅井学園大学短期大学部学長（現 北翔大学・北翔大学短期大学部）

平成18年 2月～現在　学校法人浅井学園理事

ＡＬＯ　晴山（はれやま）　紫恵子（しえこ）

連絡先　TEL　011-386-8011　FAX　011-387-1542

E-mail　hareyama@hokusho-u.ac.jp

略　歴　昭和42年 4月～昭和43年3月　北海道士別高等学校教諭

昭和43年 4月～昭和46年3月　北海道女子短期大学体育科助手（現 北翔大学短期大学部）

昭和46年 4月～昭和57年3月　北海道女子短期大学初等教育学科講師（現 北翔大学短期大学部）

昭和57年 4月～平成 3年3月　北海道女子短期大学初等教育学科助教授（現 北翔大学短期大学部）

平成 3年 4月～現在　北海道女子短期大学初等教育学科教授（現 北翔大学短期大学部）

平成18年 2月～現在　北翔大学短期大学部副学長

(4) 平成１５年度から２１年度までの学科・専攻(通信による教育を行う学科(以下「通信教育学科」という)、専攻科を含み、以下「学科等」という) ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率(%)、収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%) を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度５月１日時点とします。

平成 15 年度に服飾美術学科(入学定員 80 人)、保健体育学科(150 人)、経営情報学科(110 人) の３学科を改組転換し、地域総合科学科として「人間総合学科」(340 人)を設置した。平成 17 年度に小学校・幼稚園教諭免許取得に加え保育士養成課程を置く初等教育学科(100 人)の募集停止した。同年度に「こども学科」を設置し、140 人の収容定員とした。専攻科(服飾美術・保健体育・初等教育専攻)は、併設大学への編入学促進を図るため、平成 23 年度以降の募集は行わないこととした。

平成 15 年度～21 年度の設置学科、入学定員等

(単位：人、%)

学科等の名称		15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	備　考
人間総合学科	入学定員	385	350	340	300	300	150	150	
	入学者数	410	382	348	237	136	112	97	
	入学定員充足率(%)	106	109	102	79	45	74	64	
	収容定員	385	735	690	640	600	450	300	
	在籍者数	410	778	741	592	398	258	209	
	収容定員充足率(%)	106	105	107	92	66	57	69	
初等教育学科	入学定員	100	100	募集停止					
	入学者数	129	129						
	入学定員充足率(%)	129	129						
	収容定員	200	200	100					
	在籍者数	257	266	129					
	収容定員充足率(%)	128	133	129					
こども学科	入学定員			140	140	140	140	140	
	入学者数			150	150	148	143	114	
	入学定員充足率(%)			107	107	105	102	81	
	収容定員			140	280	280	280	280	
	在籍者数			150	299	303	292	259	
	収容定員充足率(%)			107	106	108	104	92	
専攻科	入学定員	60	60	60	60	60	60	60	
	入学者数	11	18	15	5	6	7	0	
	入学定員充足率(%)	18	30	25	8	10	11	0	
	収容定員	60	60	60	60	60	60	60	
	在籍者数	11	18	15	5	6	7	0	
	収容定員充足率(%)	18	30	25	8	10	11	0	

(5)　平成１８年度～２０年度に入学した学生（この事項においては通信教育学科の学生を除く）の出身地別人数及び割合（１０程度の区分）を下表を例に毎年度５月１日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数(平成 18 年度～20 年度)

地　域	18 年度		19 年度		20 年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
北　海　道	360	93.0	273	96.1	245	96.1
東　　北	17	4.4	8	2.8	5	1.9
関　　東	1	0.3	1	0.4	2	0.8
中　　部	2	0.5	0	0.0	0	0.0
近　　畿	2	0.5	0	0.0	1	0.4
中国・四国	0	0.0	2	0.7	0	0.0
そ　の　他	5	1.3	0	0.0	2	0.8
合　　計	387	100.0	284	100.0	255	100.0

(6)　法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ下表を例に平成２１年５月１日時点で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
北翔大学大学院	北海道江別市文京台 23 番地	16 人	32 人	41 人
北翔大学	北海道江別市文京台 23 番地	530 人	2,345 人	1,919 人
北海道ﾄﾞﾚｽﾒｰｶｰ学院	札幌市中央区南 4 条西 16 丁目	180 人	380 人	150 人

(7)　その他
評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

本学は、平成 17 年に前学園理事長等の不祥事件が発覚し未曾有の事態に直面した。理事会のもとに調査委員会、運営改善委員会、また、教授会のもとに再生委員会を設置し、事実関係及び原因の究明、責任の所在を明らかにし、運営体制の刷新、情報開示、コンプライアンスの取り組みに努めてきた。また、建学の精神と教育の理念及び設置学部学科等の教育目的を丹念に見直し、すべての役員、教職員が共有できるものとするとともに、校名を変更し、改組転換に取り組んできた。

平成 19 年度には、私学振興・共済事業団との経営相談を経て、学園中期経営改善計画(平成 20 年度～24 年度)を理事会のもとに策定し、計画実施に取り組んでいる。

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

【建学の精神、教育理念について】

(1)　建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

建学の精神：「女性の社会的地位の向上を目指し、女性に相応しい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」

教育の理念：「愛と和と英知」

(1) 建学の精神

本学の母体となった北海ドレスメーカー女学園は、故浅井淑子学園長により昭和 14 年９月、札幌市に創設された。当時はまだ女性にとって社会進出は封鎖された時代であり、浅井淑子女史は、女性も知識・技術を身につけ自立することが重要と考え、杉野ドレスメーカー学院で学び、身につけた服装教育の知識と技術をもとに「服装教育の実施をとおし、婦人の社会的地位の向上と独立できる能力の育成を念願して」上記の建学の精神、教育理念の下で北海ドレスメーカー女学園を創立した。

その後、北海道ドレスメーカー女学院に名称を変更し、学生数 2,000 名を超える学院へと発展していった。更に、教員免許状を取得できる短期大学の設立を目指すこととなり、昭和 38 年、北海道女子短期大学を開学した。

建学の精神は学園の創立時と変わらないものの、その解釈については、四年制大学の併設や男女共学制への移行や、大学名称の変更にかかわり、教授会、理事会等の審議を経て「社会人として相応しい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」として学内での共通理解とした。

(2) 教育の理念

本学は、キリスト教的愛の精神と聖徳太子の説く和の心を融合した「愛と和」を教育理念として、開学以来個性を生かしたきめ細やかな教育指導を展開してきた。平成７年に国際化社会への人材養成を目的として経営情報学科に国際情報コースを開設したことを契機に、教育の理念「愛と和」に「国際性」を加えた。その後、平成 19 年度の大学名称変更時に、不祥事に区切りを付け再出発を図るため再生委員会からの提言を受け、国際性を「愛」と「和」に包含し、高等教育機関としての使命を表す「英知」を加え、教育理念を教授会の審議を経て「愛と和と英知」に改めた。

(2)　現在は建学の精神･教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神及び教育の理念は、大学案内、学生便覧、ホームページ等に掲載し、学長メッセージとしても可能な限り機会をみつけて周知を図っている。大学案内、学生便覧は毎年教職員にも配付され(全教員及び事務局の各部門)、周知されている。また、非常勤講師懇談会、新任教員及び職員への事務説明会においても説明を行っている。

これらの配付資料のほか、学生に対しては、入学式での学長式辞や副学長・学科長による入学式直後の「入学生と保護者への説明会」また学長・副学長等による学園の沿革、建

学の精神及び教育の理念等を主たる内容とした「特別講義」を全学共通科目として１年次前学期に開講するなど早期に理解されるよう努めている。平成 21 年度からは学長が担当する「基礎教育セミナー」として必修科目で展開している。

また、教職員には学科改組やカリキュラムの見直しの際に、教授会や学科会議において基本事項として確認されることが、共通認識となっている。今後さらに視覚的・恒常的に示す方法や、広く社会に広報していく手段を工夫していきたい。

【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います(例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等)。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

＜人間総合学科＞

広い教養と専門的知識・技術を教授し、地域社会に貢献できる人材と高い職業意識を有した人材を育成すること目指している。また、本学科の教育を通じて、地方文化の向上に寄与することを目的としている。本学科は「自らの課題を探求し、その課題を解決するための、総合的な判断力、実践力を身につけ、将来にわたって、自己を活かそうとする人材の育成」を目指し、下記の具体的な目標を掲げている。

(1) 広い教養と職業的技能を持つ社会人の育成
(2) 地域・社会と協調し、主体的に貢献する人材の育成
(3) 感性豊かな、魅力ある人間性の養成

＜こども学科＞

大学・短期大学共通の建学の精神および教育理念を受けて、「こどもの教育や保育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる人間性豊かな人材の育成」を目指し、下記の教育目標を掲げている。

(1) 自立的な生活を営み、健全な心身を有する人間の育成
(2) 広い知識と確かな実践力の育成
(3) 自己の良さに気づき、他者を尊敬する心情の育成
(4) 情操豊かな人間的魅力を備えた人材の育成

別に幼稚園・小学校教諭、保育士の人材養成のねらい（「めざす教師像」等）を掲げている。

＜専攻科服飾美術専攻＞

専攻科服飾美術専攻は、短期大学を卒業し、さらに専門的な創作や研究の習得を希望する学生に対して、次の教育目標を掲げている。

(1) 服飾の専門性を追求し個性を磨き、優れた美的感覚と豊かな人間性の育成
(2) 時代の要請と社会情勢に対する感受性の醸成

(2)　それぞれの学科等の教育目的や教育目標を､現在はどのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

学生に対しては学生便覧、学科通信等に明記し、新入生オリエンテーション、保護者懇談会等、機会あるごとに周知に努めている。また、年に数回開催される学外作品発表、学外公演の際にパネルや映像等をとおして学内外の関係者に伝えている。教職員に対しては、学科長が学科会議で、非常勤講師には懇談会の配付資料に加えて説明し、周知を図っている。また、短期大学部共同研究室に教育目標を掲げている。

【定期的な点検等について】

(1)　建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神や教育の理念の解釈の見直しは、学内理事で構成される常勤理事会で点検評価を行うこととしている。毎年実施される内容ではないが、直近では平成 19 年度の大学名称変更に合わせて審議を行った。

平成 20 年度から、学科の目的を学則に明記しており、学科の目的を達成するための教育目的・教育目標に基づく教育展開等ついては、毎年、事業計画を策定するとともに点検評価を行っている。事業計画は学科ごとに策定し、年度終了後、学科ごとに点検・評価を行う。この点検評価結果について、全学組織の点検評価委員会（学長、副学長、教務部長、学生部長、学科長のほか学務運営上の各部門長及び事務局）として更に自己点検・評価を加え、理事長に報告するとともに学内外に公表することとしている。この点検評価は毎年年次報告書としてまとめ、学内ネットワーク内で公表している。

（参考資料１：年次報告書）

(2)　建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神や教育の理念の解釈の見直しについては、理事会及び教授会での審議を経て行ってきた。

教育目的・教育目標の点検については、前述の通り学科ごとに毎年確認を行っている。改組や確認等により変更する場合は教授会および理事会で審議を行う。審議結果は教授会議事録（理事会の審議内容報告事項として）によって学内ネットワークで公表され、学生には学生便覧や授業、オリエンテーション等を通じて周知を図っている。

【特記事項について】

(1)　この《Ⅰ建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

平成19年度に大学名を改称し、新たな出発を決意した時点で教育理念を一部見直したことは前述の通りであるが、これを契機としてこれまで統一的な認識がなされていなかった短期大学部の教育目的・教育目標を明示した。

教育目的は「『教育基本法』、『学校教育法』および『建学の精神』に基づき、教養教育と専門的知識・技能を教授研究し、その応用的能力を伸ばすとともに人格の形成に必要な感性と社会力の涵養に努め、地域社会が求める人材の育成を目的とする。」である。

また、２年間という短期間の学びの中で教育目的を達成していくために、教育理念を受けるかたちで教育目標を次のように掲げている。

「自　律」：健全な意欲を発動し、的確な判断力と強固な意志力に支えられる行動力の向上
「愛と和」：自・他(個人や社会）を敬愛し、協調・貢献しようとする意識の尊重
「英　知」：人間の総合力(情操・創造力・感性・洞察力・身体感覚統合力等）の育成

(2)　特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈添付資料〉１．建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標等についての印刷物
〈参考資料〉１．年次報告書（平成 18 年度～20 年度）

Ⅱ　教育の内容

【教育課程について】

(1)　学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

　平成２１年度に学科改組等を行った場合は、平成２０年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

人間総合学科　教育課程

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
全学共通科目（基礎カテゴリー）		基礎教育ｾﾐﾅｰⅠ	○			2			○				
		基礎教育ｾﾐﾅｰⅡ	○			2			○				
		健康体育（含実技）	○		○		2		○				
		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ		○		2			○	○	○		
		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ		○		2			○	○	○		
		情報機器操作Ⅰ		○		2			○		○		
		情報機器操作Ⅱ		○		2			○		○		
		韓国語と文化	○				2		○		○		
		中国語と文化	○				2				○		
		ドイツ語と文化	○				2		○	○			
		日本国憲法	○				2				○		
学部共通科目（基礎カテゴリー）		ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	○				2			○			
		英語事情	○				2			○			
		人間関係論	○				2			○			
		外国の歴史と文化	○				2						
専門科目（学科推奨科目）	文化・教養カテゴリー	人間学	○				2		○				
		人間と生きがい	○				2		○				
		音楽の基礎		○			2				⑥		
		ﾄｰﾀﾙﾋﾞｭｰﾃｨ		○			2				○		
		身体表現Ⅱ			○		1		○		○		
		被服造形実習（ﾌｧｯｼｮﾝとﾘﾌｫｰﾑ）			○		1		○				
		文章表現	○				2				○		
		観光論（含地域課題研究・調査論）	○				1			○			
		現代社会と就職	○			2			○				

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数(ｸﾗｽ数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（学科推奨科目）	文化・教養カテゴリー	体つくり運動			○		1				○		
		体育･ｽﾎﾟｰﾂ論	○				2		○				
		ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ﾃﾆｽ・ｻｯｶｰ			○		1		○		②		
		健康管理論	○				2		○		○		
		色彩学	○				2				○		
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計			○		1		○				
		ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ演習			○		2				○		
	ビジネスカテゴリー	現代と経済	○				2		○				
		ｴｺと経済	○				2		○				
		ﾋﾞｼﾞﾈｽ関連法規	○				2				○		
		ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ		○			2		②				
		企業と経営	○				2		○				
		簿記原理Ⅰ	○				2		○				
		簿記原理Ⅱ	○				2		○				
		秘書概論	○				2		○				
		秘書実務Ⅱ	○				2		○				
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論Ⅱ	○				2		○				
		ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実習			○		1		○				
		ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ論（含ｱｰﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	○				2				○		
		情報学基礎Ⅰ	○				2				○		
		情報学基礎Ⅱ	○				2				○		
	yesﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑｶﾃｺﾞﾘｰ	秘書実務Ⅰ	○				2		○				
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論Ⅰ	○				2		○				
		ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾜｰｸ	○				2		○				
	カテゴリーゼミナール	人間総合演習Ａ		○			2		⑮		②		
		人間総合演習Ｂ		○			2		⑮		②		
		専門演習Ⅰ		○			2		⑮		⑫		
		専門演習Ⅱ		○			2		⑮		⑫		
専門科目（系専門科目）	ビジネスカテゴリー	３Ｒｼｮｯﾌﾟ		○			2		○				
		日本経済と企業	○				2				○		
		ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ			○		2				○		
		会計学	○				2		○				
		組織と経営	○				2		○				
	カテゴリー服飾美術	被服造形実習Ⅰ			○		2		○				
		被服造形実習Ⅱ			○		2		○				

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数(ｸﾗｽ数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（系専門科目）	服飾美術カテゴリー	被服造形実習Ⅲ			○		2		○				
		被服造形実習Ⅳ			○		2				○		
		被服造形論	○				2		○				
		衣生活文化論	○				2		○				
		服装史	○				2		○				
		現代ﾌｧｯｼｮﾝ論	○				2		○				
		ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ実習			○		2				○		
		ｱﾊﾟﾚﾙ CAD			○		2		○				
		立体裁断			○		1		○				
		ﾌｧｯｼｮﾝﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰﾄ			○		1		○				
		ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅰ			○		1				○		
		ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅱ			○		1				○		
		服飾ﾃﾞｻﾞｲﾝ(含演習)	○	○			2		○				
		ﾌｧｯｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論（含演習）	○				2				○		
		手芸			○		1		○				
		染色			○		1				○		
		製帽			○		1		○				
		被服材料学(含実験)	○				2				○		
		被服整理学(含衣環境)	○				2				○		
		ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ	○				2		○				
		ｽﾃｰｼﾞ総合実習			○		2				○		
	舞台芸術カテゴリー	舞台芸術概論	○				2				○		
		演劇入門Ⅰ			○		1		②		○		
		演劇入門Ⅱ			○		1		②		○		
		舞台芸術研修		○			2		②		○		
		ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞ Ⅰ		○			2		②		⑧		
		ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞ Ⅱ		○			2		②		⑧		
		照明・音響実習Ⅰ			○		1		②		⑥		
		照明・音響実習Ⅱ			○		1		②		⑥		
		舞台衣装(含ﾒｲｸ・ﾍｱﾒｲｸ)		○			2				○		
		舞台装置入門(含舞台ﾃﾞｯｻﾝ)		○			2				○		
		特殊効果		○			2				○		
		舞踊研究			○		1		○		○		
		身体表現Ⅰ			○		1		②		○		

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数(ｸﾗｽ数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（系専門科目）	舞台芸術ｶﾃｺﾞﾘｰ	舞台映像製作入門			○		1				○		
		舞台映像編集			○		1				○		
	ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝｶﾃｺﾞﾘｰ	ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	○				2				○		
		ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ		○			2				○		
		ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ		○			2				○		
		ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ		○			2				○		
		ﾃﾞｼﾞﾀﾙｲﾒｰｼﾞⅠ		○			2				○		
		情報社会及び情報倫理	○				2				○		
	美術カテゴリー	ﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞⅠ		○			2				○		
		基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝ			○		1				○		
		美術概論	○				2				○		
		絵画Ⅰ		○			2			○			
		彫刻Ⅰ		○			2				○		
		ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ		○			2				○		
	音楽カテゴリー	楽典	○				2			②			
		ﾋﾟｱﾉ基礎Ⅰ		○			2			○	○		
		声楽基礎Ⅰ		○			2			○			
		合唱Ⅰ			○		1				○		
		器楽基礎Ⅰ		○			2				②		
		合奏Ⅰ			○		1				○		
	スポーツ科学カテゴリー	解剖学	○				2		○				
		生理学（含運動生理学）	○				2				○		
		ｽﾎﾟｰﾂ医学	○				2				○		
		体育経営管理学	○				2				○		
		体育心理学	○				2				○		
		ｽﾎﾟｰﾂ社会学	○				2		○				
		運動学	○				2		○				
		救急処置	○				2		○		○		
		学校保健（含小児保健、精神保健、学校安全）	○				2		○				
		衛生学及び公衆衛生学	○				2				○		
		陸上競技			○		1			○			
		水泳・水中運動			○		1		○		②		
		ｴｱﾛﾋﾞｯｸ			○		1		○				
		器械運動			○		1		○				

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数(ｸﾗｽ数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（系専門科目）	スポーツ科学カテゴリー	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ			○		1				○		
		ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ			○		1		○				
		ｽｷｰ			○		1		⑤				
		ﾌｨｯﾄﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ			○		1		○	○			
		ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ論	○				2				○		
		体育測定評価(含演習)	○	○			2				○		
		ｽﾎﾟｰﾂ栄養学	○				2		○				
		ｴｱﾛﾋﾞｯｸ指導実習			○		1		○				
		ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論	○				2				○		
		ｽﾎﾟｰﾂ指導論	○				2		○				
		ｽﾎﾟｰﾂ指導実習(ｴｱﾛﾋﾞｯｸ)			○		1		○				
		ｽﾎﾟｰﾂ指導実習(健康運動)			○		1		②	○			
		社会体育実習			○		1		②				
		こどもとｽﾎﾟｰﾂ			○		1		○	○			
外国人留学生科目		日本語	△				2		○		○		
		日本の歴史と文化	△				2		○		○		
教職に関する科目		教師論	○				2				○		
		教育原理	○				2			○			
		教育心理学	○				2				○		
		総合演習		○			2		○				
		教育経営学(含教育課程)	○				2		○				
		教育方法論(含情報機器・教材活用)	○				2			○			
		道徳教育の研究	○				1			○			
		特別活動の研究	○				1			○			
		生徒指導論(含進路指導)	○				2		○				
		教育相談論(含ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの基礎)	○				2			○			
		保健体育科指導法	○				2		③		○		
		教育実習講義	○				2		○				
		教育実習			○		4		○				

こども学科　教育課程

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
全学共通科目	基礎教育ｾﾐﾅｰⅠ	○			2			○				
	基礎教育ｾﾐﾅｰⅡ	○				2		○				
	健康体育(含実技)	○		○		2			③			
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ		○		2			○				
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ		○			2		○				
	情報機器操作Ⅰ		○		2			○				
	情報機器操作Ⅱ		○			2			○			
	総合科学Ａ	○				2				③		
	総合科学Ｂ	○				2				③		
	総合科学Ｃ	○				2				③		
	総合科学Ｄ	○				2				③		
	韓国語と文化	○				2			○	○		
	中国語と文化	○				2				○		
	ﾄﾞｲﾂ語と文化	○				2		○	○			
	英語と文化	○				2		○				
	日本国憲法	○				2				○		
	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	○				2				○		
学部共通科目	ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	○				2		○			12(2)	
	英語事情	○				2		○			3(2)	
	人間関係論	○				2		○			20(1)	
	外国の歴史と文化	○				2		○			2(1)	
専門科目（共通科目）	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ	○				2				○	121(2)	
	こども学原論	○			2			③			143(1)	
	こどもと環境	○				2		○			9(1)	
	こどもの養育	○				2				○	14(1)	
	こどものﾌｧｯｼｮﾝ		○			2			②		0(-)	不開講
	こどもと音楽Ⅰ		○			1		②		○	50(3)	
	こどもと音楽Ⅱ		○			1		②		○	50(3)	
	こどもと造形Ⅰ		○			1		○		○	47(1)	
	こどもと造形Ⅱ		○			1		○		○	47(1)	
	こどもと運動遊び		○			1		○		○	48(1)	
	こどもの野外活動		○			1				○	48(1)	
	総合演習Ⅰ		○		1			③			143(3)	
	総合演習Ⅱ		○		1			③			143(3)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（共通科目）		教育原理	○			2			○			143(1)	
		発達心理学Ⅰ	○			2					○	154(1)	
		発達心理学Ⅱ	○				2				○	0(-)	不開講
		教育心理学	○			2					○	148(1)	
		教育･保育実習講義Ⅰ	○			2			④			143(2)	
		教育･保育実習講義Ⅱ	○				2		⑤			143(1)	
		器楽Ⅰ			○	1			②		④	143(24)	
		器楽Ⅱ			○	1			②		④	144(24)	
		器楽応用			○	1			②		⑥	144(24)	
		演奏基礎Ⅰ			○		1		②		○	48(3)	
		演奏基礎Ⅱ			○		1		②		○	48(3)	
		基本造形Ⅰ			○	1			○		○	143(2)	
		基本造形Ⅱ			○	1			○		○	143(2)	
		美術表現Ⅰ			○		1		○		○	47(1)	
		美術表現Ⅱ			○		1		○		○	48(1)	
		基本運動Ⅰ			○	1				②	④	146(1)	班別け
		基本運動Ⅱ			○	1			○		②	145(2)	
		運動基礎Ⅰ			○		1			○	②	47(1)	
		運動基礎Ⅱ			○		1			○		47(1)	
		学外演習		○		1			⑤		○	145(3)	
		救急処置	○	○			2					0(-)	不開講
専門科目（小学校教諭関連科目）		社会	○				2		○			10(1)	
		理科	○				2		○			12(1)	
		家庭	○				2		○			13(1)	
		国語科指導法	○				2		○			88(1)	
		社会科指導法	○				2		○			60(1)	
		算数科指導法	○				2		○			62(1)	
		理科指導法	○				2		○			74(1)	
		生活科指導法	○				2		○			56(1)	
		音楽科指導法	○				2		○			62(1)	
		図画工作科指導法	○				2		○			93(1)	
		家庭科指導法	○				2		○			63(1)	
		体育科指導法	○				2		○			94(1)	
		道徳指導法	○				1		○			95(1)	
		特別活動指導法	○				1		○			95(1)	
		生徒指導Ⅰ(含進路指導)	○				2		○			98(1)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（小学校教諭関連科目）	専門科目（幼稚園教諭関連科目）	国語(含書写)	○				2		○			118(1)	
		算数	○				2		○			71(1)	
		生活	○				2		○			71(2)	
		音楽	○				2		○			80(2)	
		図画工作	○				2		○			118(1)	
		体育	○				2		○			19(1)	
		教師論	○			2			○			143(1)	
		教育課程論	○				2		○			143(1)	
		教育方法論(含情報機器･教材活用)	○				2		○			143(1)	
		教育相談とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ	○				2		○			144(1)	
		教育実習Ⅰ			○		4		②			142(1)	
		教育実習Ⅱ			○		2		○			5(1)	
専門科目（保育士連科目）		保育原理Ⅰ	○			2			○			142(1)	
		保育原理Ⅱ	○				2		○			139(1)	
		保育内容総論		○			1		○			142(2)	
		保育内容環境		○			1		○			142(2)	
		保育内容人間関係		○			1				○	145(2)	
		保育内容言葉		○			1		○			141(2)	
		保育内容表現		○			1				○	140(2)	
		保育内容健康		○			1		○		○	141(2)	
		こどもと遊び		○			2		○			133(2)	通年
		こどもと絵本	○				2				○	126(1)	
		社会福祉	○				2				○	138(1)	
		社会福祉援助技術		○			2				○	前期141(1) 後期141(2)	通年
		児童福祉	○				2		○			138(1)	
		養護原理	○				2		○			142(1)	
		小児保健Ⅰ	○				2				○	139(1)	
		小児保健Ⅱ	○				2				○	142(1)	
		小児保健実習			○		1			○		141(2)	
		小児栄養		○			2		○			前期138(2) 後期138(3)	通年
		精神保健	○				2				○	140(1)	
		家族援助論	○				2		○			142(1)	
		乳児保育		○			2		○		○	137(2)	通年

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（保育士連科目）		障害児保育		○			1		○			139(2)	
		養護内容		○			1		○			140(2)	
		保育実習Ⅰ			○	4			④			139(1)	
		保育実習Ⅱ			○		2		④			140(1)	
		保育実習Ⅲ			○		2		④			0(-)	不開講
		家族関係論	○				2				○	26(1)	
		音楽療法概論	○				2		○			15(1)	
		音楽療法演習		○			2		○			13(1)	
外国人留学生科目		日本語	△				2			○	○		
		日本の歴史と文化	△				2				○		

専攻科　教育課程

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目	服飾造形論	○			2				○		7(1)	
	服飾文化研究	○			2				○		7(1)	
	服飾ｸﾗﾌﾄ		○			2			○		7(1)	
	服飾造形実習Ⅰ			○	4				②		7(1)	
	服飾造形実習Ⅱ			○	2				②		7(1)	
	服飾造形実習Ⅲ			○	2				○		7(1)	
	服飾造形実習Ⅳ			○		2			②		7(1)	
	ｱﾊﾟﾚﾙ CAD Ⅰ		○			1			○		7(1)	
	ｱﾊﾟﾚﾙ CAD Ⅱ		○			1			○		3(1)	
	ﾌｧｯｼｮﾝ画		○			2				○	7(1)	
	ｺﾝﾋﾟｭﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ		○			1			○		7(1)	
	創作ﾃｷｽﾀｲﾙⅠ		○			1			○		7(1)	
	創作ﾃｷｽﾀｲﾙⅡ		○			2				○	6(1)	
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲﾃﾞｻﾞｲﾝ		○			1				○	7(1)	
	服飾美術研修				1				○		7(1)	

＊教員配置○の中の数字は、２名以上の場合人数を表記

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

人間総合学科は平成 20 年度までの教育課程では、教養教育の充実を図るために全学共通科目、学部共通科目に加え、学科として学部共通科目と学科の系共通科目の一部を「基礎」カテゴリーとし、残りの系共通科目の中から「生涯学習」カテゴリー、「福祉」カテゴリー、「地域課題」カテゴリーとして置くとともに、系専門科目（系共通科目）からも汎用性の高い科目を、それぞれの系に２～10 科目を教養科目として配置している。

系専門科目は（服飾美術・スポーツ科学・養護保健・経営情報・舞台芸術カテゴリー）合わせて 127 科目を設けている。各系によって科目数に偏りがあるが系を越えて自由に履修できるが時間割上の制限からいかに自由度を保証するかが課題である。

授業形態のバランスは、全体として取れており教養教育の充実が技能教育の基盤を支えることができる配置となっている。

平成 21 年度には、①キャリア教育・教養教育の充実、②併設大学芸術メディア学科との連携、③演習科目の充実を柱に大きく教育課程の再編をおこなった。

「基礎」、「文化・教養」、「ビジネス」、「YES-プログラム」、「ゼミナール」カテゴリーから編成され科目群を「学科推奨科目」と位置づけ、必修科目（現代社会と就職）２単位と選択必修科目８単位を加えた。

こども学科は教養科目と専門科目に関する開講の割合は１対５である。授業形態は免許・資格の基準を遵守しており、小学校課程は講義形態が多い。幼稚園・保育課程は講義と演習の形態が６対５の割合になっていて、理論と技術の両面を要求される保育・教育者養成の実態に沿ったものになっている。

専攻科服飾美術専攻は服飾の専門領域をさらに極め、アパレル業界で通用する人材育成を目的としていることから、２科目の講義を含む 15 科目中９科目が選択科目であるが、ほぼ全員が全科目履修している状況である。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

人間総合学科では、所定の教育課程を履修することによって取得できる教職免許は中学校教諭２種（保健体育）である。履修条件を満たすことによって受験資格が得られる資格は健康・スポーツ関連指導員資格４種である。受験を勧めている資格・検定は各学習系列に合わせて多数ある。これらの履修指導は「履修記録ノート」によって学生一人ひとりの希望や適性に沿って実施している。

こども学科では、それぞれ所定の教育課程を履修することにより下表の免許・資格が付与される。また、体育専修の学外研修（スキー実習）の受講者を対象に全日本スキー連盟の技能試験の受検に便宜を図っている。他に平成 20 年８月１日に(社)幼少年体育振興協会の幼児体育指導者養成認定校として夏季休業期間を利用して認定講座が実施されている。免許・資格の取得に当たって、学科・専修のオリエンテーション及び担当教科講義の中で内容や取得の方法などを紹介し、取得を勧めている。

(1) 所定の科目を履修することにより取得可能な免許・資格

学科	免許・資格
人間総合学科	中学校教諭二種免許状（保健体育）、日本体育協会公認スポーツリーダー
こども学科	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、社会福祉主事任用資格

(2) 所定の教育課程を履修することにより受験が可能な資格

学科	資格等
人間総合学科	JFA(日本ｻｯｶｰ協会)公認Ｃ級コーチ、日本体育協会公認エアロビック指導員受験資格 日本体育協会公認ジュニアスポーツ指導員受験資格、健康運動実践指導者受験資格

(3) 教育課程に関係なく取得可能な資格（受験を勧めている資格）について

学科	資格等
人間総合学科	簿記検定 2～3 級、秘書検定準 1～3 級、ﾋﾞｼﾞﾈｽ文書検定 2～3 級、PC 検定(ﾃﾞｰﾀ活用)2～3 級、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計検定、経営学検定、話しことば検定、英語検定、販売士、漢字検定、ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ技術検定、ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定、ﾌｧｯｼｮﾝ販売能力検定、ﾌｧｯｼｮﾝ色彩能力検定、ｶﾗｰｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ検定、ﾌﾞﾛﾝｽﾞﾗｲｾﾝｽ認定試験、色彩検定、商品装飾展示技能検定、商業ﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ検定、IT ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ試験、ｳｪﾌﾞｸﾘｴｰﾀ能力認定試験、ILLustrator ｸﾘｴｰﾀｰ能力認定試験、Photoshop ｸﾘｴｰﾀｰ能力認定試験、ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ検定、CG ｸﾘｴｰﾀ検定、DTP ｴｷｽﾊﾟｰﾄ検定、音楽検定､SAJ ｽｷｰﾊﾞｯﾁﾃｽﾄ 1～3 級
こども学科	SAJ ｽｷｰﾊﾞｯﾁﾃｽﾄ 1～3 級、幼児体育指導者((社)幼少年体育振興協会)

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように､学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか､また学生が希望する選択科目を履修しやすいように､時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

選択科目を学生が適切に判断して選択できるように､人間総合学科は｢履修記録ノート｣､こども学科は冊子「はりぎり」を使用して履修指導を行っている。

人間総合学科では一つの領域の専門性を高めたい学生や、他の領域と組み合わせて独自の学びを実現したい学生にも、適切に選択科目が履修できるように同時開講科目を毎年見直している。前年度の履修状況を参考にしながら、常に学生のニーズに対応した時間割を組み立てる努力をしている。

こども学科の学生の入学目的は小学校教諭、幼稚園教諭、保育士のいずれかを組み合わせての免許・資格取得である。学生の免許・資格取得の希望や適性にあわせて７通りのうち、どの組み合わせについても取得できるよう科目が重ならないように時間割を作成している。また、学科の特徴として得意領域を持つ教員・保育者の養成のため、入学時に「音楽」､「美術」､「体育」専修からひとつを選択し、領域科目を選択必修とし、時間割を同時展開としている。

（参考資料２：選択科目の履修について記載している印刷物）

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

両学科とも、卒業するためには、２年間以上在学し学科ごとに定められている履修規程により 62 単位以上修得しなければならない。学生納付金に関しては、学期ごとに納付期限が定められており、期日までに納付されない場合は、単位取得が認められないと共に在籍

および卒業が学則によって認められない（ただし、分納・延納の申し出が認められた場合はその限りではない）ことが学則によって定められており学生便覧に掲載し周知している。

卒業要件については、入学後のオリエンテーション時に各学科全体で説明をし、クラスごとのオリエンテーションにおいても繰り返し説明を行っている。また、２年次各学期開始時のオリエンテーションにおいて前学期までに取得単位の確認を行い、卒業要件を満たすための単位取得計画の再指導を行っている。また、免許や資格取得の可能性および、短期大学卒業要件の達成度についても指導用冊子を使用して確認させる指導を実施している。

なお、卒業要件は下表の通りである。

＜人間総合学科＞

併設の北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科と本学科の間に定められた事前承認科目を設けており、履修して修得した単位は、学則第 44 条の規定により、他学部他学科修得単位、他大学等での修得単位、入学前既修得単位等と合わせて 30 単位を超えない範囲で、卒業要件単位として認められる。

人間総合学科	① 全学共通科目及び学部共通科目		学科専門科目					④ ①～③の全科目		卒業要件単位
			② 学科推奨科目			③ 系専門科目				
	ｶﾃｺﾞﾘｰ	必修	ｶﾃｺﾞﾘｰ	必修	選択	ｶﾃｺﾞﾘｰ	選択	ｶﾃｺﾞﾘｰ	選択	
総合教養系 ビジネス系 服飾美術系 舞台芸術系 ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ系 美術系 音楽系 ｽﾎﾟｰﾂ科学系	基礎	12	文化･教養 ﾋﾞｼﾞﾈｽ YES-ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｾﾞﾐﾅｰﾙ	2	8	ﾋﾞｼﾞﾈｽ 服飾美術 舞台芸術 ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 美術、音楽 ｽﾎﾟｰﾂ科学	10	基礎、文化･教養 YES-ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｾﾞﾐﾅｰﾙ、ﾋﾞｼﾞﾈｽ 服飾美術、舞台芸術 ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 美術、音楽 ｽﾎﾟｰﾂ科学 事前承認科目	30	62

※平成 21 年度以降対応

＜こども学科＞

卒業要件単位数 62 単位のうち、全学共通科目及び学部共通科目において必修６単位、選択２単位、学科専門科目において必修 32 単位、選択 22 単位を全て修得しなければならない。共通科目から専修により選択必修科目として学年ごとに２科目２単位を修得することになっている。

＜専攻科服飾美術専攻＞

修了要件は、１年以上在学し、20 単位以上、30 単位を限度として所定の単位を習得することとしている。なお、必修科目は６科目 13 単位である。入学時オリエンテーションにおいて担当教員が説明を行い、履修指導に当たっている。

(6)　教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長」という）が記述して下さい。

＜人間総合学科＞

人間総合学科では、平成 18 年度に教育課程の見直しをおこなった。総合教育の柱として必修科目「総合セミナーＡ・Ｂ」を設け、学習系列を単位として縦割り少人数クラス編成

で授業を展開した。このことは、近年の学生の基礎学力の低下に鑑み、専門教育を教授する上で必要な基礎学力の養成と、学生同士の交流や学生と教員のコミュニケーションを円滑に進める上で大きな成果を上げている。このほか必修科目「情報機器操作」の通年開講を実施した。このことによりビジネスの社会では必須のツールになっている「Word」および「Excel」の基本的操作に関する課題を課すことができた。「英語コミュニケーション」も同様に通年開講とし習熟度別での講義を実施したことで学生の満足度が高まった。資格取得の充実を図るためにスポーツリーダー資格関連科目を整備した。また、ホームヘルパー2 級資格者の養成に加え、ホームヘルパー１級資格者養成を平成 18・19 年度に導入したが対象者の確保できず平成 20 年度からは中止した。

平成 21 年度に向けては、従来の６系列から養護保健系（併設大学人間福祉学部へ発展的に統合）を除き、こども学科及び大学芸術メディア学科の応援を得て３系（音楽・美術・メディア）を加えた８系列に増設して総合学科としての魅力高めたいと考えた結果である。

学生にとって学びの広がりはできる半面、「学生の仕上がり像」が散漫になりやすい課題を克服するためにスポーツ・ビジネス・アートの三つの柱を重点においた教育課程の再編を行った。

＜こども学科＞

こども学科は免許・資格取得のための必修科目の他に、音楽専修、美術専修、体育専修それぞれにおいて個々の得意分野を伸ばすために専修必修科目を設定している。これらの科目の必要性だけでなく、具体的な到達目標と付加価値としての専修科目を目指していきたい。また科目間の関連性や発展性を考慮した配置の見直しを進めている。このことから平成 20 年度の教育課程は、学生の免許取得の立場から、教職科目の配列について検討し、開講学年、学期の変更を行った。その結果、教育内容の重複の解消と系統的な科目履修が可能になった。今後は、学生の基礎学力の低下および、学習意欲の低下など予想されることから、学生の実態に対応した教育課程の改善の検討を定期的に実施していく必要がある。

＜専攻科服飾美術専攻＞

平成 20 年度までは、北海道内の大学・短期大学として唯一の服飾教育課程を有する機関として、アパレル関連の人材養成を行っており数々の教育の成果をあげてきた。

平成 21 年度より併設大学の生涯学習システム学部の芸術メディア学科に「服飾美術コース」が設けられたため、平成 23 年度から「専攻科服飾美術専攻」の募集を停止する予定である。

【授業内容・教育方法について】

(1)　シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

両学科ともシラバスには、授業概要(ねらい・到達目標など)、授業計画及び展開方法、成績評価方法、教科書等、履修上の受講条件等、学生へのメッセージなど６つの項目が設けられている。授業計画では１回ごとの講義内容が具体的に示され、学生が学期単位でどのような学習を展開していくかを把握しやすいように配慮している。

シラバスは、入学時に冊子として学生に配布している他、大学のホームページに公開し周知を図っている。また、２年次科目については学生の実態に合わせシラバスの内容を変

更することもあり、該当するシラバスを別刷りし、２年次最初のオリエンテーションにおいて再配布している。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

＜人間総合学科＞

「学生による授業評価」（詳細は後述）の結果からは、学生が意欲をもって授業に臨んでいる様子がうかがえる。学科が独自に卒業時に実施している「学生生活に関する調査」においても、２年間を通じて 80%以上の学生がやる気を持って授業に臨んでいる。

（参考資料３：人間総合学科の学生生活に関する調査票
及び「授業に対する学習意欲について」調査結果）

この結果から、学生の自己評価は履修態度、学習意欲は概ね良好であると受け止めているが、近年の学生に向けられている基礎学力の低下、主体性の欠如等の指摘は、本学科においても教員間の情報交換の場で検討されている。

在学中、学生が意欲を持って授業に取り組めるように、シラバス等による授業内容の周知徹底を図り、履修指導時から学習に対する動機付けを行う必要がある。各授業においても担当者は教授法の工夫・改善に努めることに加えて、学生の知的好奇心の涵養、人間的な基礎力、総合力を培うよう教育に当たらなければならないと考えている。

＜こども学科＞

学生の履修態度は、良好である。しかしながら近年、科目選択・適性の理解が不十分なため進路に迷いを見せる学生がおり、学科会議で、各担任から、問題を抱える学生の履修状況、出席状況等が報告される。その他の科目担当の状況と合わせて情報を共有するよう努めている。学生本人との個別面談や保護者とも連絡をとりあい、重大な状況にならないうちに欠席回数への注意・学業努力意欲の喚起、原因の究明と解消に努めている。

学生の中には、講義内容が難しい、グループ学習に抵抗感があるなどの理由で、学業の困難を訴える学生や、授業に集中できない学生もいる。これらの学生が学業不適応に陥らないよう、専任、非常勤講師を含めて、情報交換を行い、学生の把握と対象学生への特別指導を実施するなどきめ細かな対応をしている。

また、学業に対する意欲は取得単位数にも表れるが、両学科の学生の取得単位の状況は《**Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果**》の領域で詳しく述べる。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

平成 15 年度より全学的に「学生による授業評価」を行っている。本学の非常勤を含むすべての教員を対象とし、各教員が担当する１展開クラス（１コマ）について実施している。調査科目は教員が担当する１展開クラスあたりの履修者数が最も多い科目を原則とし、教員が希望する場合は科目を追加しての調査実施も可能である。評価はアンケート調査票への回答（５段階評価法および自由記述）によって行われ、その集計結果(各項目のデータと

平均値・学生からのコメント）は教員へ返却され、教員はその結果に対するコメント(200字以内）を提出する。なお、このコメントは後述の報告書に記載される。

平成16年度よりＦＤ実施委員会を設け、調査結果を資料として『「学生による授業評価」調査結果報告書』を発行し、授業科目名・教員名を除き可能な限り公表開示している。

学生による授業評価結果は、教員に還元されて授業改善に活用される。教員の授業を改善する意識の醸成とともに、授業方法を見直す好機となっている。平成15年から６年間、本学独自に作成した「学生による授業評価」を実施してきたが、平成20年度からは「ＦＤネットワーク“つばさ”」に加入し、他大学と共通の授業評価アンケートを実施する予定である。この実施により本学の特徴があきらかになるとともに、より授業評価の意義が高まることを期待するものである。

(2)　短期大学全体の授業改善(ファカルティ・ディベロップメント(ＦＤ）活動等）への組織的な取組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者(以下「学長等」という)は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

平成16年度より、学長、副学長、学部長、学科長により構成するＦＤ実施委員会および実際のＦＤ運営に携わる教職員によるＦＤ実施小委員会を設けＦＤ活動を開始し、大学・短期大学全体でＦＤ活動に取り組んでいる。活動内容は、各教員の授業改善に資すための学生による授業評価の調査や、専門家を招聘してのＦＤ講演会・ＦＤ研修会(平成16年度～20年度計10回）の開催など実施してきた。平成17年度～19年度にかけては、授業評価の高い教員による授業改善事例発表会と、発表をまとめた「事例集」の発行など本学独自のＦＤ活動を試みた。また平成18年度から毎年２月に実施している「ＦＤに関する卒業予定者との懇談会」においては、卒業予定者(学科・系・専修１～２名選出）から講義内容、講義方法、授業展開、受講態度などの意見を収集し、公表して授業改善に生かしている。

平成20年度は、有志教員による公開授業の実施など積極的な授業能力の開発と改善にも取り組み始めている。また平成21年度からは学生支援を中心に据えた教育支援総合センターがスタートし、その中にＦＤ支援オフィスが開設されている。従前の活動に加えてＧＰＡ導入やＦＤとＳＤとの連携など、より効果的なＦＤ活動を進めていく予定である。

(3)　担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

＜人間総合学科＞

学科設置以来、毎月定例開催される学科会議、随時行われる系別の会議の議題として授業についての情報交換を行い、教員間の共通理解に努めてきた。この間、専門を異にする複数の教員が協働で授業等を展開し、特色ある催しが生まれている。平成21年度は、このような教員相互の協力体制を更に発展させ、コラボレーション授業として「人間総合演習Ａ・Ｂ」を開講している。また、併設大学の生涯学習システム学部芸術メディア学科との間に連携推進委員会を立ち上げ他学部との協力体制が強化されている。

＜こども学科＞

各専修クラスは１年次・２年次生合せて25人程度を担当する４人ずつの専任教員の連携

協力体制で、学生指導を行っている。

毎月開催される学科会議において個々の学生についての情報交換を行い、学科教員の意思疎通を図っている。特に、担任と連絡が取りにくくなっている学生には、他の科目担当教員との協力体制は欠かせない。充実した大学生活を送れるよう学科全教員が担当授業をとおして協力する体制を整えている。他学科教員や非常勤講師などとは、定期的に出席状況や授業態度などの報告を受け、担任から個別指導を行っている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

１年次の後学期以降、他学科及び併設大学（他学部）の一部の科目履修を認めている。履修の条件は、所属学科に開設されていない科目であり、専門性を深めるために必要と判断される科目の場合に限る。

また、札幌圏８大学・４短期大学間の単位互換制度「Ｇreen Ｃampus」に参加している。履修の条件を設け、所属大学での許可を受けた場合に限ることとしている。さらに、放送大学の既習単位を本学開設の科目に読み替え卒業要件単位とする制度を設けている。

海外研修では、ヨーロッパ研修および協定校を利用してのカナダ研修と韓国研修を行っており、教養科目の国際理解の科目として単位認定される。

人間総合学科では、「インターンシップ」を学科専門科目として設定している。インターンシップは大学と地域の連携を推進し、学生にとっては地域の生活感あふれる実習環境が提供され教育成果をあげている。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈添付資料〉２．学生便覧等、学習等について学生に配布している印刷物
３．シラバスあるいは講義要綱

〈参考資料〉２．選択科目の履修について記載している印刷物
３．人間総合学科の学生生活に関する調査票及び「授業に対する学習意欲について」調査結果
４．学生による授業評価票
５．ＦＤ活動の組織(ＦＤ委員会等）についての規程
６．札幌圏大学・短期大学間における単位互換協定書「Ｇreen Ｃampus」及び札幌圏大学・短期大学間における単位互換に関する実施要領

Ⅲ　教育の実施体制

【教員組織について】

(1)　現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

専任教員は、下表のとおりである。短期大学設置基準第 22 条別表第１のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数は、人間総合学科が８名、こども学科が 10 名である。また、同設置基準別表第１のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数は、５名となっている。

本学の専任教員数の現況は、人間総合学科に 15 名、こども学科に 14 名配置されており、いずれも基準を満たしている。

専任教員等の人数

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

学科等名（専攻科含む）	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	［ハ］	備考
	教　授	准教授	講　師	助　教	計	［イ］	［ロ］			
人間総合学科	8	6	1	0	15	8(3)	－	0	0	
こども学科	8	4	2	0	14	10(3)	－	0	0	
（小計）	16	10	3	0	29	18(6)	－	0	0	
［ロ］	0	0	0	0	0	－	5(2)	0	0	
（合計）	16	10	3	0	29	18(6)	5(2)	0	0	

(2)　短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

専任教員の資格と資質を明らかにする個人調書については、別途、履歴書及び教育研究業績書として毎年度、更新整理されている。

（参考資料７：教員の個人調書）

(3)　教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員の採用については、「就業規則」「教育職員任用規程」、「教育職員の任期に関する規程」「特別任用教育職員に関する規程」「外国人教育職員任用基準」「採用・昇任候補者の選定についての申し合せ」に基づき執行されている。教員の昇任については、「給与規程」「採用・昇任候補者の選定についての申し合せ」に基づき執行されている。

採用は、中期経営改善計画の基本方針に基づき、毎年度、各学科から人事委員会に教員編成計画が提出され、審議を経て常勤理事会に付される。その後、公募により当該学科が採用候補者を選定する。採用候補者について人事委員会で判定し、模擬授業・面接を行い、同委員会の最終審議を経て常勤理事会に付議され、採用が決定される。

昇任については「採用・昇任候補者の選定についての申し合せ」に基づき、学部の選考委員会から推薦されて人事委員会にて審議される。同委員会の審議を経て教育職員の昇任・昇格について常勤理事会において決定される。

（参考資料８：教員選考基準を示した規程等）

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員の年齢構成については、下表のとおりである。平均年齢は 52.2 歳と若干高い。特に、教員養成、保育士養成を主たる目的とするこども学科においては、教育職の経験豊富な教員を多数配置していることが年齢を引き上げる要因となっている。

専任教員等の年齢構成表（短期大学全体で作成）

（年齢は平成 21 年 4 月 1 日現在）

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)							助手等の平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平均年齢		
合計人数（29 人）	0 人	12 人	8 人	3 人	3 人	3 人	52.2 歳	－	
割合	0.0%	41.3%	27.5%	10.4%	10.4%	10.4%			

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記４つの分野の業務取組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去３ケ年(平成１８年度～２０年度) 程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

授業、研究、学生指導及びその他の研究教育上の業務に対して、各教員は担当職務に意欲的に取り組んでいる。人間総合学科の専任教員はこの他に体育系、文化系にかかわらずクラブサークル指導者として熱心に関わり、また、コンテストの出品の指導に授業以外の時間を積極的にあてている。本学の課外活動の成績や発表作品の高い評価の伝統を支えており、学生の満足度を高めている。こども学科の教員の多くは教職・保育者の経験を生かし、教育・保育実習指導や授業研究指導などに意欲的に取り組んでいることが学生の満足度を高めているだけではなく、長年にわたり教員養成を支えている。

専任教員の授業担当コマ数・研究業績・業務

学科名	氏　名	職名	授業担当コマ数			研究業績（過去 3 ヶ年）	主たる担当業務（20 年度 5/1 現在）
			18 年度	19 年度	20 年度		
人間総合学科	泉山幸代	教授	14.5	15.5	15.5	論文 2、学会発表 4、その他 3	教務副委員長（ＦＤ担当）
	小原信夫	教授	－	－	－	なし	H21.4.1 採用
	菊地はるひ	教授	15.0	14.0	13.0	論文 4、学会発表 7	ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ副委員長、入試総務委員
	北村悦子	教授	15.0	15.5	15.5	その他 1	ｾｸｼｬﾙ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止対策委員、ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ副委員長

	作原ひとみ	教授	9.0	9.0	10.0	その他 4	実習支援ｾﾝﾀｰ委員
	田口智子	教授	10.0	8.0	10.0	著書 1、論文 3、学会発表 1	ｷｬﾘｱ支援ｾﾝﾀｰ副委員長
	辻　美恵子	教授	16.0	17.0	16.0	その他 2	実習支援ｾﾝﾀｰ委員
	畠山孝子	教授	8.0	10.0	11.0	論文 3、学会発表 2	学科長、運営連絡委員、点検評価委員、人事委員、ＦＤ実施委員、入試総務委員
	大信田静子	准教授	15.5	16.5	13.5	論文 3	学生副委員長
	大林のり子	准教授	15.0	14.0	15.0	論文 2、学会発表 3、その他 10	教務委員
	千葉直樹	准教授	13.0	14.0	15.4	著書 2、論文 2、学会発表 5	実習支援ｾﾝﾀｰ委員
	田　光子	准教授	12.0	13.0	13.0	論文 3、その他 2	国際交流ｾﾝﾀｰ副委員長
	花井篤子	准教授	11.8	－	12.8	著書 4、論文 10、学会発表 10、その他 6	体育管理ｾﾝﾀｰ副委員長 平成 19 年度は育児休暇
	湯澤直樹	准教授	12.0	13.0	13.0	なし	学生委員
	佐藤晋也	講師	13.0	16.0	15.0	論文 4、学会発表 7、その他 5	教務委員
	平均担当コマ数		12.8	13.5	13.4		
こども学科	伊藤和幸	教授	11.0	9.0	10.0	その他 4	学生相談室相談員
	川村道夫	教授	6.0	11.0	11.0	その他 28	ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ委員
	桑原雅子	教授	10.0	7.0	12.0	なし	生涯学習ｾﾝﾀｰ委員
	紺野忠一郎	教授	6.0	8.0	8.0	なし	実習支援ｾﾝﾀｰ副委員長、教員養成ｶﾘｷｬﾗﾑ委員
	佐藤　慧	教授	8.0	10.0	10.0	著書 1、その他 1	学科長、運営連絡委員、点検評価委員、人事委員、ＦＤ実施委員、入試総務委員
	晴山紫恵子	教授	2.0	8.0	6.0	著書 1、論文 7、学会発表 2、その他 2	副学長、運営連絡委員、点検評価委員、人事委員、ＦＤ実施委員、入試総務委員、北方圏生涯ｽﾎﾟｰﾂ研究ｾﾝﾀｰ委員
	藤井由美子	教授	－	－	－	著書 1、論文 3	H21.4.1 採用
	水谷一郎	教授	14.0	12.0	13.0	なし	国際交流ｾﾝﾀｰ委員長、運営連絡委員、点検評価委員
	青池美紀	准教授	9.0	13.0	11.0	論文 4、学会発表 1	ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ高等学校訪問ﾁｰﾑ
	菊地達夫	准教授	9.0	11.0	8.0	著書 1、論文 17、学会発表 1	教務副委員長
	澤田悦子	准教授	12.0	14.0	13.0	論文 6、学会発表 5、その他 6	教務委員
	谷本百子	准教授	10.0	10.0	9.0	著書 2、論文 2、その他 22	ｷｬﾘｱ支援ｾﾝﾀｰ委員、実習支援ｾﾝﾀｰ委員
	山川彩子	講師	－	－	10.0	論文 1、その他 10	学生委員
	大宮真一	講師	－	－	－	論文 14、学会発表 3	H21.4.1 採用
	平均担当コマ数		8.8	10.2	10.0		

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を充分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

平成 18 年度より学生数の減少傾向に伴い、学生規模に見合った教職員体制の柱の一つとして策定した中期経営改善計画の見とおしの下に実習助手の削減を図った。教員は事態を充分に理解し、学生数の減少に見合った対応の工夫および大学院生のティーチングアシスタント制度の活用を図っている。また、施設管理課の職員や体育管理センター職員及びパート職員を配置し授業に関する支援を行っている。このように教員と事務職員の連携を強め、教育研究活動の水準の維持に努めている。

(7) ２以上の校地(校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

記載事項なし

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。
校舎について、まず短期大学設置基準第３１条(通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第１０条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

校舎・校地一覧表

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有	差異
北翔大学 短期大学部	580 人	㎡ 5,350.00	㎡ 7,819.03	㎡ 2,469.03	㎡ 5,800.00		㎡ -5,800.00
北翔大学	2,345 人	㎡ 17,994.00	㎡ 38,806.47	㎡ 20,812.47	㎡ 23,450.00		㎡ -23,450.00
その他共用			㎡ 19,468.00	㎡ 19, 468.00		㎡ 128,186.59	
計		㎡ 23,344.00	㎡ 66,093.50	㎡ 42,749.50	㎡ 29,250.00	㎡ 128,186.59	㎡ 98,936.59

【基準校地面積】

1）北翔大学短期大学部：収容定員 580 名×10 ㎡＝5,800 ㎡

2）北翔大学収容定員 2,345 名×10 ㎡＝23,450 ㎡

3）2 校合計 5,800 ㎡＋23,450 ㎡＝29,250 ㎡

【基準校舎面積】

１）北翔大学短期大学部

(1)収容定員 100 人までの場合の基準校舎面積比較

①人間総合学科：（経済学関係 1,600 ㎡＋家政関係 2,000 ㎡＋体育関係 1,700 ㎡＋美術関係 1,900 ㎡＋音楽 1,700 ㎡）÷5＝1,780 ㎡

②こども学科：教育学・保育学関係 2,000 ㎡

③人間総合学科 1,780 ㎡＜こども学科 2,000 ㎡

(2)基準校舎面積

こども学科（収容定員 280 名）：教育学・保育学関係 300 人までの場合＝2,850 ㎡

(3)加算校舎面積

人間総合学科（収容定員 300 名）：（経済学関係 1,800 ㎡＋家政関係 2,050 ㎡＋体育関係 2,200 ㎡＋美術関係 3,300 ㎡＋音楽関係 3,150 ㎡）÷5＝2,500 ㎡

(4)北翔大学短期大学部基準校舎面積

こども学科基準校舎面積 2,850 ㎡＋人間総合学科加算校舎面積 2,500 ㎡＝5,350 ㎡

２）北翔大学

(1)基準校舎面積比較

①人間福祉学部（収容定員 990 名）

社会学･社会福祉学関係（990－800）×1,322÷400＋4,958＝5,585 ㎡

②生涯学習システム学部（収容定員 1,195 人）

健康プランニング学科 4,209 ㎡＋芸術メディア学科 3,904 ㎡＋学習コーチング学科 3,172 ㎡＝11,285 ㎡

ｱ)健康プランニング学科（収容定員 490 人）

教育学･保育学関係（490－400）×1,653÷400＋3,305＝3,676 ㎡

体育関係（490－400）×1,983÷400＋4,297＝4,743 ㎡

∴（教育学･保育学関係 3,676 ㎡＋体育関係 4,743 ㎡）÷2＝4,209 ㎡

ｲ)芸術メディア学科（収容定員 345 人）

教育学･保育学関係（345－200）×661÷200＋2,644＝3,123 ㎡

美術関係（345－200）×959÷200＋3,834＝4,529 ㎡

音楽関係（345－200）×859÷200＋3,438＝4,060 ㎡

∴（教育学･保育学関係 3,123 ㎡＋美術関係 4,529 ㎡＋音楽関係 4,060 ㎡）÷3＝3,904 ㎡

ｳ)学習コーチング学科（収容定員 360 人）

教育学･保育学関係（360－200）×661÷200＋2,644＝3,172 ㎡

③生涯スポーツ学部スポーツ教育学科（収容定員 160 人）

教育学･保育学関係 2,644 ㎡、体育関係 3,438 ㎡

∴（教育学･保育学関係 2,644 ㎡＋体育関係 3,438 ㎡）÷2＝3,041 ㎡

④生涯スポーツ学部 3,041 ㎡＜人間福祉学部 5,585 ㎡＜生涯学習システム学部 11,285 ㎡

(2)基準校舎面積

生涯学習システム学部（収容定員 1,195 人）11,285 ㎡

(3)加算校舎面積

①人間福祉学部（収容定員 990 人）社会学･社会福祉学関係 4,462 ㎡

②生涯スポーツ学部（収容定員 160 人）

（教育学･保育学関係 1,719 ㎡＋体育関係 2,776 ㎡）÷2＝2,247 ㎡

(4)北翔大学基準校舎面積

生涯学習システム学部 11,285 ㎡＋人間福祉学部 4,462 ㎡＋生涯スポーツ学部 2,247 ㎡＝17,994 ㎡

３）2 校合計 5,350 ㎡＋17,994 ㎡＝23,344 ㎡

（参考資料９：校舎、校地に関する図面）

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

校地・校舎等施設は、短期大学と大学が同一キャンパス内に共有されている。校舎面積は、短期大学専用校舎面積 7,819 ㎡、大学・短期大学共有校舎 19,468 ㎡(大学専用校舎面積 38,806 ㎡)であり、教育・研究及び学習環境は整備されている。

語学演習室 ３室、情報処理演習室 ５室、実験・実習室 114 室、ゼミ室 38 室、研究室 146 室、体育等実習場(館)４室、その他の体育・スポーツ施設(プール含む)９室等、本学の特色である実学中心の授業展開にふさわしい環境が整備されている。その他、食堂等福利厚生施設、研修施設、サークル部室など大学と共用としているが、教育・研究・学習環境に支障はない。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内ＬＡＮ、ＬＬ教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。

学内ＬＡＮに接続される情報機器の管理・整備は事務局ＦＤ支援オフィスで行い、学内ＬＡＮに接続しない情報機器で個別部門に属さない機器の管理・整備は施設管理課において行う。それ以外は個別部門において管理している。特に、ＩＴ関連機材は短期更新が必要であり、高額になることから、年次計画で整備を行っている。平成 21 年度更新時に学生自習(室)用の機器を整備することにしている。

パソコン教室等整備状況

教室名	機種	数量	平成 20 年度使用頻度
第 1 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室	Windows (教員用含む) ﾓﾉｸﾛﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ ｶﾗｰﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ・ﾈｯﾄﾜｰｸｽｷｬﾅ・MD ﾚｺｰﾀﾞｰ・ﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞｰ・CD/DVD ﾌﾟﾚｰﾔｰ・DVD ﾋﾞﾃﾞｵﾚｺｰﾀﾞ・教材提示装置	58 2 各 1	北翔大学と共用 前期 24.0 時間/週、後期 18.0 時間/週
第 2 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室	Windows (教員用含む) MO 装置・MD ﾃﾞｯｷ ﾓﾉｸﾛﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ ｶﾗｰﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ・ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾎﾞｰﾄﾞ	54 54 6 各 1	北翔大学と共用 前期 16.5 時間/週、後期 18.0 時間/週
情報ｽﾀｼﾞｵ 1	Windows (教員用含む) ﾓﾉｸﾛﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ 80 ｲﾝﾁﾓﾆﾀ	35 5 1	北翔大学と共用 前期 3.0 時間/週、後期 3.0 時間/週
情報ｽﾀｼﾞｵ 2	Windows (教員用含む) ﾓﾉｸﾛﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ ｶﾗｰﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ・ﾈｯﾄﾜｰｸｽｷｬﾅ・MD ﾚｺｰﾀﾞｰ・ﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞｰ・CD/DVD ﾌﾟﾚｰﾔｰ・DVD ﾋﾞﾃﾞｵﾚｺｰﾀﾞ・教材提示装置	58 2 各 1	北翔大学と共用 前期 30.0 時間/週、後期 21.0 時間/週
第 1LL 教室	MAC G4 (教員用含む) ｶﾗｰﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ ﾈｯﾄﾜｰｸｽｷｬﾅ・MD ﾚｺｰﾀﾞｰ・ﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞｰ・CD/DVD ﾌﾟﾚｰﾔｰ・教材提示装置・ﾋﾞﾃﾞｵ	55 2 各 1	北翔大学と共用 前期 19.5 時間/週、後期 21.0 時間/週

第 2LL 教室	ﾋﾞｸﾀｰ・ﾗｰﾆﾝｸﾞﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰｼｽﾃﾑ LL-6700 ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙﾋﾞﾃﾞｵﾋﾞｭｰｱ AV-110、その他	44 1	北翔大学と共用 前期 16.5 時間/週、後期 7.5 時間/週
第 3LL 教室	ｺｰﾙｼｽﾃﾑ：ALSI、Ｃalabo2000 for Mac OS X MIDI KEYBOAD CONTROLLER PCR-M30 ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋﾞｭｰｱ AV-P950	67 67 1	北翔大学と共用 前期 18.0 時間/週、後期 13.5 時間/週
ｴﾃﾞｨﾃｨﾝｸﾞｽﾀｼﾞｵ 1	HP ﾜｰｸｽﾃｰｼｮﾝ XW－8000(9 台)、ｱｲﾏｯｸ PC(1 台) ﾊﾟﾜｰﾏｯｸ PC(3 台)、その他	15	北翔大学と共用 前期 7.5 時間/週、後期 6.0 時間/週
ｴﾃﾞｨﾃｨﾝｸﾞｽﾀｼﾞｵ 2	ｱｲﾏｯｸ PC(2 台)、ﾃﾞﾙｻｰﾊﾞｰ(3 台)、その他	10	北翔大学と共用 前期 3.0 時間/週、後期 1.5 時間/週
CAD 実習室	Windows ｱﾊﾟﾚﾙ CAD (教員用含む) ﾓﾉｸﾛﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ Windows ｻｰﾊﾞ・ｱﾊﾟﾚﾙ CAD 用ﾌﾟﾛｯﾀｶｯﾀ・映像装置	19 3 各 1	前期 12.0 時間/週、後期 4.5 時間/週

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。２以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

授業展開には視聴覚機器・備品が欠かせないツールになっており、ほぼ全ての講義室、演習室、実習室に配備している。特に視聴覚機器を活用した授業は、教育効果への期待が大きいことから、活用の研究とともに量的・質的な整備が必要である。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

１）校地、校舎の安全性

校地は毎年度、点検の上、安全性とメンテナンス及び衛生上からの環境整備を実施している。校舎等も毎年度、以下の各法定検査を実施し合格基準を満たしている。

≪特殊建築物等の定期報告、消防用設備等点検結果報告、空気環境測定業務、ばい煙測定業務、ねずみ昆虫等防除業務、水質検査業務、貯水槽清掃及び消毒業務、汚水槽清掃業務、地下重油タンク漏洩検査≫

２）障がい者への対応

エレベーターの設置箇所は、講義棟校舎２カ所(６号棟・７号棟)、厚生施設２カ所(カレッジホール)、図書館１カ所、研究センター２カ所設置されている。平成９年度以降の建設校舎等(３棟)はスロープ設置、引き戸設置、障がい者用トイレの設置がなされている。主要な出入り口は全て自動開閉扉にしているが、スロープが設置されている箇所は２カ所となっている。

３）運動場、体育館、学生の休息場所等

運動場は、短期大学部と併設大学の共用で 411,311.00 ㎡の運動場敷地を有しており、陸上グランド、テニスコート、野球グランド、多目的グランド(サッカー・ラクロス)が整備されている。

体育館は、第１体育館（４階建て、6,208.55 ㎡）、第２体育館（平屋、1,568.93 ㎡）、その他北方圏生涯スポーツ研究センター（６階建て、11,603.95 ㎡）内に多目的ホール、ジムナスホール、スポルホール等を有しており、運動場とともに、スポーツ科学系の授業を中心にこども学科の授業や、学生の課外活動に利用されている。

学生の休息場所については、《**Ⅴ学生支援**》**【学生生活支援体制について】**(3)のとおりである。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

図書館は地上３階建であり、面積は 2,299.08 ㎡で座席数は 298 席である。図書 171,458 冊、雑誌 2,828 種、視聴覚資料 7,748 点を所蔵する。教育･スポーツ･福祉･芸術･経営などを中心に幅広い分野の蔵書で構成し、資料形態も紙媒体･Web 資源両方の充実を図っている。国内･海外学術文献、医学系文献などに対応する６種のオンライン･データベース、約 1,000 種の電子ジャーナルが学内および一部学外で利用可能である。

館内は「個人学習ゾーン」と「グループ学習ゾーン」に分かれ、数人で同じ資料を使いながらディスカッションする利用方法と、一人で資料を調べる従来型の利用方法とが両立している。また、１階入口付近に受付カウンター、ＰＣコーナー、雑誌、新聞、視聴覚資料、参考図書、レポート･論文関連図書、資格･就職関連図書、科目関連図書（テキスト･指定図書･参考資料を科目ごとにまとめたコーナー）、ＦＤ/ＳＤ関連図書等を集め、効率のよい利用環境を提供している。

利用者教育支援業務は、「新入生オリエンテーション」と、主に２年次学生を対象としてレポート･論文作成を支援する「情報検索ガイダンス」とに分かれる。平成 20 年度は年間実施回数 27 回、参加人数 299 人のうち 230 人が１年次学生である。電子ジャーナル、文献データベースの利用促進のため、提供社および図書館職員による利用講習会を毎年実施している。

(1) 全体の配置、座席数

（平成 21 年 3 月 31 日現在）

フロア	フロア名称･用途	主な資料	面積（㎡）	収納冊数	座席数
3 階	閲覧室：個人学習ゾーン	一般図書	630.59	47,829	92
2 階	閲覧室：個人学習ゾーン 視聴覚室、書庫	一般図書 白書･年鑑、貴重書	762.96	69,534	93
1 階	受付カウンター、 閲覧室：グループ学習ゾーン 文献検索（PC）、印刷、複写	一般図書、参考図書 学術雑誌、一般雑誌 視聴覚資料	905.53	61,491	113
合　計			2,299.08	178,854	298

※北翔大学と共用

(2) 年間図書館予算

（単位：千円）

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
総予算	59,734	55,730	45,341	40,917	39,263
資料費	48,849	44,756	35,954	34,313	32,810
総予算（%）	81.8%	80.3%	79.3%	83.9%	83.6%
図書購入費	30,500	24,400	22,020	21,000	19,000
雑誌購入費	14,000	15,550	10,800	10,010	10,100
その他資料費	4,349	4,805	3,134	3,303	3,710

※北翔大学と共用

※資料費は図書購入費、雑誌購入費（電子ジャーナル含む）、その他資料費（新聞費、データベース使用料）の合計

(3) 購入図書等選定システム

購入図書は「教員選定」「学生希望」「司書選定」により選定する。「教員選定」「学生希望」は随時受け付け、「司書選定」は図書館職員が行う。

(4) 図書等廃棄システム

固定資産とした資料で、①紛失資料で、所在不明となって２年を経過したもの、②破損･汚損･摩耗等が甚だしく補修不能なもの、③資料価値を失ったもの、④その他館長が除籍を適当と認めたもの、⑤不慮の事故、災害、その他によって滅失したものに該当するものを、所定の手続きによって除籍する。除籍した資料を所定の手続きによって廃棄する。主なものは紛失資料であるが、平成 20 年度の除籍資料はない。

(5) 司書数

館長（兼任）１名、副館長（兼任）１名、専任職員４名、臨時職員１名のうち、専任職員４名が司書資格を有している。

(6) 情報化の進捗状況

図書・雑誌・視聴覚資料の発注・受入・目録・所蔵登録、文献複写・現物貸借、貸出・返却・更新・予約・督促処理、会計・統計処理等、図書館業務全般を図書館システムで行っている。学生が個人ＩＤで管理する利用者個人ページを提供し、資料検索結果の保存、貸出等利用状況の確認、図書館からの各種連絡の受信が可能である。

図書館ホームページでは、Web-OPAC 蔵書検索、文献データベース、電子ジャーナル、電子ブック、地域･国内･海外の図書館、学協会等学術情報サイトへのリンク等を提供しているほか、図書館報Web 版のなかで学生・教員からの推薦図書、資料別利用ランキングを公開している。また、Web-OPAC は携帯電話からも利用可能である。

(2) 図書館等に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、ＡＶ資料数等）を下表を例に作成して下さい。

図書館等蔵書数一覧

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

区　分	和　書	洋　書	学術雑誌	ＡＶ資料
冊(種)	154,358 冊	17,100 冊	2,830 種	7,748 点

※併設の北翔大学と共用

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

図書館入口付近に雑誌、新聞、参考図書、新着図書、指定図書、推薦図書、視聴覚資料、文庫・新書、ＰＣ等を配置し、学生の利用促進を図っている。

ＰＣではレポート･論文作成時に利用できるよう事典･辞書等データベース『ジャパンナレッジ(平成 21 年度新規導入)』ほか各種情報データベースを導入している。オンライン･データベースはすべて学内のコンピュータ室･研究室(一部は学外）のＰＣからも利用できる。開館時間延長(平日 9:00～20:00、土曜日 9:00～15:00）後は、館内のＰＣを閉館間際まで利用する学生が目立つようになった。

閲覧室には独立した「グループ学習室」は設置していないが、学生が利用目的により使い分けられるように、平成 19 年度後期からグループ学習ゾーン（１階）と個人学習ゾーン（２・３階）とに分けている。

学生の図書館利用促進と学習支援のため利用指導を積極的に実施している。新入生全員対象のオリエンテーションをはじめ、平成 14 年度から大学３・４年次、短期大学２年次の学生を対象に始めた文献調査のための情報検索ガイダンスは、その後１年次生の参加も増えたため、現在は情報リテラシーに関する科目の内容にも組み込み指導の機会を増やしている。さらに最近では個人単位での申込みが増え、学生から学生へと図書館利用の方法が伝達されているという実感がある。

過去５年間の利用状況

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
開館日数	261	253	257	257	247
入館者数	115,174	118,581	102,541	88,459	76,672
学生数	3,594	3,565	3,413	3,119	2,714
学生貸出･閲覧回数	29,452	28,918	24,455	24,512	21,520
学生１人当たり貸出･閲覧回数	8.2	8.1	7.1	7.8	7.9
学生図書貸出回数	25,403	24,867	20,475	21,657	19,693
学生視聴覚資料貸出･閲覧回数	2,099	2,112	2,602	1,891	1,061
うち映像資料閲覧回数	1,029	1,117	1,755	1,206	663
学生文献複写依頼	197	613	762	654	353
新入生オリエンテーション参加人数	824	703	644	590	590
情報検索ガイダンス参加人数	96	461	200	335	299

※北翔大学と共用

(4) 図書館等から学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

図書館ホームページにより学内外への情報発信を行っている。主な内容は、OPAC(蔵書検索システムによる所蔵情報)、利用案内、図書館報など図書館の紹介のほか、図書･雑誌記事･論文等の資料を探すためのオンライン･データベース、電子ジャーナル、本学の研究紀要などの資料へのリンク機能である。

地域開放は平成 15 年度から 18 歳以上の一般市民対象に実施しているほか、地域の高校生･中学生のインターンシップを積極的に受け入れ、高等教育の場に触れる機会を提供している。また、「北海道大学図書館相互利用サービス(国公私立 21 大学のコンソーシアム)」に参加し、参加大学の学生･教員は所属の身分証で相互の閲覧･貸出が可能である。日本(および韓国) の国公私立大学図書館、公共図書館とのＩＬＬ(図書館間相互協力) 連携も既に実施している。

北海道地区大学図書館協議会に加盟し、平成 19 年度は同協議会の総会、平成 20 年度は職員研究集会の当番校として会場を提供した。平成 21 年度、22 年度は北海道地区私立大学図書館協議会の幹事館に加わり、地域の私立大学の図書館活動に貢献していきたい。

学内では、大学祭等行事への積極的な参加、学生アルバイトの採用などにより学生との連携を図っているほか、図書館報掲載記事の学生への原稿依頼により、学生自身が情報を発信できる場を提供している。また、保護者懇談会などの機会を活用し、図書館活動への理解が深まるような情報提供を行っている。

【特記事項について】

(1)　この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

外国人教員の採用として、大韓民国籍の田光子（チョン・クワンジャ）先生による韓国語の授業を行っている。その授業の成果は、培花女子大学（大韓民国）の姉妹提携校との相互交流につながっている。授業の公開は、培花女子大学からの研修学生、高等学校教員、中高校生に対して、見学や授業参加を行っている。

(2)　特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈参考資料〉７．教員の個人調書(①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目等、④その他)
８．教員選考基準を示した規程等
９．校舎、校地に関する図面(全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途(室名)を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等)
10．図書館等の規程

Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果

【単位認定について】

(1)　次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。
　　なお、この表は平成２０年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

人間総合学科の単位認定の状況

種別		授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
	ｶﾃｺﾞﾘｰ					本試・再試等	優	良	可	不可
全学共通科目	基礎	人間学	講義	124	課題提出	99.2	46.0	42.7	10.5	0.8
		倫理学	講義	44	最終試験、課題提出	95.5	22.7	36.4	36.4	4.5
		宗教学	講義	14	課題提出	50.0	14.3	21.4	14.3	50.0
		文学	講義	50	課題提出	90.0	28.0	28.0	34.0	10.0
		芸術論	講義	21	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	52.4	23.8	19.0	9.5	47.6
		心理学	講義	78	最終試験	71.8	44.9	16.7	10.3	28.2
		社会学	講義	39	最終試験	76.9	46.2	17.9	12.8	23.1
		法学	講義	27	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	88.9	48.1	29.6	11.1	11.1
		政治学	講義	12	最終試験、課題提出	75.0	33.3	25.0	16.7	25.0
		経済学	講義	19	最終試験	68.4	21.1	26.3	21.1	31.6
		ｼﾞｪﾝﾀﾞｰｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ	講義	21	最終試験	81.0	14.3	47.6	19.0	19.0
		日本文化論	講義	35	最終試験、課題提出	77.1	17.1	28.6	31.4	22.9
		環境科学	講義	13	最終試験	53.8	23.1	15.4	15.4	46.2
		韓国語と文化(基礎)	講義	15	最終試験、課題提出	86.7	40.0	40.0	6.7	13.3
		韓国語と文化(発展)	講義	11	最終試験、課題提出	90.9	90.9	0.0	0.0	9.1
		中国語と文化(基礎)	講義	11	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	90.9	27.3	45.5	18.2	9.1
		中国語と文化(発展)	講義	1	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		ﾄﾞｲﾂ語と文化(基礎)	講義	6	最終試験	83.3	33.3	50.0	0.0	16.7
		ﾄﾞｲﾂ語と文化(発展)	講義	3	最終試験	66.7	33.3	0.0	33.3	33.3
		ﾌﾗﾝｽ語と文化(基礎)	講義	7	最終試験、課題提出	57.1	0.0	57.1	0.0	42.9
		ﾌﾗﾝｽ語と文化(発展)	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		特別講義 大学の未来	講義	0	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		特別講義 学問への招待	講義	0	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		外国の歴史と文化	講義	1	最終試験、課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

種別		授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
	ｶﾃｺﾞﾘｰ					本試・再試等	優	良	可	不可
全学共通科目	基礎	日本国憲法	講義	63	最終試験、課題提出	88.9	15.9	49.2	23.8	11.1
		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	演習	123	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	64.2	24.4	11.4	0.0
		情報機器操作	演習	123	最終試験、課題提出	100.0	58.5	29.3	12.2	0.0
		地域文化YOSAKOIｿｰﾗﾝ祭り(音楽)	講義実技	7	課題提出	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0
		地域文化YOSAKOIｿｰﾗﾝ祭り(演出)	講義実技	4	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		ｷｬﾘｱ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	講義	47	課題提出	70.2	55.3	12.8	2.1	29.8
		日本語 *留学生科目	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		日本の歴史と文化 *留学生科目	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学部共通科目	基礎	ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	講義	30	課題提出	76.7	53.3	23.3	0.0	23.3
		英語事情	講義	14	課題提出	64.3	64.3	0.0	0.0	35.7
		体育理論	講義	41	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	63.4	29.3	7.3	0.0
		文章表現	講義	13	最終試験	76.9	76.9	0.0	0.0	23.1
		人間関係論	講義	17	最終試験	47.1	29.4	17.6	0.0	52.9
		生涯学習論	講義	29	最終試験、課題提出	100.0	51.7	41.4	6.9	0.0
		音楽と生活	講義	26	課題提出、受講態度・参加意欲	88.5	50.0	26.9	11.5	11.5
学科専門科目	系共通科目	総合ｾﾐﾅｰA	演習	120	最終試験、受講態度・参加意欲	99.2	81.7	11.7	5.8	0.8
		総合ｾﾐﾅｰB	演習	118	最終試験	99.2	52.5	31.4	15.3	0.8
		情報機器操作Ⅱ	演習	119	課題提出	98.3	47.9	34.5	16.0	1.7
		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	演習	119	課題提出、受講態度・参加意欲	99.2	80.7	7.6	10.9	0.8
	生涯学習	生活経営学	講義	8	課題提出、受講態度・参加意欲	75.0	12.5	50.0	12.5	25.0
		生活美学	講義	30	最終試験	93.3	50.0	40.0	3.3	6.7
		遊びと文化	講義	18	最終試験	61.1	33.3	22.2	5.6	38.9
		人間と生きがい	講義	18	最終試験	100.0	44.4	44.4	11.1	0.0
		生涯学習の展開	講義	14	最終試験、課題提出	71.4	28.6	0.0	42.9	28.6
		生涯ｽﾎﾟｰﾂ	実技	18	受講態度・参加意欲	88.9	72.2	11.1	5.6	11.1
		ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論(含実技)	講義	35	最終試験	91.4	31.4	17.1	42.9	8.6
		野外活動	演習	4	課題提出、受講態度・参加意欲	25.0	25.0	0.0	0.0	75.0
		食物と栄養	講義	15	最終試験、課題提出	100.0	46.7	13.3	40.0	0.0
		調理実習	実習	4	最終試験	75.0	75.0	0.0	0.0	25.0
		住居学(含製図)	講義	11	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	45.5	27.3	27.3	0.0
		保育学	講義	0	課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		社会福祉論	講義	11	最終試験	90.9	72.7	18.2	0.0	9.1

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
		ｶﾃｺﾞﾘｰ					本試・再試等	優	良	可	不可
学科専門科目	系共通科目	福祉	福祉心理学	講義	14	最終試験	85.7	57.1	21.4	7.1	14.3
			ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ介護論	講義	2	最終試験	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			障害児教育論	講義	21	最終試験、受講態度・参加意欲	38.1	4.8	28.6	4.8	61.9
		地域課題	地域政策論	講義	12	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			地域経済論	講義	23	最終試験	95.7	65.2	26.1	4.3	4.3
			地域課題研究(含調査論)	講義	0	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			北海道の生活と自然	講義	7	最終試験、課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			観光論	講義	18	最終試験、課題提出	72.2	27.8	22.2	22.2	27.8
			ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾜｰｸ	講義	12	最終試験、受講態度・参加意欲	75.0	66.7	8.3	0.0	25.0
			ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	演習	8	受講態度・参加意欲	62.5	62.5	0.0	0.0	37.5
			現代社会と就職	講義	20	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	40.0	45.0	15.0	0.0
		服飾美術	被服材料学	講義	24	最終試験	79.2	33.3	16.7	29.2	20.8
			手芸	演習	24	最終試験	79.2	33.3	45.8	0.0	20.8
			被服造形実習(洋裁)Ⅰ	実習	26	最終試験	100.0	53.8	46.2	0.0	0.0
			被服造形実習(ﾌｧｯｼｮﾝとﾘﾌｫｰﾑ)	実習	8	最終試験、課題提出	75.0	75.0	0.0	0.0	25.0
			衣生活文化論	講義	25	最終試験	88.0	32.0	48.0	8.0	12.0
			色彩学	講義	44	課題提出	86.4	20.5	43.2	22.7	13.6
			ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅰ	演習	24	最終試験、課題提出	95.8	50.0	45.8	0.0	4.2
			ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽA	講義	30	最終試験	96.7	33.3	53.3	10.0	3.3
			基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝ	実習	23	最終試験	100.0	26.1	56.5	17.4	0.0
			被服造形論	講義	23	最終試験	95.7	56.5	39.1	0.0	4.3
		科学スポーツ	体育・ｽﾎﾟｰﾂ論	講義	38	最終試験	97.4	60.5	21.1	15.8	2.6
			ﾌｨｯﾄﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	実技	38	最終試験	94.7	92.1	2.6	0.0	5.3
		養護保健	看護学概論	講義	11	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	27.3	18.2	54.5	0.0
			解剖生理学	講義	11	最終試験、課題提出	100.0	18.2	0.0	81.8	0.0
			栄養科学(含食品学)	講義	18	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	94.4	11.1	22.2	61.1	5.6
			救急処置	講義	13	最終試験、課題提出	84.6	0.0	0.0	84.6	15.4
		経営情報	生活と経済	講義	26	最終試験	100.0	88.5	11.5	0.0	0.0
			企業と経営	講義	19	最終試験	68.4	68.4	0.0	0.0	31.6
			秘書概論	講義	31	最終試験、受講態度・参加意欲	93.5	67.7	19.4	6.5	6.5
			簿記原理Ⅰ	講義	29	最終試験、課題提出	100.0	48.3	41.4	10.3	0.0
			情報学基礎	講義	29	課題提出	89.7	58.6	20.7	10.3	10.3
			ｿﾌﾄｳｪｱ概論	講義	26	最終試験、課題提出	80.8	30.8	19.2	30.8	19.2

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
		カテゴリー					本試・再試等	優	良	可	不可
学科専門科目	系専門科目		ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ概論	講義	21	最終試験	85.7	85.7	0.0	0.0	14.3
		舞台芸術	舞台芸術概論	講義	20	最終試験、課題提出	95.0	20.0	60.0	15.0	5.0
			舞台美術論	講義	24	最終試験、受講態度・参加意欲	79.2	58.3	20.8	0.0	20.8
			演劇史(含美術史)	講義	22	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	72.7	27.3	0.0	0.0
		服飾美術	衣環境学	講義	26	最終試験、課題提出	76.9	30.8	30.8	15.4	23.1
			服装史	講義	25	最終試験	76.0	24.0	28.0	24.0	24.0
			服装心理学	講義	26	最終試験	80.8	7.7	53.8	19.2	19.2
			染色	演習	21	最終試験	90.5	76.2	9.5	4.8	9.5
			製帽	演習	18	最終試験	94.4	50.0	44.4	0.0	5.6
			服飾ﾃﾞｻﾞｲﾝ(含演習)	講義演習	18	最終試験、課題提出	88.9	22.2	66.7	0.0	11.1
			被服整理学	講義	25	最終試験	88.0	16.0	24.0	48.0	12.0
			被服材料学実験	実験	8	最終試験	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
			被服造形実習(洋裁)Ⅱ	実習	20	最終試験	95.0	70.0	15.0	10.0	5.0
			被服造形実習(洋裁)Ⅲ	実習	16	最終試験	100.0	81.3	18.8	0.0	0.0
			被服造形実習(洋裁)Ⅳ	実習	17	最終試験	100.0	94.1	5.9	0.0	0.0
			被服造形実習(和裁)	実習	17	最終試験	94.1	35.3	52.9	5.9	5.9
			ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ演習	演習	17	課題提出	70.6	58.8	11.8	0.0	29.4
			ｽﾃｰｼﾞ総合実習(含ﾒｲｸ)	実習	16	課題提出	100.0	93.8	6.3	0.0	0.0
			ﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰﾄ	演習	15	最終試験	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0
			現代ﾌｧｯｼｮﾝ論	講義	27	最終試験	92.6	7.4	25.9	59.3	7.4
			ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅱ	演習	23	最終試験、課題提出	100.0	47.8	47.8	4.3	0.0
			ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽB	講義	17	最終試験、課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			ﾌｧｯｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論(含演習)	講義演習	18	最終試験	94.4	94.4	0.0	0.0	5.6
			ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ演習Ⅰ	演習	26	最終試験	100.0	34.6	38.5	26.9	0.0
			ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ演習Ⅱ	演習	24	最終試験	100.0	62.5	37.5	0.0	0.0
			ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ実習	実習	14	最終試験	92.9	64.3	28.6	0.0	7.1
			ｱﾊﾟﾚﾙCADⅠ	演習	24	最終試験	95.8	25.0	33.3	37.5	4.2
			ｱﾊﾟﾚﾙCADⅡ	演習	19	最終試験	100.0	57.9	31.6	10.5	0.0
			ｱﾊﾟﾚﾙ設計演習	演習	22	最終試験	95.5	59.1	27.3	9.1	4.5
		スポーツ科学	学校保健(含小児保健、精神保健、学校安全)	講義	35	最終試験、課題提出	97.1	42.9	42.9	11.4	2.9
			体育経営管理学	講義	38	最終試験	92.1	47.4	18.4	26.3	7.9
			体育測定評価(含演習)	講義演習	37	最終試験	97.3	70.3	24.3	2.7	2.7
			体育心理学	講義	40	最終試験、課題提出	92.5	17.5	27.5	47.5	7.5

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
		ｶﾃｺﾞﾘｰ					本試・再試等	優	良	可	不可
学科専門科目	系専門科目	スポーツ科学	健康管理論	講義	41	最終試験、課題提出	97.6	34.1	19.5	43.9	2.4
			運動学	講義	39	最終試験	100.0	53.8	25.6	20.5	0.0
			ｽﾎﾟｰﾂ栄養学	講義	41	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	97.6	51.2	19.5	26.8	2.4
			ｽﾎﾟｰﾂ社会学	講義	41	最終試験	97.6	34.1	34.1	29.3	2.4
			ｽﾎﾟｰﾂ指導論	講義	42	最終試験	100.0	50.0	28.6	21.4	0.0
			こどもとｽﾎﾟｰﾂ	演習	25	最終試験	96.0	36.0	32.0	28.0	4.0
			ｽﾎﾟｰﾂ科学演習Ⅰ	演習	10	最終試験	30.0	30.0	0.0	0.0	70.0
			ｽﾎﾟｰﾂ科学演習Ⅱ	演習	5	最終試験	60.0	60.0	0.0	0.0	40.0
			ｽﾎﾟｰﾂ医学	講義	38	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	57.9	18.4	23.7	0.0
			ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ論	講義	38	最終試験	94.7	76.3	2.6	15.8	5.3
			ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ演習	演習	13	課題提出	53.8	53.8	0.0	0.0	46.2
			ﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ	講義	31	課題提出、受講態度・参加意欲	93.5	90.3	3.2	0.0	6.5
			体つくり運動	実技	39	最終試験、課題提出	97.4	43.6	30.8	23.1	2.6
			陸上競技	実技	36	課題提出	100.0	86.1	5.6	8.3	0.0
			器械運動Ⅰ	実技	36	最終試験	91.7	38.9	19.4	33.3	8.3
			器械運動Ⅱ	実技	21	最終試験	81.0	61.9	19.0	0.0	19.0
			ｴｱﾛﾋﾞｯｸ	実技	34	最終試験	94.1	70.6	23.5	0.0	5.9
			ｴｱﾛﾋﾞｯｸ指導演習	演習	12	最終試験	16.7	16.7	0.0	0.0	83.3
			ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	実技	38	最終試験	100.0	44.7	50.0	5.3	0.0
			ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	実技	38	最終試験	94.7	71.1	23.7	0.0	5.3
			ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ﾃﾆｽ・ｻｯｶｰ	演習	38	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	52.6	36.8	10.5	0.0
			水泳・水中運動	実技	37	最終試験	89.2	48.6	24.3	16.2	10.8
			ｽｷｰ	実技	38	最終試験	100.0	94.7	5.3	0.0	0.0
			救急処置Ⅰ	講義	38	最終試験	92.1	2.6	28.9	60.5	7.9
			解剖学	講義	38	最終試験	89.5	42.1	13.2	34.2	10.5
			生理学(含運動生理学)	講義	39	最終試験	97.4	43.6	28.2	25.6	2.6
			衛生学及び公衆衛生学	講義	35	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	85.7	34.3	22.9	28.6	14.3
			保健体育科指導法	講義	24	最終試験、課題提出	66.7	20.8	25.0	20.8	33.3
			社会体育演習(ｻｯｶｰ)	演習	1	最終試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
			社会体育演習(健康運動)	演習	11	最終試験	90.9	45.5	27.3	18.2	9.1
			社会体育演習(水上安全)	演習	3	最終試験	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0
			社会体育演習(ｴｱﾛﾋﾞｯｸ)	演習	1	最終試験	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
			社会体育実習	演習	17	課題提出	64.7	64.7	0.0	0.0	35.3

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%) 優	良	可	不可
		ｶﾃｺﾞﾘｰ									
学科専門科目	系専門科目	養護保健	学校保健(含小児保健)	講義	10	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	50.0	30.0	20.0	0.0
			健康相談活動の理論及び方法	講義	13	最終試験	76.9	69.2	7.7	0.0	23.1
			養護概説	講義	11	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	45.5	27.3	27.3	0.0
			精神保健	講義	13	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	76.9	23.1	23.1	30.8	23.1
			看護学各論	講義	11	最終試験	90.9	0.0	27.3	63.6	9.1
			看護技術演習	演習	10	最終試験	90.0	0.0	0.0	90.0	10.0
			看護学臨床実習	実習	8	課題提出、受講態度・参加意欲	75.0	0.0	0.0	75.0	25.0
			薬理学概論	講義	10	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	40.0	20.0	40.0	0.0
			微生物学(含免疫学)	講義	9	最終試験	88.9	11.1	0.0	77.8	11.1
			衛生学及び公衆衛生学(含予防医学)	講義	13	最終試験、課題提出	92.3	38.5	15.4	38.5	7.7
		経営情報	簿記原理Ⅱ	講義	27	最終試験、課題提出	100.0	66.7	25.9	7.4	0.0
			会計学	講義	14	課題提出	85.7	78.6	7.1	0.0	14.3
			環境経済論	講義	19	課題提出	100.0	78.9	21.1	0.0	0.0
			中小企業論	講義	29	最終試験	96.6	86.2	6.9	3.4	3.4
			経営組織論	講義	23	最終試験	100.0	82.6	17.4	0.0	0.0
			経営統計学	講義	18	最終試験、課題提出	44.4	5.6	22.2	16.7	55.6
			ﾋﾞｼﾞﾈｽ関連法規	講義	19	最終試験、課題提出	94.7	36.8	42.1	15.8	5.3
			ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ	講義	25	最終試験	92.0	80.0	12.0	0.0	8.0
			ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞﾘｻｰﾁ	講義	23	最終試験	95.7	73.9	17.4	4.3	4.3
			秘書実務Ⅰ	講義	21	最終試験	61.9	61.9	0.0	0.0	38.1
			秘書実務Ⅱ	講義	14	最終試験、課題提出	92.9	78.6	14.3	0.0	7.1
			ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ	講義	23	課題提出	69.6	21.7	21.7	26.1	30.4
			情報ｼｽﾃﾑ論Ⅰ	講義	27	課題提出	88.9	48.1	25.9	14.8	11.1
			情報ｼｽﾃﾑ論Ⅱ	講義	23	課題提出	100.0	60.9	30.4	8.7	0.0
			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ会計	講義	32	課題提出	96.9	40.6	53.1	3.1	3.1
			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼ	講義	26	課題提出	65.4	23.1	23.1	19.2	34.6
			ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	講義	42	最終試験	71.4	64.3	4.8	2.4	28.6
			ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ	実習	21	課題提出、受講態度・参加意欲	85.7	14.3	52.4	19.0	14.3
			ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習Ⅰ	演習	13	最終試験、課題提出	69.2	61.5	7.7	0.0	30.8
			ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習Ⅱ	演習	7	最終試験、課題提出	100.0	71.4	28.6	0.0	0.0
			経営情報演習Ⅰ	演習	20	最終試験、課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			経営情報演習Ⅱ	演習	20	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			演劇入門Ⅰ	演習	15	最終試験	100.0	80.0	6.7	13.3	0.0

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
		カテゴリー					本試・再試等	優	良	可	不可
学科専門科目	系専門科目	舞台芸術	演劇入門Ⅱ	演習	14	最終試験	100.0	92.9	0.0	7.1	0.0
			演出論	講義	16	最終試験	87.5	25.0	37.5	25.0	12.5
			ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ論	講義	13	最終試験	69.2	30.8	30.8	7.7	30.8
			ｱｰﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	講義	12	最終試験	91.7	75.0	8.3	8.3	8.3
			舞台装置入門(含舞台ﾃﾞｯｻﾝ)	講義 演習	14	最終試験	92.9	42.9	42.9	7.1	7.1
			舞台衣装(含ﾒｲｸ・ﾍｱﾒｲｸ)	講義 演習	14	最終試験	92.9	92.9	0.0	0.0	7.1
			舞踊芸術 A	演習	14	最終試験	92.9	42.9	42.9	7.1	7.1
			舞踊芸術 B	演習	9	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	88.9	88.9	0.0	0.0	11.1
			ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞ Ⅰ(含演習)	講義	15	最終試験	100.0	80.0	6.7	13.3	0.0
			ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞ Ⅱ(含演習)	講義	14	最終試験	100.0	92.9	0.0	7.1	0.0
			照明・音響演習 Ⅰ	演習	14	最終試験	92.9	42.9	42.9	7.1	7.1
			照明・音響演習Ⅱ	演習	11	最終試験	90.9	54.5	27.3	9.1	9.1
			映像概論(含演習)	講義 演習	18	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	94.4	5.6	0.0	0.0
			映像総合演習	演習	13	課題提出、受講態度・参加意欲	92.3	76.9	7.7	7.7	7.7
			特殊効果	講義 演習	11	最終試験	90.9	54.5	27.3	9.1	9.1
			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ Ⅰ	講義 実習	27	最終試験、課題提出	88.9	0.0	59.3	29.6	11.1
			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽⅡ	講義 実習	15	課題提出、受講態度・参加意欲	73.3	20.0	40.0	13.3	26.7
			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾐｭｰｼﾞｯｸ 1	講義 実習	32	課題提出	84.4	28.1	25.0	31.3	15.6
			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾐｭｰｼﾞｯｸⅡ	講義 実習	23	課題提出	100.0	21.7	17.4	60.9	0.0
			ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ映像	講義 実習	10	課題提出、受講態度・参加意欲	60.0	60.0	0.0	0.0	40.0
			ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋﾞﾃﾞｵ編集	講義 実習	12	課題提出、受講態度・参加意欲	83.3	83.3	0.0	0.0	16.7
			身体表現 A	演習	15	最終試験	100.0	80.0	6.7	13.3	0.0
			身体表現 B	演習	7	最終試験	71.4	71.4	0.0	0.0	28.6
			身体表現 C	演習	14	最終試験	92.9	42.9	42.9	7.1	7.1
			朗読・ﾅﾚｰｼｮﾝ	演習	15	最終試験	100.0	80.0	6.7	13.3	0.0
			戯曲研究 Ⅰ	講義	21	最終試験、課題提出	71.4	0.0	61.9	9.5	28.6
			戯曲研究Ⅱ	講義	18	最終試験	83.3	33.3	44.4	5.6	16.7
			総合演習 A	演習	14	最終試験	100.0	35.7	35.7	28.6	0.0
			総合演習 B	演習	15	最終試験	66.7	33.3	0.0	33.3	33.3
			特別演習 Ⅰ	演習	14	最終試験	92.9	92.9	0.0	0.0	7.1
			特別演習Ⅱ	演習	11	最終試験	90.9	54.5	27.3	9.1	9.1
			舞台芸術研修	演習	11	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

種別	カテゴリー	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%) 優	良	可	不可
訪問介護員養成研修課程		訪問介護論Ⅰ	講義	13	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	92.3	7.7	53.8	30.8	7.7
		訪問介護論Ⅱ	講義	0	課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		訪問介護特別講義Ⅰ	講義	13	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	76.9	7.7	23.1	46.2	23.1
		訪問介護特別講義Ⅱ	講義	0	課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		訪問介護技術Ⅰ	実技	13	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	76.9	23.1	38.5	15.4	23.1
		訪問介護技術Ⅱ	実技	0	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		訪問介護指導技術	実技	0	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		訪問介護見学実習Ⅰ	実習	13	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	69.2	23.1	38.5	7.7	30.8
		訪問介護見学実習Ⅱ	実習	0	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
教職に関する科目		教師論	講義	27	最終試験	100.0	51.9	44.4	3.7	0.0
		教育原理	講義	27	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	81.5	18.5	0.0	0.0
		教育心理学	講義	26	最終試験、課題提出	88.5	26.9	34.6	26.9	11.5
		総合演習	演習	20	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	95.0	50.0	35.0	10.0	5.0
		教育経営学(含教育課程)	講義	26	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	88.5	69.2	19.2	0.0	11.5
		教育方法論(含情報機器･教材活用)	講義	27	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	88.9	11.1	0.0	0.0
		道徳教育の研究	講義	20	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	85.0	5.0	10.0	0.0
		特別活動の研究	講義	20	課題提出、受講態度・参加意欲	95.0	95.0	0.0	0.0	5.0
		生徒指導論(含進路指導)	講義	20	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	95.0	70.0	25.0	0.0	5.0
		教育相談論(含ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの基礎)	講義	26	最終試験、受講態度・参加意欲	88.5	23.1	65.4	0.0	11.5
		家庭科指導法	講義	0	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		保健体育科指導法	講義	24	最終試験、課題提出	66.7	20.8	25.0	20.8	33.3
		教育実習講義	講義	16	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	81.3	31.3	37.5	12.5	18.8
		教育実習	実習	12	課題提出	91.7	75.0	16.7	0.0	8.3
		養護実習講義	講義	10	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	70.0	20.0	10.0	0.0
		養護実習	実習	9	最終試験、課題提出	100.0	77.8	11.1	11.1	0.0

こども学科の単位認定の状況

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%)	最終の評価(%)			
					本試・再試等	優	良	可	不可
全学共通科目	人間学	講義	32	課題提出	84.4	56.3	21.9	6.3	15.6
	倫理学	講義	14	最終試験、課題提出	100.0	78.6	14.3	7.1	0.0
	宗教学	講義	1	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学	講義	19	課題提出	47.4	42.1	5.3	0.0	52.6
	芸術論	講義	14	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	57.1	42.9	14.3	.0.0	42.9
	心理学	講義	85	最終試験	69.4	32.9	18.8	17.6	30.6
	社会学	講義	8	最終試験	87.5	62.5	25.0	0.0	12.5
	法学	講義	4	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	75.0	50.0	0.0	25.0	25.0
	政治学	講義	5	最終試験、課題提出	80.0	60.0	20.0	0.0	20.0
	経済学	講義	3	最終試験	66.7	33.3	0.0	33.3	33.3
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ	講義	97	最終試験	83.5	18.6	32.0	33.0	16.5
	日本文化論	講義	19	最終試験、課題提出	73.7	15.8	21.1	36.8	26.3
	環境科学	講義	9	最終試験	44.4	33.3	11.1	0.0	55.6
	韓国語と文化(基礎)	講義	11	最終試験、課題提出	63.6	54.5	0.0	9.1	36.4
	韓国語と文化(発展)	講義	1	最終試験、課題提出	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	中国語と文化(基礎)	講義	5	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	80.0	40.0	20.0	20.0	20.0
	中国語と文化(発展)	講義	1	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	ﾄﾞｲﾂ語と文化(基礎)	講義	2	最終試験	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	ﾄﾞｲﾂ語と文化(発展)	講義	0	最終試験	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ﾌﾗﾝｽ語と文化(基礎)	講義	9	最終試験、課題提出	100.0	55.6	33.3	11.1	0.0
	ﾌﾗﾝｽ語と文化(発展)	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特別講義:大学の未来	講義	4	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	特別講義:学問への招待	講義	0	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	外国の歴史と文化	講義	7	最終試験、課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	日本国憲法	講義	141	最終試験、課題提出	100.0	24.1	61.0	14.9	0.0
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	演習	140	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	96.4	3.6	0.0	0.0
	情報機器操作	演習	141	最終試験、課題提出	100.0	79.4	17.0	3.5	0.0
	地域文化YOSAKOIｿｰﾗﾝ祭り(音楽)	講義実技	2	課題提出	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	地域文化YOSAKOIｿｰﾗﾝ祭り(演出)	講義実技	1	課題提出、受講態度・参加意欲	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	ｷｬﾘｱ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	講義	8	課題提出	75.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	日本語 ＊留学生科目	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

種別		授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%) 優	良	可	不可
		日本の歴史と文化 ＊留学生科目	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学部共通科目		ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	講義	9	課題提出	44.4	44.4	0.0	0.0	55.6
		英語事情	講義	8	課題提出	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
		体育理論	講義	141	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	70.2	22.0	7.8	0.0
		文章表現	講義	23	最終試験	56.5	43.5	0.0	13.0	43.5
		人間関係論	講義	0	最終試験	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		生涯学習論	講義	23	最終試験、課題提出	95.7	91.3	4.3	0.0	4.3
		音楽と生活	講義	47	課題提出、受講態度・参加意欲	85.1	72.3	8.5	4.3	14.9
学科専門科目	コース共通科目	こども学原論	講義	142	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	43.0	54.9	2.1	0.0
		こどもと環境	講義	8	最終試験、課題提出	87.5	87.5	0.0	0.0	12.5
		こどもの養育	講義	13	最終試験、課題提出	46.2	46.2	0.0	0.0	53.8
		こどものﾌｧｯｼｮﾝ	演習	36	最終試験	97.2	55.6	25.0	16.7	2.8
		こどもと音楽Ⅰ	演習	49	最終試験	100.0	79.6	16.3	4.1	0.0
		こどもと音楽Ⅱ	演習	49	最終試験	100.0	89.8	6.1	4.1	0.0
		こどもと造形Ⅰ	演習	45	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	64.4	35.6	0.0	0.0
		こどもと造形Ⅱ	演習	45	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	68.9	26.7	4.4	0.0
		こどもと運動遊び	演習	48	課題提出	100.0	60.4	31.3	8.3	0.0
		こどもの野外活動	演習	48	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	56.3	14.6	29.2	0.0
		体育実技	実技	141	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	68.8	23.4	7.8	0.0
		教育原理	講義	142	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	72.5	26.8	0.7	0.0
		発達心理学Ⅰ	講義	142	最終試験、課題提出	100.0	38.7	43.7	17.6	0.0
		発達心理学Ⅱ	講義	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		教育心理学	講義	142	最終試験、課題提出	100.0	47.9	39.4	12.7	0.0
		教育･保育実習講義Ⅰ	講義	142	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	95.8	4.2	0.0	0.0
		教育･保育実習講義Ⅱ	講義	141	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	85.8	14.2	0.0	0.0
		器楽Ⅰ	実技	142	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	17.6	67.6	14.8	0.0
		器楽Ⅱ	実技	142	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	32.4	56.3	11.3	0.0
		器楽応用	実技	142	最終試験、受講態度・参加意欲	99.3	36.6	54.9	7.7	0.7
		演奏基礎Ⅰ	実技	49	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	81.6	18.4	0.0	0.0
		演奏基礎Ⅱ	実技	49	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	85.7	12.2	2.0	0.0

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%) 優	良	可	不可
学科専門科目			基本造形Ⅰ	実技	142	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	84.5	14.1	1.4	0.0
			基本造形Ⅱ	実技	142	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	95.1	3.5	1.4	0.0
			美術表現Ⅰ	実技	45	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	82.2	17.8	0.0	0.0
			美術表現Ⅱ	実技	45	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	73.3	24.4	2.2	0.0
			基本運動Ⅰ	実技	142	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	78.9	19.7	1.4	0.0
			基本運動Ⅱ	実技	142	最終試験	99.3	35.9	52.1	11.3	0.7
			運動基礎Ⅰ	実技	47	最終試験	100.0	57.4	8.5	34.0	0.0
			運動基礎Ⅱ	実技	47	最終試験	100.0	55.3	34.0	10.6	0.0
			学外演習	演習	142	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	94.4	4.2	1.4	0.0
			救急処置	講義演習	0	最終試験、課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			総合演習Ⅰ	演習	142	最終試験、課題提出	100.0	95.1	4.2	0.7	0.0
			総合演習Ⅱ	演習	142	最終試験、課題提出	100.0	93.7	4.9	1.4	0.0
	コース専門科目	児童科目(児童コース)	社会	講義	10	最終試験、課題提出	30.0	30.0	0.0	0.0	70.0
			理科	講義	12	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			家庭	講義	13	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	53.8	23.1	23.1	0.0
			国語科指導法	講義	86	最終試験、課題提出	100.0	52.3	37.2	10.5	0.0
			社会科指導法	講義	58	最終試験、課題提出	93.1	70.7	12.1	10.3	6.9
			算数科指導法	講義	62	課題提出、受講態度・参加意欲	96.8	64.5	19.4	12.9	3.2
			理科指導法	講義	73	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	91.8	69.9	20.5	1.4	8.2
			生活科指導法	講義	55	最終試験、課題提出	92.7	65.5	20.0	7.3	7.3
			音楽科指導法	講義	60	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	58.3	23.3	18.3	0.0
			図画工作科指導法	講義	91	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	60.4	31.9	7.7	0.0
			家庭科指導法	講義	62	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	87.1	62.9	1.6	22.6	12.9
			体育科指導法	講義	92	最終試験、課題提出	100.0	44.6	47.8	7.6	0.0
			道徳指導法	講義	100	課題提出	99.0	77.0	19.0	3.0	1.0
			特別活動指導法	講義	100	課題提出、受講態度・参加意欲	99.0	69.0	20.0	10.0	1.0
			生徒指導Ⅰ(含進路指導)	講義	96	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	59.4	31.3	9.4	0.0
		児童幼児共通(児童・幼児)	国語(含書写)	講義	121	最終試験、課題提出	100.0	60.3	37.2	2.5	0.0
			算数	講義	55	課題提出、受講態度・参加意欲	96.4	81.8	10.9	3.6	3.6
			生活	講義	26	最終試験、課題提出	100.0	65.4	0.0	34.6	0.0

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%) 優	良	可	不可
学科専門科目	コース専門科目	児童幼児共通科目（児童・幼児コース）	音楽	講義	88	最終試験、受講態度・参加意欲	96.6	83.0	9.1	4.5	3.4
			図画工作	講義	83	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	91.6	78.3	13.3	0.0	8.4
			体育	講義	18	最終試験、課題提出	66.7	22.2	27.8	16.7	33.3
			教師論	講義	142	最終試験	100.0	49.3	46.5	4.2	0.0
			教育課程論	講義	141	最終試験	100.0	58.9	36.9	4.3	0.0
			教育方法論(含情報機器･教材活用)	講義	142	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	89.4	9.2	1.4	0.0
			教育相談とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ	講義	141	最終試験	100.0	36.9	52.5	10.6	0.0
			教育実習Ⅰ	実習	141	課題提出	99.3	98.6	0.7	0.0	0.7
			教育実習Ⅱ	実習	5	課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		幼児保育共通科目（幼児・保育コース）	保育原理Ⅰ	講義	142	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	66.2	33.1	0.7	0.0
			保育原理Ⅱ	講義	140	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	96.4	2.9	0.7	0.0
			保育内容総論	演習	142	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	50.7	44.4	4.9	0.0
			保育内容環境	演習	139	最終試験、課題提出	99.3	75.5	13.7	10.1	0.7
			保育内容人間関係	演習	142	最終試験、課題提出	100.0	23.9	76.1	0.0	0.0
			保育内容言葉	演習	139	最終試験、課題提出	100.0	82.0	13.7	4.3	0.0
			保育内容表現	演習	139	最終試験，課題提出	100.0	92.1	6.5	1.4	0.0
			保育内容健康	演習	139	課題提出	100.0	42.4	54.0	3.6	0.0
			こどもと遊び	演習	134	最終試験、課題提出	94.0	35.8	53.0	5.2	6.0
			こどもと絵本	講義	99	最終試験、受講態度・参加意欲	94.9	44.4	42.4	8.1	5.1
		保育科目（保育コース）	社会福祉	講義	140	最終試験、課題提出	100.0	5.7	75.0	19.3	0.0
			社会福祉援助技術	演習	139	最終試験、受講態度・参加意欲	99.3	74.8	22.3	2.2	0.7
			児童福祉	講義	139	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	47.5	48.9	3.6	0.0
			養護原理	講義	138	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	63.8	30.4	5.8	0.0
			小児保健Ⅰ	講義	139	最終試験、課題提出	99.3	55.4	24.5	19.4	0.7
			小児保健Ⅱ	講義	138	最終試験、課題提出	95.7	34.8	25.4	35.5	4.3
			小児保健実習	実習	138	課題提出、受講態度・参加意欲	98.6	17.4	52.2	29.0	1.4
			小児栄養	演習	139	最終試験、課題提出、受講態度・参加意欲	98.6	14.4	46.8	37.4	1.4
			精神保健	講義	137	最終試験、課題提出	98.5	46.7	36.5	15.3	1.5
			家族援助論	講義	138	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	89.1	5.8	5.1	0.0
			乳児保育	演習	139	最終試験、課題提出	100.0	61.9	30.9	7.2	0.0
			障害児保育	演習	137	最終試験	100.0	88.3	10.9	0.7	0.0
			養護内容	演習	137	課題提出	100.0	51.8	30.7	17.5	0.0

種別			授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%)			
								優	良	可	不可
学科専門科目	コース専門科目	保育科目（保育コース）	保育実習Ⅰ	実習	138	課題提出	97.1	76.1	21.0	0.0	2.9
			保育実習Ⅱ	実習	138	課題提出	97.8	78.3	19.6	0.0	2.2
			保育実習Ⅲ	実習	0	課題提出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			家族関係論	講義	25	最終試験	56.0	52.0	0.0	4.0	44.0
			音楽療法概論	講義	14	最終試験、受講態度・参加意欲	100.0	50.0	42.9	7.1	0.0
			音楽療法演習	演習	13	最終試験、受講態度・参加意欲	69.2	38.5	15.4	15.4	30.8

専攻学科の単位認定の状況

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況(%) 本試・再試等	最終の評価(%)			
						優	良	可	不可
専門科目	服飾造形論	講義	7	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	服飾文化研究	講義	7	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	服飾ｸﾗﾌﾄ	演習	7	最終試験	100.0	71.4	28.6	0.0	0.0
	服飾造形実習Ⅰ	実習	7	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	服飾造形実習Ⅱ	実習	7	最終試験	100.0	57.1	42.9	0.0	0.0
	服飾造形実習Ⅲ	実習	7	最終試験	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0
	服飾造形実習Ⅳ	実習	7	最終試験	71.4	42.9	28.6	0.0	28.6
	ｱﾊﾟﾚﾙCAD Ⅰ	演習	7	課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ｱﾊﾟﾚﾙCAD Ⅱ	演習	3	課題提出	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3
	ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅰ	演習	7	課題提出	100.0	57.1	42.9	0.0	0.0
	ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅱ	演習	5	最終試験、課題提出	80.0	80.0	0.0	0.0	20.0
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ	演習	7	課題提出、受講態度・参加意欲	100.0	28.6	71.4	0.0	0.0
	ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	演習	7	課題提出	100.0	14.3	85.7	0.0	0.0
	ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ	演習	6	課題提出	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲﾃﾞｻﾞｲﾝ	演習	7	最終試験、課題提出	85.7	85.7	0.0	0.0	14.3
	服飾美術研修	演習	7	最終試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

※主な単位認定の方法については、①最終試験には、筆記・レポート・実技・口頭発表・作品を含んでいる。②課題提出には、小テスト・小レポート・講義ノート・活動記録・学習指導案を含んでいる。

(2)　学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

単位認定の方法は、１科目授業回数３分の２以上出席し、試験、レポート、作品、受講態度等を総合して合格と認められた学生に学則で定められた単位が与えられる。

講義科目については、試験またはレポート提出、受講態度等で単位認定が行われる。成績評価は、Ｓ、Ａ、Ｂ、ＣおよびＤの評語をもって判定し、Ｄを不合格とするる。

演習実技科目については、その科目の特性に応じて、講義科目の評価方法に加え、実技試験・小テスト・作品提出など多様な方法を心がけて学生の獲得した能力をできるだけ忠実に評価するよう努力している。

人間総合学科の学生は、資格関連科目を集中して取得する層と、興味・関心の幅を広げ多種・多彩な科目を選択し幅広く学ぶ層とに取得状況は分かれる。これは地域総合科学科としての特徴が生かされた学び方をしていると理解している。

担当教員は、学生の意欲を引き出すよう指導し、授業全体をとおして総合的な評価を行っている。実技・実習の科目では作品の提出や実技試験を課し、技能の習得状況を的確に評価するよう努めている。目標に達していない学生に対しては補講等を行い、到達目標の技能習得まで指導している。

こども学科では、免許・資格に関わる科目がほとんどで、１年次開講科目中には、履修完了が教育実習実施の条件になる科目もあり、担任・教育実習担当者・学習支援委員は学期ごとに学生の単位履修状況には気を配っている。単位取得の最終目的は、免許・資格取得につながるので科目の評価は教員・保育士としての資質の評価でもある。従って学生への履修指導には細心の注意を払い、履修変更をしないことにより、最終評価が不可となるなどのことがないよう個別指導を心がけている。

担当教員は、欠席の多い学生や成績不振の学生には、個別指導などを行い、さらに小学校教諭・幼稚園教諭・保育士等複数の免許・資格を目指す学生には、学生の能力や資質を見極めた指導を行うよう努めている。

(3)　学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

開講科目数が比較的多いことは両学科の共通点であるが、単位の取得状況には学科の特色が表れている。人間総合学科では幅広く用意された専門科目のほとんどが選択科目であるため、履修者が分散傾向にあり少人数授業形態になっている。そのため個々の学生に対応したきめ細かい指導や評価がしやすい状況にあり、多くの科目で実現している。単位認定の方法も科目のねらいが達成できるように科目の特徴に合わせた評価方法を工夫している。また、最終単位履修状況は 70 単位前後が８割を占める状況である。

こども学科は学生の８割以上が複数の免許･資格の取得を希望しており、取得単位が 110 単位を超す学生が全体の７割近くを占める現状である。受講者数が 100 名を超す科目が多く、できるだけ 50 名以下のクラス編成で、科目のねらいが達成させる努力をする。両学科とも総じて適切に実施されている。

【授業に対する学生の満足度について】

(1)　各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また、調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

平成 15 年度より行っている「学生による授業評価」の調査項目に「学生の満足度」に関する項目が含まれている。また、平成 20 年度に実施した「学生生活調査」には、授業に対する学生の満足度を知る調査項目として「授業の理解度について」がこれにあたると考える。その評価基準は、「ほとんど理解できる」「７割程度理解」「５割程度理解」「３割程度」「ほとんど理解できない」の５段階である。

（参考資料 11：「学生の満足度」調査票の様式）

(2)　担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

＜人間総合学科＞

担当教員は、１回の授業が終了するごとに小テストを実施するなど、学生の理解度を確認し次の授業展開に反映させる努力・工夫をしている。授業の成果を発表会（演劇・ファッションショー）、展示会等で公開する機会を多く設けていることも学生の励みとなっている。学生自らの企画・運営によるイベント形式の授業の実施も満足度を高めていると考えている。

＜こども学科＞

こども学科では「実習・演習・実技」を担当している教員は、学生が模擬授業等保育・教育の現場に近い体験ができる機会を多く設定する取り組みや、「講義」科目においても学生自身が調べる・まとめる・討論（学生同士で）するなど「座学型学習」から「体験型学習」へ変更するように授業内容の改善を進めている。また、教員は小学校・幼稚園・保育園の現場経験者が多く、講義の中に教員自身の実践や子どもの姿が見える授業を提供できるよう工夫している。

(3)　学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

各学期終了時に実施する「授業に対する満足度の調査結果」は、平成 18 年度（２学科平均値）５段階評価中 4.14、平成 19 年度は 4.19、平成 20 年度は 4.24 であり良好な結果が得られている。特に「担当教員の意欲や熱意が感じられた」項目が高く満足度につながっていると考えられる。学生の知的好奇心を刺激したり、理解度に配慮した授業への取り組みによって、学生の満足度をさらに引き上げることが次への課題であると考えている。教員には担当する授業の目標（ねらい）を示し、「理解」と「達成度」を高める努力が望まれる。学生の授業に対する満足度を高めるためには授業の「理解」の質と量を高める必要がある。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

人間総合学科の退学者等一覧表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

	18 年度入学	19 年度入学	20 年度入学	備考
入学者数(編入含む)	239 人	136 人	112 人	
うち退学者数	16 人	12 人	2 人	
うち除籍者数	3 人	1 人	1 人	
うち休学者数	0 人	0 人	1 人	
休学者のうち復学者数	0 人	0 人	0 人	
うち留年者数	1 人	2 人	0 人	
卒業者数	219 人	121 人	―	

こども学科の退学者等一覧表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

	18 年度入学	19 年度入学	20 年度入学	備考
入学者数	150 人	148 人	143 人	
うち退学者数	3 人	3 人	2 人	
うち除籍者数	1 人	0 人	0 人	
うち休学者数	0 人	2 人	4 人	
休学者のうち復学者数	0 人	0 人	4 人	
うち留年者数	1 人	2 人	―	
卒業者数	145 人	141 人	―	

専攻科の退学者等一覧表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

	18 年度入学	19 年度入学	20 年度入学	備考
入学者数	3 人	6 人	7 人	
うち退学者数	0 人	1 人	0 人	
うち休学者数	0 人	0 人	0 人	
休学者のうち復学者数	0 人	0 人	0 人	
うち留年者数	0 人	0 人	0 人	
卒業者数	3 人	5 人	7 人	

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。

人間総合学科の退学理由割合

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

年度／理由	18 年度入学		19 年度入学		20 年度入学	
	退学者数	割合	退学者数	割合	退学者数	割合
進路変更	13 人	81.3%	11 人	91.7%	0 人	0.0%
一身上の都合	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
家庭の事情	3 人	18.7%	1 人	8.3%	2 人	100.0%
計	16 人	100.0%	12 人	100.0%	2 人	100.0%

こども学科の退学理由割合

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

年度／理由	18 年度入学		19 年度入学		20 年度入学	
	退学者数	割合	退学者数	割合	退学者数	割合
進路変更	2 人	66.7%	3 人	100.0%	2 人	100.0%
一身上の都合	1 人	33.3%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
家庭の事情	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
計	3 人	100.0%	3 人	100.0%	2 人	100.0%

専攻科の退学理由割合

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

年度／理由	18 年度入学		19 年度入学		20 年度入学	
	退学者数	割合	退学者数	割合	退学者数	割合
進路変更	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
一身上の都合	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
家庭の事情	0 人	0.0%	1 人	100.0%	0 人	0.0%
計	0 人	0.0%	1 人	100.0%	0 人	0.0%

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

＜人間総合学科＞

平成 18・19 年度入学者に対する退学者の割合は全国的に比べて高く、退学理由で最も多いのは経済的事情による進路変更である。社会の経済事情が色濃く学生の生活環境に影響を与えている状況である。このほか学習意欲の減退によるものは休学期間を経ることによ

って復学し卒業へ至る例や、本人・家庭・教員間で十分な話し合いを経ても退学する場合もある。どのようなケースでも退学者の減少に向けた取り組みは、個々の事情を熟知して卒業と就職に向けたきめ細かな援助が必要との認識を強く持っている。平成 20 年度には退学者の減少傾向が見られるが、２年次生の退学者を抑えることが重要であり、そのためには卒業単位取得の指導と就職活動の支援が重要な鍵になると考える。今後は、自己発見への支援、わかりやすい授業改善等を進めながら退学者を出さない魅力ある授業や学科づくりを目指していきたい。

＜こども学科＞

退学、休学者数の在籍数に対する比率は平成 18 年度から経年でみると、３％、３％、４％で推移している。これは、進学の目的が明確である保育者・教育者への志向が高いためと考えられる。退学の理由としては、「進路変更（自分の適職への迷い、就職など)」「経済的理由」「学校生活への不適応（意欲が出ない、人間関係のつまずき、学校の雰囲気が合わないなど)」が挙げられる。退学理由が進路変更であっても、退学に至るまで、入学後、友人関係や学習のつまずき、家庭の不和、心の悩みなど多様な要因が複合していて、いずれが主な理由であるか決めがたい状況にある。心理的に不適応を起こすケースも出てきて、安易に退学・休学を申し出る者も増加する傾向にある。この状況を学科全員で受け止め、勉学への意欲を失いつつある者や欠席傾向が続く学生の早期発見に努め、個別指導を行うことがこれまでの実績につながっていると考える。

こども学科の、少人数縦割り担任制を生かし、担任と学生、学生同士（先輩・後輩）の関係を深め、いつでも、どこでも、誰にでも相談できる人間関係の構築が必要である。保護者との連携、出身高校との情報交換などを強力に進め、退学や休学を最小限に抑えたいと考えている。

(4)　学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の退学・休学理由として圧倒的に多い「進路変更」には、意欲の減退・経済的理由・心理（含む身体）的理由が混在しており、学業の継続が困難な学生への対応が平成20年度～21年度の取り組み課題である。問題が深刻化しないうちに学科の教員が短期大学の真の魅力を伝え、学生個別の事情に向き合い対応することが大切である。なお経済的に深刻なケースには奨学金制度の有効な活用の検討が必要である。入学時の貸付制度（大学利子負担）を在学生にも拡大したり、兄弟・姉妹で在学するケースに対する割引制度の整備も検討中である。

近年の特徴として心の問題を抱えて入学する学生も増加する傾向にあり、教育支援総合センターの「何でも相談」システムの活用、保健センターや学生相談室と連携をとりながら学生のニーズに応えていく必要がある。さらに、休学や留年の制度を活用しながら、学生の個別の事情に合わせた学び方を模索しながら、最終的には卒業できるように援助することが大切である。

【資格取得の取組みについて】

(1)　《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3) で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等) を学科等ごとに示して下さい。

免許・資格の取得状況（人間総合学科）

免許･資格等の種類	系の区分等	平成 20 年度		
		受験者数	取得者数	取得割合(%)
中学校教諭二種免許状(家庭)　※平成 21 年度廃止	服飾美術系	0	0	0.0
中学校教諭二種免許状(保健体育)	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	11	11	100.0
養護教諭二種免許状　※平成 21 年度廃止	養護保健系	6	6	100.0
ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ技術試験 (3 級)	服飾美術系	9	4	44.4
ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ技術試験 (2 級)	服飾美術系	3	1	33.3
ｶﾗｰｺｰﾃﾞｨﾈｲﾀｰ検定 (3 級)		13	9	69.2
ｶﾗｰｺｰﾃﾞｨﾈｲﾀｰ検定 (2 級)		1	0	0.0
ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定 (3 級)		10	6	60.0
ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定 (2 級)		2	0	0.0
ﾌｧｯｼｮﾝ販売能力検定 (2 級)		2	2	100.0
ﾌﾞﾛﾝｽﾞﾗｲｾﾝｽ (ﾌｫｰﾏﾙｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ認定試験)		21	16	76.2
商業ﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ検定 (3 級)		4	4	100.0
日本体育協会公認ｽﾎﾟｰﾂﾘｰﾀﾞｰ資格	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	31	31	100.0
日本体育協会公認指導員(共通科目Ⅰ・Ⅱの講習･試験免除)	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	29	29	100.0
日本体育協会公認ｴｱﾛﾋﾞｯｸ指導員 (受験資格)	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	0	0	0.0
日本体育協会公認ｼﾞｭﾆｱｽﾎﾟｰﾂ指導員 (受験資格)	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	16	14	87.5
JFA(日本ｻｯｶｰ協会) 公認 C 級ｺｰﾁ	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	1	1	100.0
健康運動実践指導者 (受験資格)	ｽﾎﾟｰﾂ科学系	11	5	45.4
訪問介護員養成研修２級課程　※平成 21 年度廃止	養護保健・総合教養系	10	7	70.0
日商簿記検定 (3 級)		2	0	0.0
秘書検定 (3 級)		10	5	50.0
秘書検定 (2 級)		11	3	27.3
秘書検定 (準 1 級)		1	0	0.0
日検ﾜｰﾌﾟﾛ検定 (準 2 級)		1	0	0.0
漢字能力検定 (準 2 級)		2	0	0.0
漢字能力検定 (2 級)		1	1	100.0
幼児体育指導者検定 2 級		5	5	100.0
全日本ｽｷｰ連盟公認ｽｷｰ技能検定級別ﾃｽﾄ 1～3 級		5	5	100.0

免許・資格の取得状況（こども学科）

免許･資格等の種類	系の区分等	平成 20 年度		
		受験者数	取得者数	取得割合(%)
小学校教諭二種免許状		95	94	98.9
幼稚園教諭二種免許状		141	141	100.0
保育士資格		137	127	92.7
幼児体育指導者検定２級		27	27	100.0
全日本ｽｷｰ連盟公認ｽｷｰ技能検定級別ﾃｽﾄ１～３級		35	35	100.0

(2)　今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

人間総合学科では、平成 21 年度の教育課程編成の柱の一つであるキャリア教育の充実のために、厚生労働省が「若年者就職基礎能力習得」を目的に推進する「YESープログラム」を取り入れた。初年度は、「職業人意識応用」「コミュニケーション能力応用」「ビジネスマナー応用」の３領域を開講する。今後は全領域の開講のための整備を進めたい。こども学科は新規に導入する予定の資格はないが２免許１資格を学生の適正を見極めて専修分野の特技に結びつけた指導に力を注いでいく。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1)　学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職) の状況(専門就職数、割合等) について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

＜人間総合学科＞

本学科は専門科目の履修の仕方によって多種・多様な学びが可能であるため、入学時にはスポーツ科学に関心のあった学生が、卒業年度には服飾美術の科目を多く履修し、ファッションビジネス関連へ就職するような例も少なくない。従って本学科の場合は、どの職種も専門職と考えることができるが、所属系の専門に関連した就職を専門職と位置づける。

＜こども学科＞

過去３年間の卒業生の就職状況は、専門就職（小・幼・保育園、施設）70.5%を占めている。小・幼免許１種取得のための進学者を含めると 79.3%に当たることになる。

(2)　卒業生に対する就職先(専門就職に限らない) 及びその他の進路先(編入先等)からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

＜短期大学全体＞

就職先へのアンケート調査、および訪問調査によると、企業からは礼儀や、協調性にあわせて、自発性・自主性が強く求められていることがうかがわれる。職場での卒業生は、真面目で協調性があると評価されている。しかし、コミュニケーション力、伝達力、前向きな提案をする力や積極性についての評価が必ずしも高いとはいえない。授業評価の結果

からもそれらの能力の不足を感じられる。また、こども学科の卒業生については、訪問保育園から「仕事に誠実で熱心である」との評価が多く寄せられているが、保護者対応、こどもを取り巻く環境の変化に対応できる知識の習得や社会性の不足が指摘されている。人間的、社会的な基礎力（伝達能力を含めたコミュニケーション力、自己教育力、課題解決能力等）の育成の必要性が明らかになった。

＜人間総合学科＞

人間総合学科では、平成 20 年度、卒業生の主な就職先に対して質問紙法による調査を実施した。回答のあった 55 社の評価は概ね良い評価であった。質問項目別では遅刻・欠勤、時間厳守について高い評価があり勤勉な仕事ぶりがうかがえた。チームワークやコミュニケーションについての評価も高く、仕事場で仲間と協調して働く姿勢が評価されている様子が感じられた。若干、積極性、前向きな提案の評価が低い傾向にあった。本学の学生の特長は、あきらめずに一生懸命がんばれる素直な人柄であるとの採用企業側の評価は以前からあったが、今回の調査で裏付けられたといえる。

今後、本学科は、「人間力」「コミュニケーション能力」等の強化のために基礎的能力育成と、他大学に見られない複数分野のコラボレーションを教育の柱に企業、地域社会と連携を取りながら実践力を身につけるよう指導支援を進めたいと考えている。

＜こども学科＞

就職先訪問調査などの結果から、①社会人としての振舞い、②専修別の特色の明確化、③教師としての姿勢など課題が明らかになった。一方、３免許・資格取得の有効性は評価されているが、２年間での専門的な知識や技能の教授には限界もみられる。今後は、こうした点を含め、より現場ニーズに適するカリキュラム編成の見直しを検討しなければならないと考えている。

（参考資料 12：専門就職先からの卒業生に対する評価についての文書や資料）

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価等)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

卒業生の学生時代についてのアンケート（卒業後評価）を、専門性を活かした就職先をとおして行った。10 項目に関しＡ（短大卒業後まで身に着けた＝自己評価）、Ｂ（職場で必要とされていた＝社会的要請）を質問し、肯定的評価を示したものの全解答に占める割合から両者の関連を見た。１～３位（礼儀、協調性、自主性）までは自己評価と職場の要求とが一致しており、「職業生活の基礎として役立っている」との卒業生自身の評価もあることから、本学教育が時代の要請に一定程度沿ったものであるということができるが、全体としてＡはＢより評価値が低く、２年間という時間的制約の中で社会の期待にこたえ切れていない状況を示していると考えられる。

本学の教育の方針としている丁寧な教育についての評価は、教員との交流や面倒見の良さ、人間関係を広めたり深めたりすることにあり、「職業生活の基礎となっている」の回答がほぼ半数であった。さらに、学科の専門科目との関連性が高い部活動やサークルが多

いという特徴を反映して、部活動やサークルを評価する回答が上位を占めた点は本学の特徴であると考える。

「卒業生の学生時代についてのアンケート」結果１

職業生活の基礎となっている項目	順位	A	順位	B
①幅広い知識・教養	7	31.9%	7	58.9%
②コンピューターを使いこなす技能	10	20.3%	10	45.0%
③問題解決能力	8	25.1%	6	65.2%
④チームの中で仕事を遂行する能力	2	41.1%	2	75.8%
⑤仕事への適応の力	6	34.3%	4	73.9%
⑥創造性	4	36.3%	9	53.2%
⑦自発性、自主性	3	39.6%	3	74.6%
⑧リーダーシップを発揮できる力量	9	20.8%	8	45.9%
⑨人との交渉能力、折衝能力	5	34.8%	5	67.6%
⑩礼儀、マナー	1	46.8%	1	86.0%

「本学に対するイメージ」について、評価基準５及び４の割合の合計を纏めたのが次の下表である。

「卒業生の学生時代についてのアンケート」結果２

評価基準5及び4の合計割合	本学のイメージの項目
50%以上	③　部活動、サークル活動が盛んである ⑨　専門 知識や技能が学べる ⑩　選択出来る授業が幅広くある
40～50%未満	①　学生に対して面倒見が良い ④　学生と教員の交流が盛んである ⑧　教育施設・設備が充実している
30～40%未満	②　生涯学習の支援に積極的である ⑪　健康相談や悩みの相談の体制が整っている
20～30%未満	⑤　卒業生に対して面倒見が良い ⑪　奨学金制度がととのっている
20%以下	⑥　建学の精神と教育理念が学内に浸透している ②　校名変更によって母校のイメージが良くなった

５段階評価の５または４と評価された項目のうち、半数以上の支持を得た項目は上の表の③、⑨、⑩の項目である。このことは、本学教育の特色と一致している。

こども学科では、平成 16 年度から毎年、卒業半年後、卒業生懇談会を実施している。懇談会は、同窓会の支援のもと昼食を囲みながら、就職活動期から支援を受けたキャリア支援センターの講話や、大学教育の効果を確認する場となっている。また、平成 20 年度には、短期大学部の卒業生を対象とした大規模なアンケート調査も実施した。卒業生の評価は、教員免許状や資格を有する仕事のため、大学教育の有効性は高く示されている。一方で、新卒者は、ますます即戦力として期待されていることもあり、現場に即した実践的な教育内容が期待されている。

（参考資料 13：卒業生アンケートの調査票等）

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

アドミッションセンターやキャリア支援センターには、「非常に明るく元気がよい、素直である、協調性がある」と本学卒業生に対する評価の声が届いている。また、職場での真面目な仕事ぶりや前向きな姿勢、人間関係の築き方に対する評価が高く、求人のリピーターも少なくない。高等学校訪問、各種実習校訪問においては、服飾やスポーツ関連、教育現場などで活躍している卒業生が話題となり、本学の築いてきた教育の伝統を感じている。しかし、最近の卒業生に対する一般的な評価は先にあげた就職先へのアンケート調査、訪問調査、および卒業生に対して行った調査から、真面目で協調性の側面が評価されるが、技術力や問題解決能力がやや劣ることから、基礎的な能力を育てる必要があると考える。

＜人間総合学科＞

本学科の前身である北海道女子短期大学は、これまでに多数の家庭・美術・保健体育教諭、養護教諭を教育現場に送り出してきた。卒業生は地域の厚い信頼を得て活躍を続けている。教育職以外では、服飾関連での活躍が挙げられる。ここ数年は全国規模のコンテストに在学生・卒業生が応募し、連続して入選を果たしている。特に平成 20 年度には日本デザイナークラブ東京支部主催の『2008 ファッションデザインコンテスト』におけるゴールド賞・東京都知事賞を受賞した。本学の伝統である服飾美術教育が大きな成果を上げている。

＜こども学科＞

こども学科の卒業生の大半は、小学校、幼稚園の教員、保育士として、全道各地で活躍している。こども学科の教員は、学生の教育実習指導訪問の際、訪問先で卒業生が、教員や主任保育者、園長代理としての活躍している姿を目にしている。また、園長からの卒業生の評価は働く姿勢、保育・教育技術、そして、人間性にまで及びさまざまであり客観的な調査の必要性を感じている。

小学校教員では初等教育学科の卒業生が、校長、教頭などの管理職に就き、管内の指導者になっている例もあり、このことからも地域から高い評価を受けている。

今後も、音楽専修、美術専修、体育専修を柱に、教師としての得意技を身に付けさせ、自信を持って現場に行けるよう、教職員一丸となって取り組む覚悟である。

【特記事項について】

(1)　この《Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

人間総合学科の複数の系で培った専門的能力を統合して、地域と連携したイベントを学生が主体的に創り上げることで、総合的教育の効果が発揮される。現代の若者の志向に合ったイベントという手法をとおして、コミュニケーション能力を高めながら個々の総合力を高めている。

(2)　特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈参考資料〉11.「学生の満足度」の調査票の様式
12. 専門就職先からの卒業生に対する評価についての文書や資料
13. 卒業生アンケートの調査票等

Ⅴ　学生支援

【入学に関する支援について】

(1)　入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

大学案内の学長メッセージのなかで、本学の歴史やこれからの目標とともに、建学の精神を明示している。また、本学ホームページの学長挨拶において、教育理念を掲げている。さらに本学が求める学生像については、大学案内及び本学アドミッションガイドにおいて、学科・コースごとに具体的に明示している。また、学科の教育目標やねらいについては学科通信や学科案内に掲載している。

これらについては、大学案内・ホームページに掲載するだけではなく、オープンキャンパスや進学相談会等においても来談者に個別に説明をしている

(2)　入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法(推薦、一般、ＡＯ入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

ＡＯ入学をはじめ、推薦入学（指定校推薦・一般推薦・自己推薦・指定スポーツ推薦)、試験入学（Ａ日程・Ｂ日程)、センター試験利用入学（Ａ方式・Ｂ方式・Ｃ方式)、その他（社会人・帰国子女・外国人留学生）の特別選抜を実施している。これらについては、学生募集要項やアドミッションガイド、ホームページにおいて詳細に明示している。また、オープンキャンパスや進学相談会等の機会を利用して個別に説明を行っている。

(3)　広報及び入試事務についての体制(組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

入学試験に関する広報と選抜業務はアドミッションセンター（事務職員７名。運営委員と担当課長）が行っている。アドミッションセンターは運営委員会を組織し、入試総務委員会と連携しながら学生募集に関する広報活動と入学試験の両方の業務を行っている。広報活動は、アドミッションセンターが学生募集実施計画を企画・立案し、同運営委員会において審議・決定される。アドミッションセンターが中心となり、「大学案内」を含む学生募集に関する印刷物の制作のほか、オープンキャンパス運営・進学相談会参加・高等学校訪問の実施等の学生募集に関する業務を集約して行っている。なお、高等学校訪問については、平成 20 年度よりアドミッションセンター担当の事務職員と数人の教員からなる高等学校訪問チーム編成し、全学的に組織して効果的、計画的に実施している。

入試事務は、出願書類の確認・判定資料の作成・結果通知の発送等をアドミッションセンターが担当している。入学試験は入試総務委員会とアドミッションセンターの協力体制によって行われている。また、本学のＡＯ入試の受験希望者は事前に担当教員と３回のコ

ミュニケーションをとおして、自己の適性を見極めてから出願することができる。
志願者・受験生等からの問い合わせについては、アドミッションセンターが担当しているが、問い合わせ内容によっては、運営委員会や入試総務委員会にはかりながら対応している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1）ＡＯ入学(平成 21 年度入試より)
ＡＯ入学のエントリー受付は５期に分けて行っている。
第１期から第３期のエントリー受付は５月 22 日から 8 月 31 日、10 月初旬にＡＯ出願許可を通知し、出願許可者に対して出願期間を 11 月 1 日から 11 月７日とし、11 月 15 日付けで合格通知する。
選考はエントリーシートを基にした２回の面談と体験活動により本人の希望学科への適性を見極めて決定する。

2）推薦入学(平成 21 年度入試より)
願書受付は 11 月１日から 11 月 12 日、試験日は 11 月 23 日で合格発表は 12 月１日。推薦入学には、推薦入学制度、指定校推薦入学制度、自己推薦入学制度、指定スポーツ推薦入学、シニア特別入学がある。いずれも本学を専願とし、提出書類と面接により選抜している(人間総合学科スポーツ科学系を希望する者は運動適性検査も実施)。

3）試験入学(Ａ日程・Ｂ日程)(平成 21 年度入試より)
Ａ日程は願書受付が１月 15 日から１月 26 日、試験日は２月７日で合格発表は２月 16 日。Ｂ日程は願書受付が２月 12 日から２月 22 日、試験日は３月７日で合格発表は３月 15 日としている。
選抜方法はいずれの日程も学力試験(国語)により選抜している(人間総合学科スポーツ科学系においては実技試験を実施)。
いずれの日程もこども学科から人間総合学科への第２志望の出願ができる。
Ａ日程においては選抜会場として本学以外に８会場で実施している。

4）大学入試センター試験利用入学(Ａ方式・Ｂ方式・Ｃ方式)(平成 21 年度入試より)
Ａ方式は１月 15 日から１月 26 日、合格発表は２月 16 日。Ｂ方式は２月 12 日から２月 22 日、合格発表は３月 15 日。Ｃ方式は２月 26 日から３月７日、合格発表は３月 15 日。
選抜方法はいずれの日程も大学入試センター試験の国語(近代以降の文章)により選抜している。

5）特別選抜(社会人・帰国子女・外国人留学生)
社会人・帰国子女・外国人留学生の特別選抜は、試験入学のＡ日程同一日程で実施している。募集人員はいずれも若干名で、選抜方法は提出書類と面接により選抜している(人間総合学科スポーツ科学系においては運動適性検査を実施)。

以上、試験では全学関係者以外の立ち入り禁止の入学試験を実施している。願書受付から合格通知作業においても幾重にもチェック、判定に関しても各学科判定の上、入試総務委員会にて最終判定会議を行い決定する。多様な選抜方法のため、アドミッションセンターの業務は複雑になっている。スタッフは連絡・報告・記録に心がけ意思の疎通をはかり実施している。

（参考資料 14：募集要項、入学願書等）

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

本学では、入学後に大学の学習や学生生活に、スムースに移行してもらうために入学予定者に対して、入学前学習支援プログラムを実施している。このプログラムは、通信学習プログラム(必修）と通学学習プログラム(選択）から成る。通信学習プログラムは、文章の読み方、まとめ方等を学ぶ日本語表現力の向上を目指したものである。通学学習プログラムは、入学前に大学での授業や学生生活を体験できるよう基礎的な体験学習(ピアノなど）やクラブ活動の体験練習の講座から選択できるようになっている。

その他、こども学科では教育内容やねらいを示す説明書類と入学前の学習課題等を郵送している。専修クラスの選択は、それらの資料を参考にして行う。

（参考資料 15：入学手続き者に対する入学までの情報提供のための印刷物等）

(6) 入学後(入学直前を含む)、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

入学式直後に参列の保護者をまじえて入学者に対して、下記の内容を中心としたオリエンテーションを実施している。

(1) 建学の精神と教育理念に関する内容（短期大学全体で実施）
(2) 履修支援に関する内容(学科単位で実施)
(3) 学生生活に関する内容(学科単位で実施)
(4) 健康支援に関する内容(学科単位で実施)
(5) 海外研修プログラムに関する内容(学科単位で実施)
(6) 生涯学習講座に関する内容(学科単位で実施)
(7) 就職ガイダンスの実施(短期大学部全体で実施)
(8) パソコン利用に関する内容(学科単位で実施)
(9) サークル紹介(クラブの代表者が紹介)
(10) 図書館利用のオリエンテーション

履修支援について、人間総合学科では、学習系列に分かれての履修科目選択のためのガイダンスや履修相談、こども学科では、小学校・幼稚園教諭免許状、保育士に関する必修科目、選択必修科目、実習についての説明に十分な時間を確保し行っている。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

人間総合学科では、全体と学習系列に分け、科目選択のためのガイダンスや個別相談を実施している。また、教職履修希望者には、別途のガイダンスを行っている。こども学科では、小学校・幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のための科目選択、実習についてガイダンスや個別相談を実施している。また、両学科とも、各学期の開始前に学年ごとにオリエンテーションを行い、その都度、科目選択の確認をしている。さらに併設大学への編入希望学生には、２年次後半に編入後の科目選択等の指導助言を行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物(学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

人間総合学科「履修記録ノート」、こども学科「はりぎり」

（参考資料 16：学習や科目選択のための印刷物）

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

平成 20 年度までの基礎学力不足の学生に対する補習授業等の取組みは、クラス(セミナー）担当教員・科目担当教員の判断で、空時間・土曜日・夏季及び春季休業期間中に個別に実施している。加えて平成 21 年度より全学的に「学習サポート教室」を設置し、週２日基礎学力不足等の学生に対して専任教員が個別指導を中心に行ない充実を図っている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

両学科では、専任教員がオフィスアワー(個別面談を含む）を設定し、学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言できる体制を整えている。人間総合学科は、総合セミナーや基礎教育セミナーの時間に、こども学科は、教育・保育実習で、それぞれの担当教員が指導助言を行っている。なお、平成 21 年度より、教育支援総合センターの「何でも相談」の窓口でも受け付けて担当教員や関係部署に連絡して対応している。

学生相談室では、学業を含む多様な問題や悩みについて、カウンセラーが指導助言を行う体制が整っている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

両学科では優秀な学生に対し、学修の成果報告として学生紀要への論文掲載を進めている。

スキー実習および水泳・水中運動の実技科目では技能別の班編成で複数教員により、それぞれの進度に合った学習支援を行っている。特に、技能の高い学生には、授業終了時ま

たはその後に各種検定、日本赤十字社の水上安全法救助員の資格取得の講習会を開催し受検を勧めている。服飾美術系においては、ファッションコンテストに出品を奨励し、平成19年度は北海道知事賞（グランプリ受賞）、平成20年度には東京都知事賞を受けるなどの成果をあげた。こども学科のピアノ指導では、進度の速い学生にはより高度な課題を与え、個人レッスンを行っている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生生活支援委員会は併設大学と合同で組織され、委員長と短期大学２学科・大学３学部７学科から選出された教員と事務局の学生生活支援オフィス担当課長を加えた合計 19名の委員で構成されている。事務組織である学生生活支援オフィスは４名の職員で構成されている。学生生活支援委員会は定例で月に１回、緊急な課題が生じた時は適宜委員会を開催し、学生生活に関する諸問題を協議している。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

１）クラブ活動

平成20年度の学内学生団体は体育系35団体、文化系22団体、計57団体である。各団体は顧問（監督、コーチ）の指導の下、自主的な活動を展開している。各団体に対して設立・継続許可、部室貸与、指導者（学外コーチ含む）の配置、学生遠征費の補助、顧問引率旅費の支給などを学生生活支援委員会が支援している。

平成20年度は、体育系96名、文化系136名、計232名の学生が登録されている。この数は在籍する短期大学生全体の42%の割合を占めている。いずれの団体も併設大学生と合同で活動している。体育系のクラブでは、例年競技会において全道優勝、全国大会出場等目ざましい活躍を続けている。国際的な活躍をした学生や国内で上位の成績を収めた学生に対しては、本学表彰規程に基づき表彰を行っている。

今後、更に、学生の主体的な活動に対して十分な支援体制を整備するために、活動場所の確保、安全対策、指導者の確保、活動費・遠征費の補助、広報活動、褒章制度、特待制度等の現状を見直し検討することとしている。

２）自治会

平成20年度より各クラスから１名ずつの自治会役員候補者を年度初めに選出し、学生による投票で決定している。平成20年度入学式から１ヶ月後の５月には自治会を成立し、年間行事の計画と運営が順調に進められるようになった。

自治会費については、年額一人5,000円を徴収しクラブ活動支援や大学祭等の運営費としている。年間行事としては、５月自治会総会、６月新入生歓迎会、８月大学祭、10月ニュースポーツ大会が企画される。新入生歓迎会とニュースポーツ大会は３学部自治会が合同で企画し短期大学、併設大学との連携及び、各部・サークルやクラス単位の学生交流の場づくりを目的に実施された。

3）大学祭

「大学祭学生実行委員会」が主体となって学生生活支援委員会と連携し開催している。短期大学は「ミニファッションショー」「舞台公演」「ミニ音楽会」「こどもの国（遊びの広場)」など学科単位の催しが脈々と受け継がれていて、地域に評価されている。

また、オープンキャンパスも同時に開催され、年々活発になっている。今後、学生が主体的に計画運営できるよう教職員が側面から支援していく必要がある。地域や近隣高校と連携し、新たな大学祭の取り組みが求められる。これらの学生自主活動が円滑に行なわれるよう学生生活支援委員会及び学生生活支援オフィスが支援を行なっている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

学生の休息のための施設・空間は、食堂・カフェテリア・学生ラウンジや各棟のホールなどがある。食堂・カフェテリアは２フロアーあり、昼食時間以外も学生の休息スペースとして開放している。ホールは教員研究室の近くにも設置され、休憩時間等に学生と教員が日常的に対面してコミュニケーションがとれる環境を作っている。カレッジホールＰＡＬには、保健センター（学生相談室含む)、歯科医院、同窓会室、和室（茶室)、セントラルカフェ、学生ラウンジ等、学生生活をサポートする多彩な施設が設置されている。

購買（ブックストアー）では、学用品、食品、雑貨などを取り扱っている。

また、小型のロッカーを全学生へ貸与している。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舎の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

学生寮は平成 12 年度に廃止した。現在は、実習室・自治会室・部室・合宿所・留学生の宿舎として活用している。下宿･アパート等の宿舎の斡旋は大学としては行っていないが、収益事業部門のサービスセンターが学生会館・不動産会社の紹介を行っている。

自転車通学をする学生のために駐輪場を設けており、そのスペースについては充分に確保されている。学生の自動車・バイクでの通学は、安全面・駐車スペースの問題から禁止しているが、特別の理由がある学生については一部許可している。

(5) 平成２０年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

1）外部奨学金

名　　称	奨学生数
日本学生支援機構　第一種	25
日本学生支援機構　第二種	73
日本学生支援機構　私費外国人留学生学習奨励費	1
淑萃会奨学金	1
公益信託松原記念奨学基金	1
津別町奨学金	2

２）本学独自の奨学金制度

本学独自の奨学制度として、「入学時特待奨学生」、「在学特待奨学生」、「一般奨学生」「浅井淑子記念特別奨学生」、「奨学融資奨学生」がある。

３）その他の奨学金制度

上記奨学制度の他に、私費外国人留学生授業料減免に関する規程を設け、授業料の２分の１を上限とした減免により修学の経済的援助を行っている。さらに本学と協定を結んでいる培花女子大学(韓国）とレッドディア・カレッジ(カナダ）の交換留学生に対しては、入学金・授業料・施設設備費の全額を免除している。

(6)　学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理・メンタルケアやカウンセリングに関する業務について保健センター運営委員会で検討され行われる。

センターの利用時間は月曜日から金曜日 9:00～17:00、土曜 9:00～12:30 である。

平成 21 年度より保健センターの機構を学生の健康診断・健康管理を全般的に扱う「保健センター」とメンタルケアを扱う「学生相談室」を統合した「保健センター」として改編した。保健センターの窓口は、主に身体的健康管理とメンタルケアを分離して受け付ける体制を取っている。

(1) 健康管理について

① 学生の健康診断の実施

② 全学生対象に健康診断結果の返却（個別に所見記入）

③ 緊急措置体制の整備（入学生。新任教職員対象ＡＥＤ講習会）

④ 希望学生対象心電図検査（検査料金半額補助）

⑤ 感染症対策学内体制の整備（緊急時連絡網の見直し）

(2) 健康管理能力の育成として

① 外部講師招聘の保健講話実施（年間２回）

② 保健センターだよりの発行（月１回）・・・ホームページ上公開

③ 緊急措置体制の整備（学生、教職員対象ＡＥＤ講習会）

④ 感染症対策学内体制の整備（緊急時連絡網の見直し）

(3) メンタルケアの充実として

① 専門のカウンセラー（臨床心理士）３名によるメンタルケア

② 相談員（本学教員）による学生生活に関する相談

③ 学生相談室は、カウンセラーと事務職員を１名ずつ配置

近年、不登校や精神疾患を抱えて入学してくる学生や進路（就職／実習）に関連した心の問題を抱える来談者が増加している。平成 21 年度から教育支援総合センターの「何でも相談」と連携することで、それぞれの組織がこれまでに蓄積してきたノウハウを活かしながら連携と独自性を尊重した運営が期待され、これからの学生支援の充実につながると考える。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

学生が入学時に提出する「学生個人票」は学生生活支援オフィスと指導教員が各一部保管している。また、基本的な情報は「事務システム」に記録されている。学習支援オフィスが管理する履修状況・成績・学生動向といった情報も「事務システム」に記録されている。「事務システム」は、必要な情報を担当セクションのみで入力・閲覧ができるよう制限しており、担当セクションにおいてもパスワード管理を行っている。この「事務システム」のサーバーは学習支援オフィスが管理している。

保健センターが管理する「健康診断受診票」等の情報及び学生相談室の「カウンセリング記録」等については、それぞれ、単独で管理し守秘義務を徹底している。

なお、個人情報の取り扱いについては、「個人情報保護規程」、「学生の個人情報の取扱規程」等の関連規程に沿って行われている。

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また、進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成 18 年度～20 年度　人間総合学科の進路状況

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区　分		18 年度		19 年度		20 年度	
a　卒業者数		294 人		229 人		133 人	
b　就職希望者数	b/a	128 人	43.5(%)	122 人	53.3(%)	67 人	50.4(%)
c　うち学校で斡旋した就職者数	c/b	50 人	39.1(%)	61 人	50.0(%)	7 人	10.4(%)
d　うち自己開拓分の就職者数	d/b	48 人	37.5(%)	37 人	30.3(%)	34 人	50.7(%)
e　就職未定者	e/b	30 人	23.4(%)	24 人	19.7(%)	26 人	38.8(%)
f　進学・留学希望者数	f/a	104 人	35.4(%)	51 人	22.3(%)	23 人	17.3(%)
g　その他	g/a	62 人	21.1(%)	56 人	24.4(%)	43 人	32.3(%)

平成 18 年度～20 年度　こども学科の進路状況

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区　分		18 年度		19 年度		20 年度	
a　卒業者数		141 人		147 人		142 人	
b　就職希望者数	b/a	110 人	78.0(%)	130 人	88.4(%)	119 人	83.8(%)
c　うち学校で斡旋した就職者数	c/b	68 人	61.8(%)	87 人	66.9(%)	48 人	40.3(%)
d　うち自己開拓分の就職者数	d/b	34 人	30.9(%)	39 人	30.0(%)	56 人	47.1(%)
e　就職未定者	e/b	8 人	7.3(%)	4 人	3.1(%)	15 人	12.6(%)
f　進学・留学希望者数	f/a	25 人	7.7(%)	16 人	10.9(%)	12 人	8.5(%)
g　その他	g/a	6 人	4.3(%)	1 人	0.7(%)	11 人	7.7(%)

平成 18 年度～20 年度　専攻科の進路状況

（平成 21 年 3 月 31 日現在）

区　分		18 年度		19 年度		20 年度	
a　卒業者数		4 人		5 人		7 人	
b　就職希望者数	b/a	4 人	100.0(%)	4 人	80.0(%)	4 人	57.1(%)
c　うち学校で斡旋した就職者数	c/b	0 人	0.0(%)	0 人	0.0(%)	0 人	0.0(%)
d　うち自己開拓分の就職者数	d/b	2 人	50.0(%)	4 人	100.0(%)	1 人	25.0(%)
e　就職未定者	e/b	2 人	50.0(%)	1 人	25.0(%)	3 人	75.0(%)
f　進学・留学希望者数	f/a	0 人	0.0(%)	0 人	0.0(%)	0 人	0.0(%)
g　その他	g/a	0 人	0.0(%)	1 人	20.0(%)	3 人	42.9(%)

(2)　学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

学生の就職支援の実務を担当するキャリア支援センターと、センターの運営方針等を検討するキャリア支援センター運営委員会が、全学的に学生の就職・進路の支援を行っている。

キャリア支援センターはセンター長(運営委員会委員長を兼務)を中心として事務職員５名(専任４名、嘱託１名）の計６名で構成される。一方、キャリア支援センター運営委員会は、人間総合学科、こども学科各１名の教員と併設大学の教員６名、キャリア支援センター担当課長の９名で構成される。

運営委員会会議は月１度定例で開催されるほか、必要に応じて臨時会議も設けられる。後に紹介するセンターの各業務に関連して、学生の状況に合った就職支援のあり方について定期的に検討が行われている。

(3)　就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

１）キャリア支援センター

キャリア支援センターでは、学生への求人情報の提供と、学生の相談に応じ的確な就職指導を行うための支援環境を整えている。

求人件数は年間 1,000 件を超える。本学は多様性に富む学科構成であるため、求人内容は多種多様である。そのため、求人票は一般企業・幼稚園・保育園等、分野別のファイルに分類し情報を提供している。各教員に対するＥメールでの求人情報の提供も適宜行って、年度末における内定先未定の学生の支援や応募期間の短い求人の対応に効果を発揮している。

資料室では、各企業・施設のパンフレットやＯＢ・ＯＧによる就職試験受験報告書を企業・施設別にファイリングしている。また、筆記試験対策書籍や面接試験対策用ビデオを完備し、学生の企業研究や試験対策に役立つよう配慮している。資料室にはパソコン 20 台を設置し、就職情報サイトや企業ＨＰの検索の他、受験エントリーシート作成等の作業を行う学生への便宜を図っている。

学生からの相談に十分応えられるよう①センター窓口に就職活動経験豊富な職員、②

全職員の就職指導能力の育成、③学生職業センター、就職支援機関、インターンシップ受入企業に訪問及び情報収集に努めている。

２）就職支援事業

本学では就職情報の提供及び就職支援として以下のプログラムを実施している。

(1) 就職ガイダンス：各年次の前・後学期開始時に全員参加の就職ガイダンス実施
(2) 学内企業説明会：２期に分けて企業説明会を実施し、学生の企業イメージ醸成
(3) 就職応援ブック　『就活ブック基本のき』の作成・配布：就職活動方法の解説
(4) 就職活動対策セミナー：「就職活動の方法論」の講義
(5) 面接訓練：個別面接トレーニング実施
(6) ビデオ模擬面接：ビデオで撮影して面接力の向上

３）就職支援に関する授業科目

全学共通科目として１年次後学期に「キャリアプランニング」を開講し、就職活動に向けての心構えや具体的な活動方法について学生に講義している。加えて、人間総合学科では、「プロジェクトワーク」「インターンシップ」「現代社会と就職」等の科目において、良き社会人になるためのトレーニングの機会を提供している。「プロジェクトワーク」及び「インターンシップ」では、インターンシップ先で何を学ぶかについて事前準備や計画を立案するところから取り組みを始めており、受入先でより深い学びを得ることを可能としている。また「現代社会と就職」では、外部講師を招いて、社会人になること、就職することへの基本姿勢を確立させている。

こども学科では、「教育実習」「保育実習」が、就職へ向けての心構えや現場で必要とされる様々な技術・能力の育成の場となっており、教育実習で認められ、就職につながるケースもかなりある。

(4)　過去３ケ年（平成１８年度～２０年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

＜人間総合学科＞

人間総合学科の３年間の就職率は平成 18 年度 77%、19 年度 81%、20 年度 61%である。本学科は進学者も多く就職希望者は全体の 50%程度である。近年の雇用の悪化が本学科にも影響している事実はあるものの学生の就業意識にも課題がある。

このような現状を踏まえ、平成 21 年度教育課程ではキャリア教育の充実を図り、「現代社会と就職」を必修化し、学科推奨科目を設けた。学生には将来に向けて充実した生き方・働き方・暮らし方を考える機会となるようキャリア教育に努めたい。

＜こども学科＞

過去３年間の進路状況は、就職 332 人(77.2%)、進学者 53 人(12.3%)、その他 18 人であり、平均就職率は 92.5%である。職業別の内訳は、小学校 30 人、幼稚園 126 人、保育所 147 人、児童福祉施設５人、一般企業 20 人である。保育士資格で就職する人が就職者の全体の約 44.3%で最も多い。例年、４月中旬までに就職希望者のほぼ 100%が就職する。このことは、保育園・幼稚園の新年度の入園児数が確定してから、保育士・教諭の採用者数を決定するためと考えられる。

小学校の教員採用は、子どもの減少にともない、小学校の統廃がすすみ本採用が減り、臨時採用が多くなっている。そのためには、臨時教員としての就職などの指導にも力を入れている。臨時教員内定者には、特別に時間を設定し学級経営の在り方、服務などについて指導を行い、現場に対応できるようにして将来の本採用につながる指導を心がけている。

本学科の特色である専修関連科目で身につけた指導法で、他の養成校にはない人材の輩出に力を注ぎたい。

(5) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度) の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

短期大学部からの進学および海外留学は、下表のとおりである。

短期大学として併設大学の４学科から編入学指定校枠を有しており、学内での説明会及び相談会が実施され、編入学志望者に便宜が図られている。他大学から得ている指定校枠には、専門教科担当教員が特別指導を行っている。

海外留学の実績は平成 17 年度まではカナダと韓国の姉妹校への留学実績はあるが、過去３年間は短期大学部にはいない。姉妹校への留学については「交換留学に関する締結」が交わされており、相互の留学生は学納金が免除される支援体制がとられている。

平成 18 年度～20 年度の進学及び海外留学の状況

種　別	18 年度	19 年度	20 年度	計
大　　学(編入学)	102 人	51 人	31 人	184 人
大　　学(入　学)	0 人	0 人	0 人	0 人
短　期　大　学	0 人	0 人	0 人	0 人
専　門　学　校	13 人	8 人	2 人	23 人
計	115 人	59 人	33 人	207 人
海　外　留　学	2 人	1 人	1 人	4 人

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度) の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生、科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。
なお、学生数はいずれの年度も５月１日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況

種　別	18 年度	19 年度	20 年度	計
留　学　生(人)	3	1	1	5
社　会　人(人)	0	2	3	5
帰 国 子 女(人)	0	0	0	0
障 が い 者(人)	5	2	1	8
長期履修学生(人)	0	0	0	0
科目等履修生(人)	16	9	1	26

科目等履修生については、規程が整備されている。とりわけ、学習支援面では、学習支援オフィスが窓口となり、事務手続きの一切を行っている。申し出期間の決定、科目担当

者への可否の問い合わせ、履修確定、成績や単位等、学生への連絡等、一元化している。女子留学生には雅館を学内寄宿施設として提供している。外国人留学生の学生生活については、平成 20 年度までは国際交流センター（平成 21 年度からは生涯学習センターと統合されてエクステンションセンターとなる）が窓口として担当の教職員が、一括した支援を行っている。

障がい者に対する支援としては、ノートテーキングのサポートや学内のバリアフリー化を進めている。

【特記事項について】

(1) この《Ｖ学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

前学期・後学期ごとに成績一覧表が担任に届けられ、それをもとに成績不良者には、担当教員が個別指導を行っている。学科会議で、小テスト、レポートなどの様子から学業意欲喪失者の情報交換をして特別指導をしている。

欠席理由がアルバイトや寝坊など生活習慣が確立していない長期欠席者には、原因を取り除くよう、友人や保護者の協力を得ながら指導している。心の病により登校できない者に対しては、学生相談室のカウンセラーと連携し指導にあたっている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈添付資料〉 ４．短期大学案内

〈参考資料〉14. 募集要項、入学願書等

15. 入学手続き者に対する入学までの情報提供のための印刷物等

16. 学習や科目選択のための印刷物

17. 学生支援のための学生の個人情報を記録する様式

18. 進路一覧表等の実績(過去３ケ年）についての印刷物

Ⅵ　研究

【教員の研究活動全般について】

(1)　次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

専任教員の研究業績は、以下のとおりである。

平成 18 年度～20 年度　専任教員の研究実績

学科名	氏　　名	職名	研　究　業　績				国際的活動の有無	社会的活動の有無	備考
			著作数	論文数	学会等発表数	その他			
人間総合学科	泉山　幸代	教授	0	2	4	3	有	有	
	小原　信夫	教授	0	0	0	0	無	有	
	菊地　はるひ	教授	0	4	7	0	有	有	
	北村　悦子	教授	0	0	0	1	無	有	
	作原　ひとみ	教授	0	0	0	4	無	有	
	田口　智子	教授	1	3	1	0	無	有	
	辻　　美恵子	教授	0	0	0	2	無	有	
	畠山　孝子	教授	0	3	2	0	無	有	
	大信田静子	准教授	0	3	0	0	無	有	
	大林　のり子	准教授	0	2	3	10	有	有	
	千葉　直樹	准教授	2	2	5	0	有	有	
	田　　光子	准教授	0	3	0	2	有	有	
	花井　篤子	准教授	4	10	10	6	有	有	
	湯澤　直樹	准教授	0	0	0	0	無	有	
	佐藤　晋也	講師	0	4	7	5	無	有	
こども学科	伊藤　和幸	教授	0	0	0	4	無	有	
	川村　道夫	教授	0	0	0	28	無	有	
	桑原　雅子	教授	0	0	0	0	無	有	
	紺野　忠一郎	教授	0	0	0	0	無	有	
	佐藤　慧	教授	1	0	0	1	無	有	
	晴山　紫恵子	教授	1	7	2	2	有	有	
	藤井　由美子	教授	1	3	0	0	無	有	
	水谷　一郎	教授	0	0	0	0	無	有	
	青池　美紀	准教授	0	4	1	0	無	有	
	菊地　達夫	准教授	1	17	1	0	無	有	
	澤田　悦子	准教授	0	6	5	6	無	有	
	谷本　百子	准教授	2	2	0	22	無	有	
	山川　彩子	講師	0	1	0	10	無	有	
	大宮　真一	講師	0	14	3	0	無	有	

（参考資料 19：教員個人の研究業績書(過去３ケ年)）

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

併設大学付置の北方圏生涯スポーツ研究センターのプロジェクト研究の共同研究・個人研究成果をセンターホール内にパネル形式で公開している。なお、教員個人の研究活動状況は研究紀要等への研究成果の報告にとどまっている。

(3) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数）を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択状況(平成 18 年度～20 年度)

(件数)

外部資金調達先等		18 年度		19 年度		20 年度	
		申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金		8	1	8	1	5	3
その他の外部研究資金	調達先・資金名等						
	厚生労働科学研究費補助金	0	0	0	0	1	0
	文部科学省　教育ＧＰ	0	0	2	0	0	0
	日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金	0	0	0	0	1	0
	北海道ろうきん社会貢献助成制度助成金ほか	3	1	4	2	5	0

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

人間総合学科では、学習系列の違う分野で連携して教育効果をねらう科目や行事の開発に取り組んでいる。こども学科は、本学科の小学校教師像・幼稚園教師像・保育士像の確立と学びの足跡を残す教育の方法のあり方について取り組んでいる。

併設大学付置の北方圏学術情報センター及び北方圏生涯スポーツ研究センターにて行われているグループ研究は下表のとおりである。

グループ研究状況(平成 18 年度～20 年度)

外部資金調達先等	18 年度		19 年度		20 年度	
	件数	短大研究員数（総研究員数）	件数	短大研究員数（総研究員数）	件数	短大研究員数（総研究員数）
北方圏学術情報センター	4	7（22）	2	4（14）	4	6（20）
北方圏生涯スポーツ研究センター	6	10（45）	6	9（46）	4	8（45）

【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去３ケ年(平成１８年度～２０年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

研究費は、「北翔大学短期大学部個人研究費規程」、「北翔大学特別研究費規程」、「北方圏学術情報センター規程」、「北方圏生涯スポーツ研究センター規程」、「公的研究資金等取扱規程」及びこれらに付随する規程に則って取り扱いがなされている。

個人研究費の交付額は、教員一人当たり 250,000 円(一般研究費 180,000 円、研究旅費 70,000 円、一般研究費から研究旅費への振替使用は可)である。平成 18 年度から平成 20 年度の３ヶ年の短期大学教員の共同研究における研究旅費は 10 名 2,038,884 円、科学研究費補助における研究旅費は２名 1,119,979 円であった。

(参考資料 20：研究費（研究旅費を含む）等の支給規定等)

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去３ケ年(平成１８年度～２０年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

本学では研究成果の交流、公表を行うため、研究紀要編集規程に基づき、『北翔大学短期大学部研究紀要』を毎年発刊し、平成 20 年度で第 47 号を数えている。

また、併設大学付置の北方圏学術情報センター、北方圏生涯スポーツ研究センターの研究機関の研究員として、短期大学教員 12 名が共同研究に取り組んでおり、センターが実施する研究会、シンポジウム等、叢書、研究年報など研究成果を発表する機会が確保されている。

(参考資料 21：過去３ケ年の研究紀要・論文集)

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成２０年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

教育研究に係る機器・備品・図書の整備については、学生のニーズや社会的需要に基づき、各学科の教育目的・目標が達成できるよう、必要に応じ整備を進めている。

平成 20 年度の支出状況

(単位：円)

	人間総合学科	こども学科	短期大学合計	備　考
教育研究用機器備品	5,817,252	6,037,364	11,854,616	
その他の機器備品	4,92,911	5,43,133	1,036,044	
研究費（旅費）	1,435,685	1,046,970	2,482,655	
研究費（その他）	2,139,872	2,026,740	4,166,612	
図書費(雑誌等含む)	2,900,484	1,599,248	4,499,732	併設大学　16,500,223

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

教員１人一部屋の個人研究室を確保している。個人研究室の設置状況(平成 21 年５月１日現在)は、29 室 657.91 ㎡(22.68 ㎡/人)である。その他、学内研究環境は、短期大学共同研究室(162 ㎡)が設置されているほか、併設大学に付置されている北方圏学術情報センター(8,689 ㎡)、北方圏生涯スポーツ研究センター(11,603 ㎡)の研究機関及び施設を有している。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

教員の研修日(週１日(特定曜日))・研究時間については、就業規則、教育職員の服務に関する内規に基づいて、研究時間が保障されている。また、学年始・夏季・冬季・学年末休業日は研究等に集中して取り組むことができる状況にある。

【特記事項について】

(1) この《Ⅵ研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

不祥事の発覚により経常費補助金等を返済したことに伴い、諸経費を削減して財務状況の改善を図っている。そのため、特別研究費制度を一時凍結、共同研究、個人研究費の減額措置を行うなど研究費も抑制してきた。しかしながら併設大学に付置されている北方圏学術情報センターと北方圏生涯スポーツ研究センターでは共同研究費の確保をした。前者は新しいプロジェクトを立ち上げ共同研究に着手し、後者は既存のプロジェクトの中間報告と最終報告書を提出した。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈参考資料〉19. 教員個人の研究業績書(過去３ケ年)
20. 研究費（研究旅費を含む）等の支給規定等
21. 過去３ケ年の研究紀要・論文集

Ⅶ　社会的活動

【社会的活動(国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1)　社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

教育の理念を踏まえた具体的実践目標として「教育重点大学」、「地域貢献大学」を掲げ、地域との連携を深め、地域に支えられる大学づくりを目指している。

第１は、学生自身が、ボランティアやインターンシップなどをとおして、地域理解を深め、地域交流を行っている。第２は、併設大学付置の研究施設「北方圏学術情報センター」、「北方圏生涯スポーツ研究センター」の共同研究に短期大学教員も共に参加し、学外研究員も含めた地域と関わる研究活動とその成果の地域還元に努めている。第３は、本学教員によるものを含め多岐にわたる地域公開講座を開設し、成人や高校生（高大連携・出前授業）に学習の場を提供している。その他最近の動向として、札幌市や江別市など行政からの呼びかけによる連携の事業があり、今後の方向性としても重視していく必要があると考えている。平成 21 年２月には江別市と江別市内４大学との「包括連携・協力協定」の調印を取り交わした。すでに、本学の特徴であるスポーツや子どもの健康づくりの協力依頼など具体的な動きが出ている。

平成 21 年度からは、生涯学習部門、地域交流部門、国際交流部門を統合してエクステンションセンターを立ち上げた。本学の地域貢献機能を対外的に明らかにし、地域との連携を深めていくことが目的である。また、地域の担い手として学生自身の確かな「地域認識」を育てるため、カリキュラムに「地域貢献科目」を指定し全学の選択必修科目とした。

(2)　社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

エクステンションセンターは平成３年に浅井学園オープンカレッジとして創設され、センター化を経てこれまで 18 年にわたって地域への生涯学習サービスを続けている。

社会人に開かれた各種講座をとおし、「社会人の学びなおし」の機会を提供している。さらに卒業生への教員免許２種を１種免許とするための免許法認定講座を実施してきた。また、社会人への学習機会の提供という観点から科目等履修生を受け入れている。このことは社会的経験の未熟な学生にとっては異世代交流として貴重な学びの機会になっている。教員にとっても教育研究の成果を知らせる場として、社会人受け入れを積極的に推進していきたいと考えている。

(3)　過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

開設する講座は、地域向け講座として地域住民の知性に向けた「教養講座」、興味関心で選べる「１DAY セミナー」、大学の研究教育の成果を発信する「公開講座」のほか、在学生

向けの「実力講座」である。実力講座は受講の希望があれば一般市民も受け入れていく努力をしているところである。

エクステンションセンター講座実施状況(過去３ヵ年)

年度	開設講座数	受講者数	一般受講数
平成 18 年度	114	1,586	1,031
平成 19 年度	131	1,797	1,137
平成 20 年度	122	1,957	1,571

(4) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

１）ふるさと江別塾(江別市教育委員会)

ふるさと江別塾は江別市教育委員会と本学を含めた江別市内４大学２短大とが連携して行う大学開放市民講座で、既にこれまで８ヵ年にわたり継続されている。

開設講座テーマ一覧（過去３ヵ年)

開催年度	開催日	講座テーマ	参加者概数
平成 18 年度	10 月 28 日(土)	江別の福祉政策～江別は“ここ”がすすんでいます～	46 名
		車椅子介護の実際	
平成 19 年度	11 月 10 日(土)	学生による福祉のまちづくりとユニバーサルデザイン	38 名
平成 20 年度	11 月 15 日(土)	四季を通じて野幌森林公園を利用した自然体験活動	30 名
		今年の冬はこれで決まり！新スポーツ“ゴルポッカ”を体験しよう	

２）子育てサポート講習(財団法人江別市シルバー人材センター)

平成 19 年度・20 年度に、社団法人江別市シルバー人材センターの要請に応じて、「子育てサポート講習」を運営した。地域のシルバー世代に、子育ての最新事情を提供することで、地域の子育て支援の充実に貢献した。

受講者数については、平成 19 年度が 30 名、平成 20 年度が 30 名であった。

３）げんきキッズ（札幌市、札幌健康スポーツ財団、(有)札幌運動教育センター、本学)

子どもの運動能力・体力向上を目的とした教室を札幌市の区民体育館で展開する事業を産・学・官が連携して展開するものである。教室を展開しながらプログラム開発から指導者養成、研修制度まで総合的システムづくりに取り組む長期的なプロジェクトである。

【学生の社会的活動について】

(1) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

社会活動の状況（人間総合学科）

開催年月	社会的活動	概　要
2006.6 札幌ｴﾙﾌﾟﾗｻﾞ	NPO 法人ﾅﾙｸ 10 周年記念として、ｼﾆｱと本学学生による「生き生きﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ」開催	高齢者が持参した服にｽｶｰﾌ、ﾌﾞﾛｰﾁ、ﾈｯｸﾚｽ、ｲﾔﾘﾝｸﾞ、指輪、帽子など小物をｺｰﾃﾞｨﾈｲﾄし、ﾍｱｰﾒｲｸや音響、照明などを服飾美術系と舞台芸術系の学生達が行った。
①2007.1 9 ②2007.3 ③2007.4・5	高文連演劇専門部との合同ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの開催	①「演劇における空間プランの創造とその実際（札幌市） ②講演、基礎講座、模擬公演などをとおして劇作りの実際を体験（小樽市） ③一つの台本(松谷みよ子作『二人のｲｰﾀﾞ』をとおして『Drama(表

④2007.4 ⑤2007.7 ⑥2008.1 ⑦2008.5 6 ⑧2009.1		現)』の実際を体験（札幌市） ④「感性を豊かに！中学・高校時代に演劇(文化活動）に係るとは！」(登別市) ⑤「基礎講座をとおして、劇作りの実際を体験する」(室蘭市) ⑥「一つの台本(『ﾄﾐｰが三歳になった日』)をとおして『劇作り』の実際を体験（札幌市） ⑦「一つの台本(『銀河鉄道の夜』)をとおして『劇作り』の実際を体験する。」(札幌市) ⑧「ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟをとおして集団『創作』を行い、『劇作り』の実際を体験する。」
2007.7	「ｽｸｰﾙﾕﾆﾌｫｰﾑ展示会」におけるﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ	縫製関係企業との産学連携。企業のﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ企画を服飾美術系と舞台芸術系の学生で実施。服飾美術系の学生が描いたｽｸｰﾙﾕﾆﾌｫｰﾑ10点のﾃﾞｻﾞｲﾝ画を基に企業側が縫製し作品化した。ｼｮｰは三部構成で「企業の新作発表」と「ｽﾎﾟｰﾂｳｪｱ」、「学生の作品」が披露された。会場のﾚｲｱｳﾄ案やｽﾃｰｼﾞ配置、照明、音響、ｼｮｰのﾓﾃﾞﾙは学生が担った。
2007.7	江別市大麻地区と文京台地区合同の夏祭りに着用するTｼｬﾂのﾃﾞｻﾞｲﾝ	服飾美術系の学生がﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰﾄの授業で、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀを使い図柄をﾃﾞｻﾞｲﾝし100枚のTｼｬﾂにプリントした。
2007.10 北翔大学	本学学生と子供による「こどもﾘﾒｲｸﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ」開催。	ﾃｰﾏ:「Ecoomagic」ｻｲｽﾞや色々な理由で着たいけど着られなくなった服を、お母さんと子供と一緒でﾃﾞｻﾞｲﾝし、ｼｮｰ形式で発表。
2007.12	石狩管内社会教育共同事業平成18年度「ﾌｫｰﾗﾑ石狩～豊かな心の育成～」	基調演劇として「遠くを・・・」を上演。ﾌｫｰﾗﾑの舞台設営・照明・音響・映像も担当。
2007.12	えべつ地球温暖化対策地域協議会、北海道地球温暖化防止活動推進ｾﾝﾀｰ主催「知って得するうちｴｺ講座」	「衣類で始める温暖化防止　with　ﾐﾆ･ﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ」 衣服でできる地球温暖化防止をテーマに学生が考案した肩掛けや巻スカートの紹介と着用して学生がﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰを実施
2008.2	「えべつFUROSHIKIﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ2007」開催	服飾美術系や舞台芸術系とｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝした「えべつFUROSHIKIﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」では、一般から風呂敷のﾃﾞｻﾞｲﾝを募集し、応募作品の人気投票を行い、上位作品を捺染機器で出力し、ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽやﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰのﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙを北翔大学PAL6Fにて開催。
2008.7	江別市大豆ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	「Ｆ’ｓﾌｪｽﾀ2008」に際し、出店の「のぼり」の制作依頼があった。専攻科服飾専攻の学生で20枚の「のぼり」を制作した。
2008.8	本学学生と高校生による「高校生ﾘﾒｲｸﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰ -Re:Fresh- 」を開催	人間総合学科の専門科目「ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ」「ﾌｧｯｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論(含演習)」のｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝとして実施。高校生のﾓﾃﾞﾙに合わせてのﾃﾞｻﾞｲﾝ、ｳｫｰｷﾝｸﾞ、ﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰの企画、演出すべて学生と高校生とが一緒に作り上げた。
2008.11	えべつ風呂敷ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ(道立ｾﾗﾐｯｸｱｰﾄｾﾝﾀｰ共催)	「えべつ風呂敷ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」は経営情報系のゼミが中心になり実施。ﾊﾟｰﾌｫｰﾏﾝｽや風呂敷の実演、服飾美術系学生による風呂敷ﾌｧｯｼｮﾝｼｮｰなどが行われた。舞台芸術系は舞台、照明、音響担当。
2008.6. 2008.12	えべつ地域温暖化対策地域協議会主催「知って得するうちｴｺ講座」 「えべつ環境広場2008」	“安全で暖かく、楽しい衣服からのｴｺﾛｼﾞｰ”着やすく暖かい衣服の提案を学生による作成とショー形式で発表

《 学生組織による社会的活動の状況 》

1）社会福祉活動

(1) ボランティアサークルみつばち

盲学校、知的障害者、自閉症、アスペルガー症候群児との交流・支援。盲学校(小中学校）での交流、遊びの企画。知的障害者更生施設の交流。自閉症・アスペルガー障害団体との交流。あしなが募金活動への参加活動等。

(2) 児童福祉研究会　ちゃっぷ

児童養護施設でのボランティア活動等

(3) 絵本サークルきたきつねのゆめ

病院ボランティア、剣淵町での合宿(保育所、幼稚園、福祉施設訪問)。定例の病院ボランティア(小児病棟で，絵本の読み聞かせ)。剣淵町「絵本の館」研修。剣淵町幼児施設、福祉施設でのボランティア活動等。

２）文化活動
(1) 北翔大学吹奏楽団
音楽演奏活動。よさこいソーランオープニング演奏。コンサートの実施活動等。
(2) YOSAKOI ソーランサークル友和
YOSAKOI ソーランへの参加。YOSAKOI ソーラン祭り、みちのく YOSAKOI 大会など、各イベントに参加活動等。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

具体的な地域体験活動(ボランティア) をとおした学びが有効であると考える。特に短期大学は２年後の社会生活に直結する効果がある。(1)にも示したとおり、人間総合学科では科目を活かし、積極的に組み込んでいる。また、地域活動は本学らしい取り組みが数多くみられ評価できる。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

平成 18 年５月から平成 19 年４月までの１年間、こども学科の学生２名をカナダ交流協定校、レッドディア・カレッジ英語研修プログラムに交換留学生として派遣した。

韓国の交流協定校については、平成 10 年度以降ほぼ毎年、短期大学部の学生を派遣していたが、過去３ヵ年については残念ながら短期大学部からの応募者がいなかった。しかしながら、短期間ではあるがソウルの培花女子大学と本学との間で研修団を毎年派遣しあい、学生の国際性涵養に努めている。

(2) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

昭和 62 年にアメリカの大学と提携したことを皮切りに、海外の諸大学と協定を交わし交流関係を深めてきた。学園全体として提携しているのは次のとおり、全７校である。なかでも、韓国およびカナダの協定校については、交換留学生や学生研修団の受け入れにより短期大学部の学生交流が行われている。

海外教育機関等との交流状況

	提携年	海外の教育機関	国（州）
1	昭和 63 年	マウントフッド・コミュニティカレッジ	アメリカ(オレゴン州)
2	平成 3 年	エンディコット・カレッジ	アメリカ(マサチューセッツ州)
3	平成 6 年	培花女子大学	韓国(ソウル特別市)
4	平成 8 年	哈爾濱学院	中国(黒竜江省)
5	平成 8 年	魯迅美術学院	中国(遼寧省)
6	平成 13 年	レッドディア・カレッジ	カナダ(アルバータ州)
7	平成 17 年	カピオラニ・コミュニティカレッジ	アメリカ(ハワイ州)

平成 18 年度は、培花女子大学(韓国) の幼児教育科学生が１週間、日語通翻訳科学生が

２週間の研修を行い、短期大学からは培花女子大学に学生を 10 月に派遣した。また、同大学からの交換留学生を短期大学人間総合学科に受け入れた。レッドディア・カレッジ(カナダ）との交流は、９月に短期大学研修団を語学研修として派遣した。交換留学生を短期大学人間総合学科(服飾美術系）に受け入れた。

平成 19 年度は、培花女子大学の幼児教育科学生、日語通翻訳科学生を交換留学生として２名受け入れた。レッドディア・カレッジについては、16 年の長きにわたるスポーツ交流が実を結び交流協定の締結につながったわけであるが、その礎を築いた女子バレーボール部の相互訪問が実施された。12 月には、レッドディア・カレッジ女子バレーボールチームが来訪し、国際親善試合や交流行事をとおして友好関係を深めた。

平成 20 年度は、これまでと同様に培花女子大学の研修団を受け入れた。ただし充実した研修が実現するように､受け入れ人数を 30 名以内に限定した｡本学からは研修団を派遣し、交換留学生は人間総合学科の学生として受け入れた。

(3) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

教育職員の海外派遣・国際会議出席等状況

年度	人数	国・都市	期 間	目　　的
平成 18 年度	7	ポルトガル	11 日間	世界水泳医科学バイオメカニズム学会発表
		シドニー	8 日間	国際肥満学会参加
		アメリカ	7 日間	日本語教育国際研究大会参加、提携校教育交流
		韓国	7 日間	姉妹校教育交流、体操競技ジュニア指導研究、研究調査
		南アフリカ	7 日間	世界社会学会議出席
		タイ	7 日間	国際体操連盟エアロビックワールドシリーズ大会審判･日本選手団長参加
平成 19 年度	6	カナダ	14 日間	スポーツ交流提携校教育交流
		ブルガリア	7 日間	国際体操連盟エアロビックワールドシリーズ大会参加
		スペイン	7 日間	同上大会参加
		〃	11 日間	フィットネスプログラム調査研究
		プラハ	7 日間	ガドリエンサーレ 2007 参加
		アメリカ	9 日間	バスケットボールのグローバル化の調査研究
		〃	6 日間	米国行動医学会発表
		韓国	7 日間	姉妹校教育交流
平成 20 年度	4	ドイツ	11 日間	国際体操連盟エアロビック世界選手権大会大会審判参加
		スペイン	9 日間	バスケットボールのグローバル化の調査研究
		アメリカ	12 日間	演劇研究調査
		韓国	6 日間	国際演劇学会参加
		台湾	5 日間	IWGA ﾜｰﾙﾄﾞｹﾞｰﾑ 2009 大会審判参加
		〃	5 日間	演劇研究調査
		タイ	7 日間	AGU ｴｱﾛﾋﾞｯｸｱｼﾞｱ選手権大会日本選手団長参加
		〃	8 日間	ｴｱﾛﾋﾞｯｸ国際審判員研修会参加
		日本	3 日間	国際服飾学術会議　国際会議参加

【特記事項について】

(1)　この《Ⅷ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

記載事項なし

(2)　特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈添付資料〉５．社会人受け入れについての印刷物等
〈参考資料〉22．海外留学希望者に向けた印刷物等

Ⅷ　管理運営

【法人組織の管理運営体制について】

(1)　短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

平成 18 年２月に就任以来、理事長はリーダーシップを発揮して経営と教学の分離を徹底し、内部監査を含む監査体制を構築した。経営にあっては、平成 19 年度に財務改善に裏付けられる学園中期経営改善計画を策定し、全学教授会をはじめ教職員全員に持続的に説明し、協力を得てきている。執行にあたっては、予算管理委員会によって点検・評価が加えられ、予算管理・統制を行っている。

教学については、学長のリーダーシップのもとで改革を進める方針を明確にした。設置学校の目的・目標の見直し、学習・学生支援体制の見直し、学生確保計画、学科の改組転換計画について、積極的に組織的・財政的措置を構じている。

また、理事長は常勤しており、重要事項に関する全ての決裁を行っている。

(2)　過去３ケ年（平成１８年度～２０年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成２１年５月１日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

理事会開催状況（平成 18 年度～20 年度）

年	月	日	主　な　議　案	出席者数	定数（現員）
18	5	13	協議事項 第１号　事件対応について 第２号　寄附行為の一部変更について 第３号　役員等の報酬・手当等に関する規程の一部改正について 第４号　その他	理事 7 監事 1	理事 9(7) 監事 3(2)
18	5	30	報告事項 第１号　監事選任の報告について 協議事項 第１号　平成 17 年度事業報告について 第２号　平成 17 年度決算について 第３号　評議員の選任・変更について 第４号　管理運営規程の改正について 第５号　平成 19 年度学生納付金について 第６号　弁護士契約の締結について 第７号　文部科学省最終報告について 第８号　平成 18 年度補正予算について 第９号　理事の選任・変更について	理事 7 監事 2	理事 9(7) 監事 3(2)
18	7	25	協議事項 第１号　大学名称変更について 第２号　管理運営規程の一部改正について 第３号　理事の選任について 第４号　文部科学省最終報告について 第５号　その他	理事 7 監事 1	理事 9(7) 監事 3(3)

18	9	27	報告事項 第１号　寄附行為変更について 第２号　教員免許課程認定申請について 第３号　大学名称変更届の提出について 第４号　地区説明会の開催について 第５号　有限会社カレッジ・メンテナンス清算事務完了について 第６号　その他 協議事項 第１号　補助金返還について 第２号　スポーツ優秀特待奨学生・特技優秀特待奨学生について 第３号　その他	理事 8 監事 1	理事 9(9) 監事 3(3)
18	12	15	報告事項 第１号　平成 18 年度上半期決算報告について 第２号　北翔大学ロゴ・ＵＩについて 第３号　北翔大学教育理念について 第４号　私立学校振興・共済事業団経営相談について 第５号　学生募集状況について 第６号　その他 協議事項 第１号　学則変更について 第２号　管理運営規程の改正について 第３号　平成 19 年度予算編成方針について 第４号　退職手当支給について 第５号　その他	理事 9 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)
19	3	9	報告事項 第１号　同窓会からの援助について 第２号　その他 協議事項 第１号　平成 19 年度事業計画について 第２号　予算案(平成 18 年度補正予算・平成 19 年度予算)について 第３号　寄附行為変更について 第４号　学則変更について 第５号　北海道ドレスメーカー学院造形科授業停止について 第６号　規程改正について 第７号　その他	理事 9 監事 3	理事 9(9) 監事 3(3)
19	5	25	報告事項 第１号　中期計画検討委員会の設置について 第２号　その他 協議事項 第１号　評議員の選任(案) について 第２号　理事の選任(案) について 第３号　監査法人への監査依頼について 第４号　学費等納付金規程の改正(案) について 第５号　平成 20 年度学費等納付金について 第６号　その他	理事 8 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)
19	5	30	報告事項 第１号　監事の選任について 第２号　その他 協議事項 第１号　理事長・専務理事の選任について 第２号　平成 18 年度事業報告(案) について 第３号　平成 18 年度決算(案) について 第４号　平成 19 年度予算(案) について 第５号　コンプライアンス委員長の選任について 第６号　その他	理事 8 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)
19	7	20	報告事項 第１号　学生募集状況について 第２号　寄付について 第３号　中期計画検討委員会報告について 第４号　監事の選任報告について 第５号　その他 協議事項 第１号　就業規則の改正(案) について 第２号　担保の追加(案) について 第３号　短期大学学則変更(案) について 第４号　コンプライアンス委員の変更(案) について 第５号　その他	理事 8 監事 1	理事 9(9) 監事 3(3)

19	9	27	報告事項 第１号　ＮＰＯ法人の設立について 第２号　社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムの選定について 第３号　在学生保護者懇談会実施について 第４号　学生募集状況について 第５号　大学広報について 第６号　雅館の改修修了について 第７号　学生個人情報の漏洩について 第８号　学園中期計画について 協議事項 第１号　北海道ドレスメーカー学院の学則改正(案) について 第２号　評議員の辞任について	理事 9 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)
19	11	28	報告事項 第１号　学生募集状況について 第２号　平成 19 年度予算執行状況について 第３号　コンプライアンス委員会開催状況について 第４号　学生情報漏洩対応について 第５号　その他 協議事項 第１号　平成 20 年度予算編成方針について 第２号　学園中期計画について 第３号　借入金の繰上げ返済について 第４号　その他	理事 9 監事 3	理事 9(9) 監事 3(3)
19	12	14	協議事項 第１号　コンプライアンス委員の選任について 第２号　評議員の選任について 第３号　学園中期計画について 第４号　前理事長への対応について 第５号　その他	理事 9 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)
20	2	20	協議事項 第１号　学園中期計画について 第２号　担保の追加について 第３号　評議員の選任について 第４号　その他	理事 9 監事 1	理事 9(9) 監事 3(3)
20	3	7	報告事項 第１号　評議員会選任理事の選出について 第２号　その他 協議事項 第１号　学則改正案について 第２号　副学長の選任について(案) 第３号　平成 19 年度補正予算案について 第４号　平成 20 年度事業計画案について 第５号　平成 20 年度予算案について 第６号　専務理事の選任について 第７号　コンプライアンス委員の選任について 第８号　将来構想について(案) 第９号　その他	理事 8 監事 3	理事 9(9) 監事 3(3)
20	5	23	報告事項 第１号　平成 19 年度事業計画について 第２号　平成 19 年度決算について 第３号　その他 協議事項 第１号　平成 20 年度予算について 第２号　生涯スポーツ学部ｽﾎﾟｰﾂ教育学科の設置届出について 第３号　収容定員変更及び学科名称変更に伴う大学学則改正について 第４号　寄附行為変更について 第５号　その他 定員割れ改善促進特別支援経費に係る調査について	理事 9 監事 1	理事 9(9) 監事 3(3)
20	7	25	報告事項 第１号　平成 20 年度の学生募集状況について 第２号　監査法人の監査報告について 第３号　生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の設置届出について 第４号　大学学則変更届の提出について 第５号　生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の教員免許課程認定申請について 第６号　定員割れ改善促進特別支援経費の申請について 第７号　その他 協議事項 第１号　前理事長への損害賠償請求について	理事 8 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)

			第２号　その他		
20	9	26	報告事項 第１号　内部監査室長の就任について 第２号　学生募集状況について 第３号　損害賠償請求起訴について 第４号　管理運営規程の改正について 第５号　予算管理規程の制定について 第６号　その他 (1) さっぽろ健康スポーツ財団との協定締結について (2) 保護者懇談会について 協議事項 第１号　コンプライアンス委員の変更(案) について 第２号　評議員の選任及び選任区分の変更(案) について 第３号　規程の改正について (1) 経理規程の改正(案) について (2) 学費等納付金規程の改正(案) について (3) 専門委員会規程の改正(案) について (4) 補助金等取扱規程の改正(案) について 第４号　役員の功労金の支給(案) について 第５号　その他	理事 8 監事 3	理事 9(9) 監事 3(3)
20	11	7	報告事項 第１号　学生募集状況について 第２号　平成 20 年度予算執行状況について 第３号　歯科医院賃貸契約終了に伴う諸取扱について 第４号　その他 (1) 平成 21 年度教員採用検査二次試験合格者について (2) 平成 20 年度経常費補助金特別補助の採択結果について (3) 北翔大学短期大学部第三者評価について 協議事項 第１号　諸規程の改正及び制定について (1) 公益通報者の保護に関する規程の制定(案) について (2) コンプライアンス管理規程の改正(案) について (3) コンプライアンス委員会規程の改正(案) について (4) 自主行動基準管理規程の改正(案) について 第２号　その他	理事 7 監事 3	理事 9(9) 監事 3(3)
20	12	12	報告事項 第１号　損害賠償請求起訴の経過報告について 第２号　平成 21 年度学生募集状況について 第３号　中期経営改善計画の中間報告について 第４号　コンプライアンス委員会活動報告について 第５号　その他 協議事項 第１号　平成 21 年度予算編成方針について 第２号　その他	理事 9 監事 3	理事 9(9) 監事 3(3)
21	3	16	報告事項 第１号　学生募集状況について 第２号　損害賠償請求起訴について 第３号　その他 協議事項 第１号　平成 20 年度補正予算(案) について 第２号　平成 21 年度事業計画(案) について 第３号　平成 21 年度予算案(案) について 第４号　学則変更(案) について (1) 北翔大学学則の改正について (2) 北翔大学短期大学部学則の改正について (3) 北翔大学大学院学則の改正について 第５号　規程の改正について (1) 学校法人浅井学園　経理規程の改正について (2) 北翔大学学費等納付金規程の改正について 第６号　その他	理事 8 監事 2	理事 9(9) 監事 3(3)

理事会についての寄附行為上の規定は、以下のとおりである。

寄附行為第６条（役員についての規定）、寄附行為第７条（理事の選任についての規定）、寄附行為第８条（監事の選任についての規定）、寄附行為第９条（同族関係者等の制限についての規定）、寄附行為第 10 条（役員の任期についての規定）、寄附行為第 11 条（役員の

補充についての規定)、寄附行為第 12 条（役員の解任及び退任についての規定)、寄附行為第 13 条（理事長の職務についての規定)、寄附行為第 14 条（理事の代表権の制限についての規定)、寄附行為第 15 条（理事長職務の代理等についての規定)、寄附行為第 16 条（監事の職務についての規定)、寄附行為第 17 条（理事会についての規定)、寄附行為第 18 条（業務決定の委任についての規定)、寄附行為第 19 条(常勤理事会の設置についての規定)、寄附行為第 20 条（議事録についての規定）

（参考資料 23：理事・監事・評議員名簿等）
（参考資料 24：平成 20 年度の理事会議事録）

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規定、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

法人及び法人が設置する学校の業務の円滑な運営を図るため、常勤理事会を設置している。常勤理事会は、法人業務の円滑な運営を図るため、あらかじめ理事会において委任された事項について協議し、業務を決定することを目的としており、理事長、専務理事及び常勤理事をもって構成されている。

常勤理事会に関する規定は、以下のとおりである。

根　拠　規　定：寄附行為第 19 条（常勤理事会の設置についての規定）

理事会との関係：寄附行為第 18 条（業務決定の委任の規定)、理事会規程第 19 条（常勤理事会への委任の規定)、常勤理事会規程第 1 条(目的の規定)、第 2 条（常勤理事会の構成の規定）

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成２０年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

監事の業務についての寄附行為上の規定は、寄附行為第 16 条（監事の職務についての規定）に定められており、平成 20 年度における監査業務執行状況は以下のとおりである。

(1) 財産状況の監査
① 実施時期・期間：平成 20 年５月
② 対象分野・事項：平成 19 年度決算に係る関係帳簿・書類を精査し、不動産・有価証券・現金預金その他の財産及び借入金等について監査を行った。
③ 監査結果：適正であることを確認した。
④ 公認会計士との連携の状況：監査時の意見聴取、内部監査室を通じた確認及び公認会計士の監査報告書により確認した。

(2) 業務状況の監査
① 実施時期・期間：平成 20 年５・７・９･11･12 月・平成 20 年２・３月
② 方法：理事の報告及び理事会への出席による。
③ 内容：平成 20 年度事業計画に基づき、事業を適正に執行しているかを確認した。
④ 監査結果：適正であることを確認した。

(3) 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申：なし

(4) 監査の結果、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があると

き、所轄庁への報告又は理事会及び評議員会への報告：なし

(5) 平成２０年度の評議員会の開催状況(主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会開催状況(平成 20 年度)

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数(現員)
20	5	22	報告事項 第１号　平成 19 年度事業計画について 第２号　平成 19 年度決算について 第３号　その他 協議事項 第１号　平成 20 年度予算について 第２号　生涯スポーツ学部ｽﾎﾟｰﾂ教育学科の設置届出について 第３号　収容定員変更及び学科名称変更に伴う大学学則改正について 第４号　寄附行為変更について 第５号　評議員選任理事及び評議員の退任申し入れについて	13	21 (20)
20	7	24	報告事項 第１号　平成 20 年度の学生募集状況について 第２号　監査法人の監査報告について 第３号　生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の設置届出について 第４号　大学学則変更届の提出について 第５号　生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の教員免許課程認定申請について 第６号　定員割れ改善促進特別支援経費の申請について 第７号　その他 協議事項 第１号　前理事長への損害賠償請求について	13	21 (20)
20	9	25	報告事項 第１号　平成 20 年度学生募集状況について 第２号　損害賠償請求起訴について 第３号　管理運営規程の改正について 第４号　評議員の選任及び選任区分の変更について 第５号　その他 (1) さっぽろ健康スポーツ財団との協定締結について (2) 保護者懇談会について 協議事項 第１号　経理規程の改正(案）について 第２号　学費等納付金規程の改正(案）について	13	21 (20)
20	11	6	報告事項 第１号　学生募集状況について 第２号　平成 20 年度予算執行状況について 第３号　評議員の選任及び区分変更について 第４号　その他 (1) 平成 21 年度教員採用検査二次試験合格者について (2) 平成 20 年度経常費補助金特別補助の採択結果について	14	21 (21)
20	12	11	報告事項 第１号　損害賠償請求起訴の経過報告について 第２号　平成 21 年度学生募集状況について 第３号　その他 協議事項 第１号　平成 21 年度予算編成方針について 第２号　その他	16	21 (21)
21	3	12	報告事項 第１号　学生募集状況について 第２号　損害賠償請求起訴について 第３号　その他 協議事項 第１号　平成 20 年度補正予算(案）について 第２号　平成 21 年度事業計画(案）について 第３号　平成 21 年度予算案(案）について 第４号　学則変更(案）について 第５号　その他	16	21 (21)

評議員会ついての寄附行為上の規定は、以下のとおりである。

寄附行為第21条(評議員会についての規定)、寄附行為第22条(議事録についての規定)、寄附行為第23条（諮問事項についての規定)、寄附行為第24条（評議員会の意見具申等についての規定)、寄附行為第25条（評議員の選任についての規定)、寄附行為第26条（準用規定についての規定)、寄附行為第27条（任期についての規定）

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えのない範囲で記述して下さい。

「私立学校法の一部を改正する法律」が平成17年４月１日から施行されたことに伴い、この法律に準じて「学校法人浅井学園寄附行為」の改正を行い、同年11月前理事長の不祥事件を機に平成18年２月「同寄附行為」の再改正と「学校法人浅井学園理事会規程」の制定及び「学校法人浅井学園常勤理事会規程」、「学校法人浅井学園管理運営規程」の改定を行い管理運営面での強化を明確にルール化した。

また、学校法人の業務及び会計に関わる事務機能強化を図るため、平成18年２月１日より内部監査制度を導入し、同年２月10日「学校法人浅井学園内部監査規程」を制定して事務管理部門を中心に監査を実施している。

内部統制上の環境整備に努めているところであり、具体的な改善事項は次のとおりである。

(1) 理事・評議員の定数改定

短期大学の管理運営について学外有識者の直接的な関与はないが、学校法人全体について平成18年５月理事・評議員を逐次増員し、それぞれの立場から学識に基づく管理運営に対する客観的かつ有益な助言が得られるようになっている。また、平成20年度から常勤理事を管理・教学部門等の部門別担当制を敷いて責任分担の明確化を図った。評議員については、21人中学外評議員が５人である。今後、大所高所から多様な意見を聞くことができるような体制の構築を検討していきたい。

(2) 監事の定数改定

平成19年５月、従来の２人から３人に増員し公認会計士・教育行政・民間企業代表者の各界からの構成とし、それぞれの分野から内部監査室と連携をとりながら多角的に業務及び学校会計について意見や提言を受けており有効に機能している。近年、監事の役割・使命は業務監査に重きを置くようになっており、経営・教学・事務管理運営を動態的に把握し業務執行状況を幅広く監査するには非常勤では限界があり、今後、常勤監事制度の検討をすすめていきたい。

(3) 各種管理規程類の整備

学校法人の業務事務の円滑かつ適正な執行を目的に業務執行上の権限の明確化と予算統制を目的に学校法人の予算編成、予算の執行手続き及び執行管理を明らかにし効率的で適正な執行を行うため、平成20年10月「決裁規程」・「予算管理規程」を制定し業務及び予算の両面における管理運営強化を図った。今後、一層管理運営面の改善を図るため「監事規程」・「資金運用規程」・「物品調達管理規程」等を整備し、ルールに基づいた風土の醸成を図っていきたい。

(4) 情報公開

従来から財務情報の概要は、「学園広報」・「学園ホームページ」に公開していたが、平成 19 年度より一般に公開することが適当でないものを除き、財務関係資料のほぼ全てをホームページに掲載し公開している。また、平成 20 年 10 月「情報開示に関する規程」に沿って積極的な情報開示に努めていきたい。

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

情報の共有による透明な運営体制を目指すため学長、副学長、両学科長による「学科長会議」を定例化し、学科の意向に十分耳を傾けながら、学長の意向に関してもそこで提案、十分話し合いを行い、学科長をとおして学科への周知をはかる形でリーダーシップの発揮を心がけている。

本学における教育研究活動上の事項の決定の流れは、日常的には教員組織の基本単位である学科において協議され、学長を議長とする教授会で決定される。学習支援委員会、学生生活支援委員会等各種委員会は大学と短期大学部合同の委員会となっており、必要と認められる事項については、教授会に報告し、その承認を得た後、関係部署と連携・協力して円滑な実施をはかる仕組みとなっている。研究活動は、発表媒体として「短期大学部研究紀要」をはじめ他学部の研究紀要への投稿が可能であり、併設大学付設の北方圏学術情報センターや北方圏生涯スポーツ研究センターでの共同研究活動には短期大学部教員も研究員として加わり、各研究報告書に成果を発表している。また、個人の研究業績は報告書の提出によって確認し、人事、教員編成の資料として活用している。共同研究については特別研究費審査・評価委員会を組織しており、とくに外部補助金にかかわるものに関しては学長が加って研究内容等の審査を行っている。教育に関する研究としては、学長を委員長とするＦＤ実施委員会を組織し、研修会や学生による授業評価、教育実践発表等を重ねることによって、教員の教授力のアップにも関与している。

（参考資料 25：学長選考規程）

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成２０年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。
なお、学則を添付して下さい。

教授会については、学則及び教授会規程に規定されている。教授会で審議すべき事項については、学則第９条（審議事項についての規定）に規定され、次に掲げる事項の審議を行っている。

(1) 教育及び研究に関する基本方針

(2) 学則、その他教育研究に関する規則等の制定及び改廃に関する事項
(3) 教育課程及びその実施に関する事項
(4) 入学及び卒業に関する事項
(5) 学生の休学、復学、留学、転学、退学、除籍、復籍その他学生の身分に関する事項
(6) 聴講生及び科目等履修生に関する事項
(7) 学生の指導及び賞罰に関する事項
(8) 教授、准教授、講師及び助手の候補者の選考並びに昇任に関する事項
(9) 名誉教授推薦に関する事項
(10) 各種委員会の設置及び改廃に関する事項
(11) その他学長が必要と認めた事項

また、合同教授会の構成員は、学則第 10 条に規定され、教授会は、学長、副学長、学科長、教授、准教授及び専任の講師をもって組織されている。ただし、必要に応じて、その他の職員を加えることができることとしており、通常開催には常時、事務局・担当の課長以上が出席している。また、必要に応じて、理事の出席を求めている。

教授会開催状況（平成 20 年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数(現員)
20	4	3	第 1 回短期大学部教授会(合同教授会) 報告･連絡事項 Ⅰ．大学･短期大学部共通 1．学長 (1) 将来構想委員会からの報告 ①生涯スポーツ学部開設準備室の設置について ②教育支援センター準備室の設置について (2) 平成 20 年度学務分掌について 2．教務委員会 (1) 平成 20 年度入学生等のクラス編成・在籍数について 3．その他	32	34
20	4	3	第 2 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1．新任紹介 2．第 25 回運営連絡委員会報告 3．第 1 回運営連絡委員会報告 4．教務委員会 ・平成 20 年度 3 月 31 日付除籍者について 5．学生委員会 ・オリエンテーション学生配布資料 ・交通安全教室について ・新入生歓迎･各種奨学金･入学時特待奨学生伝達式･学生表彰について 6．図書館･同運営委員会 ・平成 19 年度図書購入執行状況 ・資料返却延滞状況について ・外国語文献データベース利用契約について 7．生涯学習センター･同運営委員会報告 8．その他	31	34
20	4	9	第 3 回短期大学部教授会(臨時合同教授会) 報告･連絡事項 Ⅰ．大学･短期大学部共通 1．保健センター運営委員会 (1) 学生健康診断日程について 2．その他 審議事項 1．教務委員会 (1) 平成 20 年度学事日程について 2．その他	33	34

20	5	13	第4回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会 2. 人事委員会報告 3. 教務委員会 ・平成20年度(5月1日現在) 在籍者数について 4. 学生委員会 ・学内学生団体の新規設立2件について 5. 図書館･同運営委員会 ・平成20年度北翔大学図書館開館日程(案) 6. その他 ・共同研究室の利用について 審議事項 1. 教務委員会 ・平成20年3月31日付卒業者について ・平成20年度新入生の既修得単位の認定について ・平成20年度札幌圏大学・短期大学間単位互換履修生の派遣について ・平成20年度札幌圏大学･短期大学間単位互換履修生の受入について ・平成20年度前学期他学科又は他学部における授業科目の履修について ・平成21年度学部共通科目「ジェンダースタディーズ」の取扱について 2. その他	29	34
20	6	3	第5回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会 ・第6回･第7回運営連絡委員会報告 2. 人事委員会 ・第3回人事委員会報告 3. 文部科学省研究振興局より科学者受賞者推薦について 4. 教務委員会 ・平成20年度保護者懇談会の実施について 5. 学生委員会 ・定期総会終了について ・学内学生団体について 6. 図書館･同運営委員会 ・平成20年度図書購入予算について 7. アドミッションセンター･同運営委員会 ・5月31日のオープンキャンパス報告 8. 生涯学習センター ・平成20年度後期の学生を対象とした講座開設について 9. 学生相談室 ・学生相談室活動報告 ・学生相談室主催ミニワークショップについて 10. その他 ・共同研究室の利用について 審議事項 1. その他	25	34
20	7	1	第6回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 学長報告 ・定員割れ補助金申請について ・奨学金定員について 2. 運営連絡委員会 ・第8回･第9回運営連絡委員会報告 3. 学生委員会 ・淑萃会奨学金募集案内について ・学内学生団体について 4. その他 審議事項 1. 本学奨学生の選考について 2. その他	32	34
20	8	5	第7回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会 ・第10回運営連絡委員会報告 2. 保健センター ・保健講話について ・教職員の健康診断について 3. 第三者評価について	24	34

			4. その他 審議事項 1. 教務委員会 ・平成 20 年度新入生の既修得単位の認定について ・授業料未納による除籍について ・平成 21 年度学事日程(案) について 2. 学生委員会 ・北翔大学奨学規程の改正について ・試験における不正行為について 3. その他 ・短大共同研究室の利用状況について		
20	9	2	第 8 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会 ・第 11 回運営連絡委員会報告 2. 教務委員会 ・平成 20 年度北翔大学・北翔大学短期大学部保護者懇談会の実施について ・復籍希望者の対応について 3. その他 ・公募人事の応募状況について ・平成 21 年度教員採用一次検査結果について ・共同研究室閉鎖の日程について 審議事項 1. 教務委員会 ・学生動向について ・平成 20 年度前学期卒業認定について ・平成 20 年度後学期科目等履修生の出願について 2. その他 ・併修制度の廃止について	23	34
20	10	7	第 9 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会 ・第 12 回運営連絡委員会報告 2. 教務委員会 ・除籍について 3. 紀要編集委員会 ・学生紀要･研究紀要について 4. 第三者評価報告書作成委員会 5. その他 審議事項 1. 教務委員会 ・学生動向について ・平成 20 年度後学期科目等履修生の出願について 2. 図書館・同運営委員会 ・平成 21 年度購入雑誌について 3. その他	33	34
20	11	4	第 10 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会 ・第 14 回･第 15 回運営連絡委員会報告 2. 第三者評価について 3. 教育支援センター案についてのパブリック･コメントへの協力依頼について 4. ドレスメーカー学院生の短期大学の併修制度の廃止について 5. 学生委員会 ・学内学生団体の新規設立について 6. 保健センター･同運営委員会 ・麻疹抗体検査後の対応について ・保健講話について ・教職員の健康診断について 7. 生涯学習センター･同運営委員会 ・学生を対象とした平成 21 年度講座の開設について 8. 学生相談室 ・学生相談室相談状況 9. その他 審議事項 1. 教務委員会 ・学生動向について ・平成 20 年度後学期他学科又は他学部における授業科目の履修について	31	34

			2. 平成 21 年度人間総合学科ＹＥＳ－プログラム導入について 3. その他		
20	12	2	第 11 回短期大学部教授会(臨時合同教授会) 報告･連絡事項 Ⅰ. 大学･短期大学部共通 1. 事務局 (1) 平成 21 年度予算編成方針について 審議事項 Ⅰ. 大学･短期大学部共通 1. 教育支援総合センター準備室 (1) 教育支援総合センターの開設について 2. 事務局 (1) 事務局機構改編等に係る諸規程の改正について	31	33
20	12	2	第 12 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会報告 ・第 16 回･第 17 回運営連絡委員会報告 2. 図書館･同運営委員会 ・図書購入執行状況 ・資料返却延滞状況 ・卒業論文の保管について ・平成 21 年度購入雑誌について 3. その他 審議事項 1. 教務委員会 ・学生動向について ・芸術メディア学科と人間総合学科との他学科又は、他学部における授業科目の履修の特例に関する申し合わせについて 2. その他	31	33
21	1	8	第 13 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会報告 ・第 18 回･第 19 回運営連絡委員会報告 2. 教務委員会 ・芸術メディア学科と人間総合学科との他学科又は、他学部における授業科目の履修の特例に関する申し合わせについて 3. 学生委員会 ・淑萃会奨学金募集案内について 4. 生涯学習センター･同運営委員会 ・平成 21 年度公開講座について 5. その他 審議事項 1. 平成 21 年度短期大学部事業計画及び予算編成について 2. 教務委員会 ・学生動向について 3. その他	33	33
21	2	10	第 14 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1. 運営連絡委員会報告 ・第 20 回･第 21 回運営連絡委員会報告 ・渡辺将司先生の退職について 2. ＦＤ委員会 ・卒業予定者との懇談会 3. 教務委員会 ・プレイメントテストの実施について 4. 学生委員会 ・卒業年次生のロッカー内整理について ・試験における不正行為について 5. 図書館･同運営委員会 ・平成 21 年度購入雑誌について 6. その他 審議事項 1. 名誉教授の推薦について 2. 教務委員会 ・学生動向について ・授業料未納による除籍について	27	33

21	3	3	第 15 回短期大学部教授会(臨時合同教授会) 審議事項 Ⅰ．大学･短期大学部共通 1．事務局 (1) 学費等納付金規程の改正について (2) 教育支援総合センター規程の制定について 2．その他 Ⅱ．大学関連 1．事務局 (1) 学則の改正について (2) 北翔大学生涯学習研究所規程及び生涯学習研究所運営委員会規程の廃止について (3) 教職課程履修規程の改正について 2．その他 Ⅲ．短期大学部関連 1．事務局 (1) 学則の改正について (2) 教職課程履修規程の改正について 2．その他	28	33
21	3	6	第 16 回短期大学部教授会 報告･連絡事項 1．運営連絡委員会報告 ・第 22 回･第 23 回運営連絡委員会報告 2．教務委員会 ・ＧＰＡ制度について 3．学生相談室 ・平成 20 年度相談室利用状況 4．第三者評価報告書について 5．その他 審議事項 1．教務委員会 ・学生動向について ・卒業認定について ・北翔大学短期大学部保育士養成課程履修規定の改正について ・北翔大学短期大学部訪問介護員養成研修課程履修規定の廃止について 2．学生委員会 ・学生表彰について 3．その他	26	33

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規定、主な業務、構成メンバー、平成２０年度の開催状況等を記述して下さい。

本学では、運営に関し、学長の諮問機関として運営連絡委員会を置いている。また、大学運営を円滑に行うため、学則第９条に規定する合同教授会の下に各種委員会を設置し、専門的な問題について調整及び審議を行っている。(教授会規程第３条)

各種委員会は、併設大学と合同の委員会としている。また、平成 21 年度より組織機構を見直し、類似する機能を有するものの統合を行ない実施している。

委員会名称、根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成 20 年度の開催状況は次のとおりである。

(1) 運営連絡委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度 開催状況
北翔大学運営連絡委員会規程	教育･研究に関する重要事項の審議、教学に関する組織や規程等の改廃に関する審議、教学運営に関する重要事項の審議	学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、教育支援総合ｾﾝﾀｰ長、学習支援ｵﾌｨｽ長、学生生活支援ｵﾌｨｽ長、ＦＤ支援ｵﾌｨｽ長、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ長、ｷｬﾘｱ支援ｾﾝﾀｰ長、図書館長、教職ｾﾝﾀｰ長、保健ｾﾝﾀｰ長、体育管理ｾﾝﾀｰ長、ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝｾﾝ	24 回 (毎月 2 回)

		ﾀｰ長、北方圏学術情報ｾﾝﾀｰ長、北方圏生涯ｽﾎﾟｰﾂ研究ｾﾝﾀｰ長、保健ｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長(学生相談室担当)、事務局長	

(2) 点検評価委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学点検評価規程	自己点検評価及び外部評価の年度活動方針の策定､自己点検評価及び外部評価の企画・立案、評価項目の設定・実施及びその結果の公表、他	学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、教育支援総合ｾﾝﾀｰ長、学習支援委員長、学生生活支援委員長、ＦＤ支援委員長、図書館長、各ｾﾝﾀｰ長、事務局長、企画部長	2 回 (点検・評価小委員会　2 回開催)

(3) 人事委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部教育職員任用規程	教育職員の任免異動及び昇任等に関する事項	学長、副学長、研究科長、学部長、学科長（事務局長）	14 回

(4) ＦＤ実施委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学ＦＤ規程	学生による授業評価を含む教育評価に関する事項についての点検評価の実施、ＦＤ並びに教育評価の実施計画及び実施要領に基づき各学部学科及び各関係ｾﾝﾀｰ等に対して実施の指示、他	学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、教育支援総合ｾﾝﾀｰ長、ＦＤ支援ｵﾌｨｽ長、学習支援ｵﾌｨｽ長、事務局長	(FD 実施小委員会) 10 回

(5) 特別研究費審査・評価委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学特別研究費規程、北翔大学特別研究費審査・評価委員会内規	特別研究・共同研究費の審査及び研究成果等の評価に関する基本方針並びに実施基準の制定、審査及び選考の実施、研究計画の変更及び研究成果の公表時期の変更に関する審査並びに承認、他	副学長、研究科長、学部長、各学部の学科長のうちから各学部１名	3 回

(6) 入試総務委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学入試総務委員会規程	入学選抜実施方針・選抜方法の策定、学生募集、入学試験の実施に関する審議、及び入学選抜の合否判定	学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ運営委員長、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ運営副委員長、保健ｾﾝﾀｰ長、事務局長、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ担当課長	10 回

(7) 教育支援総合センター（平成 20 年度は、教務委員会・学生委員会・ＦＤ実施小委員会）

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学教育支援総合ｾﾝﾀｰ規程	《教育支援総合ｾﾝﾀｰ》 学習支援と学生生活支援､及び教育活動支援を総合的に実施するためのｾﾝﾀｰの組織及び運営についての審議及び実施	ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、教育職員、事務職員 〈ｾﾝﾀｰ会議の構成員〉 ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、学習支援委員会委員長、学生生活支援委員会委員長、ＦＤ支援委員会委員長、保健ｾﾝﾀｰ長、保健ｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長(学生相談室担当)、ｱﾄﾞ	

		ﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ長、ｷｬﾘｱ支援ｾﾝﾀｰ長、教職ｾﾝﾀｰ長、ｾﾝﾀｰ事務担当責任者	
	①学習支援委員会 （平成 20 年度、教務委員会） 学事に関する年間行事計画（学年暦）、学生の入学(ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ委員会の所掌に属するものを除く）及び卒業、学生の身分の異動に関する審議	北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員の内から、それぞれ若干名。担当課長	教務委員会 15 回
	②学生生活支援委員会 （平成 20 年度、学生委員会） 学生相談、学生の厚生、他	北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員の内から、それぞれ若干名。担当課長	学生委員会 14 回
	③ＦＤ支援委員会 （平成 20 年度、FD 実施小委員会） 教員の教育能力向上のための教育技術の開発・向上、授業計画の立案、学習に関する理論の研究及び教育評価方法の習得に関する審議	北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員の内から、それぞれ若干名。担当課長	FD 実施 小委員会 10 回

(8) アドミッションセンター運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度 開催状況
北翔大学ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ規程	学生募集対策、入学試験の実施に関する審議及びセンターの管理運営に関する審議	北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員のうちから、それぞれ若干名。担当課長	8 回

(9) キャリア支援センター運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度 開催状況
北翔大学ｷｬﾘｱ支援ｾﾝﾀｰ規程	学生のキャリア支援、就職指導業務の計画立案、就職指導の実施、センターの管理運営に関する審議	北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員のうちから、それぞれ若干名。担当課長	11 回

(10) 図書館運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度 開催状況
北翔大学図書館運営委員会規程	図書館の運営ならびに企画の大綱、図書資料購入方針及び選択、図書館の管理運営に関する審議	図書館長、図書館副館長、北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員のうちから若干名	9 回

(11) 教職センター運営委員会（平成 20 年度は、実習支援センター運営委員会）

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度 開催状況
北翔大学教職ｾﾝﾀｰ規程	教育職員免許状及び保育士資格取得に係る実習計画及び実習施設の確保・連絡調整、指定実習を履修する学生の指導・相談、実習教育に関する審議	北翔大学の各学部・学科及び北翔大学短期大学部の各学科の専任教員のうちから、それぞれ若干名。担当課長	12 回

(12) 保健センター運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度 開催状況
北翔大学保健ｾﾝﾀｰ規程	保健ｾﾝﾀｰ事業計画及び運営の大綱、学生及び職員の保健管理の基本方針の策定、他	ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、学校医、本学専任の保健師又は看護師、本学関係科長の推薦する本学専任教員関係学科から若干名、その他学長が必要と認めた者	11 回

(13) 体育管理センター運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学体育管理ｾﾝﾀｰ規程	体育管理ｾﾝﾀｰの事業計画及び運営の大綱、ｾﾝﾀｰの運営及び体育・ｽﾎﾟｰﾂ施設設備等の維持管理等に係る予算及び決算の策定､他	ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、本学関係学科長の推薦する本学専任教員関係学科から若干名、担当事務職員	8 回

(14) エクステンションセンター運営委員会

(平成 20 年度は､生涯学習ｾﾝﾀｰ運営委員会･国際交流ｾﾝﾀｰ運営委員会)

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ規程	ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰの事業計画及び運営の大綱、ｾﾝﾀｰの運営に係る予算及び決算の策定､他	ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、各学科長の推薦する専任教員若干名、担当事務職員	生涯学習ｾﾝﾀｰ運営委員会 11 回 国際交流ｾﾝﾀｰ運営委員会 8 回

(15) 北方圏学術情報センター運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学北方圏学術情報ｾﾝﾀｰ規程	ｾﾝﾀｰの運営の大綱､研究計画及び事業計画の策定、他	ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、ｾﾝﾀｰ長が指名する共同研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究員及び研究部研究員若干名	15 回

(16) 北方圏生涯スポーツ研究センター運営委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
北翔大学北方圏生涯ｽﾎﾟｰﾂ研究ｾﾝﾀｰ規程	ｾﾝﾀｰの運営の大綱､研究計画及び事業計画の策定、他	ｾﾝﾀｰ長、副ｾﾝﾀｰ長、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究員	10 回

(17) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
学校法人浅井学園ｷｬﾝﾊﾟｽ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄの防止等に関する規程	ﾊﾗｽﾒﾝﾄの防止等に関する施策の策定、ﾊﾗｽﾒﾝﾄに起因する問題の事実関係の調査、ﾊﾗｽﾒﾝﾄの防止等に関する啓発活動及び研修の実施	担当副学長、短期大学学長が推薦する者 1 名、大学学部長が推薦する者それぞれ各 1 名、事務局長が推薦する者 1 名、事務局総務部総務課長	4 回

(18) コンプライアンス委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
学校法人浅井学園「ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ管理規程」「ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ委員会規程」	ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽに関する組織及び体制の審議・承認と理事会への上程、ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽに関する規程・規則等の審議・承認及びそれらのうち重要なものの理事会等への上程、他	委員長・副委員長（あらかじめ監事の同意を得て理事会で選任)、法人外部から 1 名（弁護士又は有識者から選任)、内部監査室から 1 名	6 回

(19) 情報セキュリティ委員会

根拠規程	主な業務	構成員	平成 20 年度開催状況
学校法人浅井学園「情報ｾｷｭﾘﾃｨの基本ﾎﾟﾘｼｰ」「情報ｾｷｭﾘﾃｨ委員会規程」	情報ｾｷｭﾘﾃｨに関する組織及び体制の審議・承認と理事会への上程、情報ｾｷｭﾘﾃｨに関する規程・規則等の審議・承認及びそれらのうち重要なものの理事会等への上程、他	学長、副学長、研究科長、学部長、学習支援委員会委員長、学生生活支援委員会委員長、図書館長、事務局長、総務部長、 院長、副院長、事務長	0 回

(参考資料 26：委員会規程等)

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。

短期大学は独自の教育目標を掲げ、大学とは異なる使命を持っている高等教育機関であるが、大学と共通の課題も多く人材の有効活用の観点からも事務組織および委員会が一本化されている。そのため、短期大学独自の特色を発揮した取組が可能な委員会運営が課題である。

【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

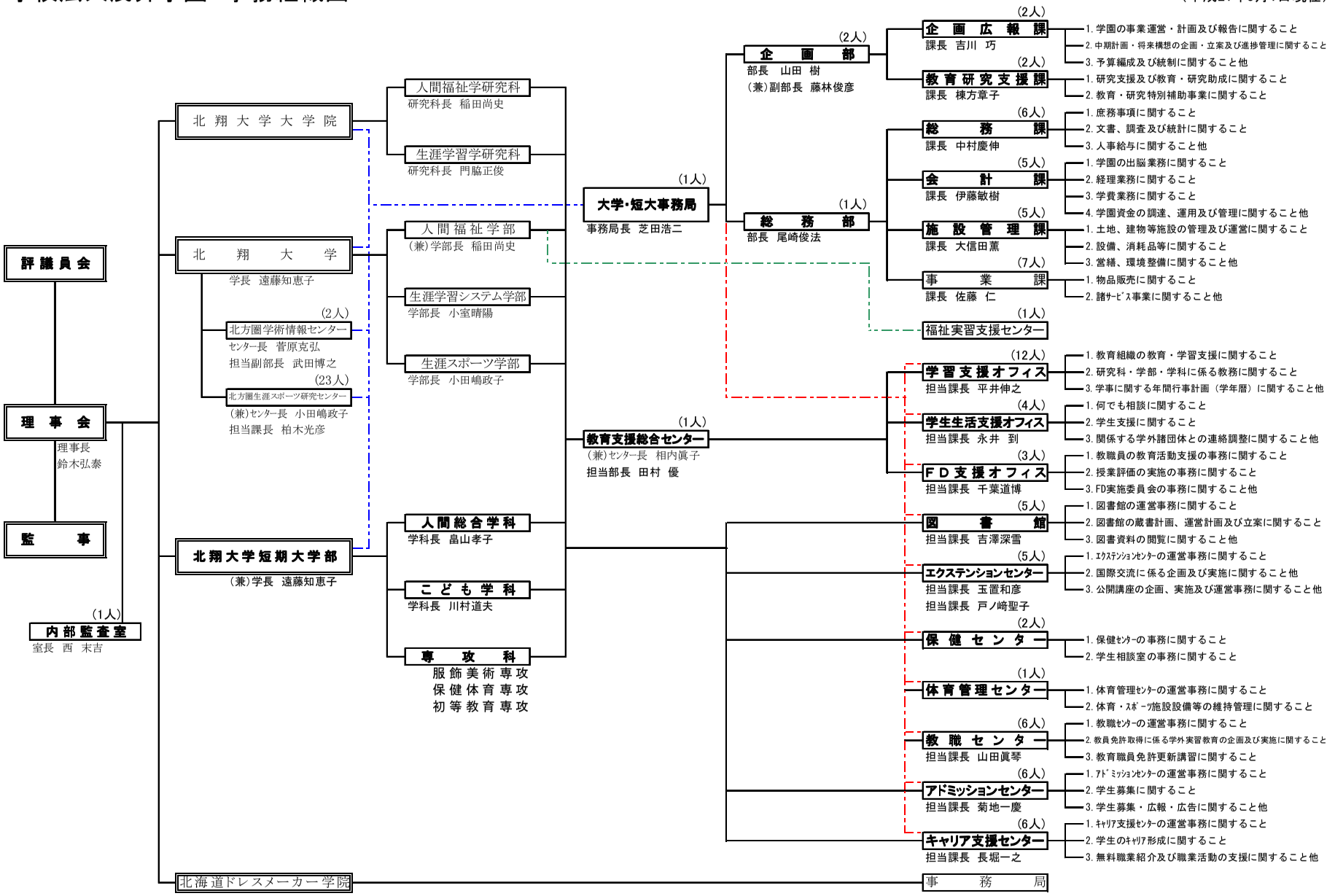
事務組織、職制及び分掌は、「管理運営規程」及び「事務分掌規程」に定められている。法人事務職員(収益事業部門含む)、大学・短期大学事務職員の総数は 115 人(専任職員 70 人、フルタイム臨時職員 11 人、パートタイム臨時職員 31 人、派遣職員 3 人、平成 21 年 5 月 1 日現在)である。

事務組織、職制及び分掌の概要は、つぎのとおりである。

(参考資料 27：法人全体の事務組織図(A 3 版))

学校法人浅井学園　事務組織図

（平成21年5月1日現在）



(2) 事務職員の任用(役職者の任免を含む）について現状を訪問調査時にご説明下さい。

学生数規模に対応した経営体制の確立をめざす中期経営改善計画に基づき、平成 19 年度から専任職員の採用は原則不補充、及び有期契約の職員については契約満了を原則とし、全体の職員数削減を行っている現状にある。

平成 20 年度、平成 21 年度と学校全体の組織・機構の統合による集約化とスリム化を図る中で、事務機構を改編成している。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

次の諸規程を整備して事務の組織的運営と円滑・適正な業務執行に努めている。

「管理運営規程」「事務分掌規程」「決裁規程」「経理規程」「予算管理規程」「文書取扱規程」「公印規程」「防災管理規程」「個人情報保護規程」「情報ネットワークシステム利用規程」「情報セキュリティ運用管理規程」など

（参考資料 28：事務組織についての諸規程）

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類(学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

1）決裁処理の概要

決裁規程、経理規程、予算管理規程、補助金等取扱規程及び工事契約に関する規程等に則り、稟議決裁及び支払決裁によって適正な決裁処理がなされている。稟議決裁は全て内部監査室の供閲を受ける措置がとられている。

2）公印、重要書類の管理

公印は耐火書架に収納され、稟議書をもって公印管理簿により主管課長が管理監督を行っている。重要書類（磁気的資料を含め）は所管部署長の管理監督のもとに保管されている。内部監査室によって定期的に適切な保管と執行について監査が行われている。

3）防災の状況

毎年度初めに防災防火計画が立てられ、消防署に提出し、査察、指導を受けるとともに、全教職員にも示し、防災意識の高揚を図っている。防火訓練等は限定的に実施している状況にある。

学内は機械警備システムとしているが、全日、複数警備体制で安全確保に努めている。

4）情報システムの安全対策

情報システムの管理体制として職員２名、業務委託者１名の３名でネットワークを含めた管理運営を行っている。管理及び設備等については以下の通りである。

(1) 本学のサーバ約９割をデータセンターにハウジングをしており、入退室管理、耐震、防災などの整備がされている。また、日々サーバの目視など管理がされている。ファイアウォールを含め不正な通信に関して 24 時間監視を行っている。また、ファイアウォールは必要最低限のポートを開放しており、その他のポートは、必要な時期に期間限定で開放している。

(2) 学内ネットワークは、学生、教員、職員、サーバ関連などに分けており(VLAN)サー　バへのアクセスを制限している。ポータルサイトについては、教職員を含めユーザＩＤ、パスワードの認証をしている。
(3) クライアントのセキュリティとして教職員については、ログイン時とスクリーンセイバーにパスワード設定している。学生使用のクライアント(パソコン室を含む)は、ユーザＩＤ及びパスワードの要求をしている。また、ログ等の管理アプリケーションを使用し、使用状況等を管理している。
(4) ウイルスに関しては、全クライアントに本学指定のウイルス対策ソフトのインストール、メールに関しては、ウイルス対策用サーバによりウイルス及びスパム対策を行っている。
(5) 全クライアントは、固定のＩＰをつけており、パソコン室を含めパソコン管理を行っている。

(5)　事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

総体的には教員及び学生からの支持・信頼を得ていると受け止めている。

学長は、日常から教員と事務職員は車の両輪の関係であるとの考えのもとで大学運営を行なっている。平成 15 年度から事務職員も学務分掌の一委員として教員と同等の立場で大学運営に参画している。したがって、教員と職員は上下の関係ではなく横の関係で緊密な連携を図り業務を遂行している。平成 20 年度からは学務運営の委員会をセンター化して業務完結型に改め、教員と職員が連携して業務を遂行している。平成 21 年度からは教育支援総合センターを設置し、学習支援、学生生活支援のほか心の問題を抱える学生への支援を含め、委員会同士の横の連携と教員と事務職員のより緊密な連携で取り組むこととしており教員からの信頼は得られていると受け止めている。

また、こうした教員と職員の連携した学生支援の取り組みにより学生からの信頼も得られていると考えている。

(6)　事務組織のスタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）活動(業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

事務職員のＳＤ活動については、系統だてて実施している状況にはない。外部機関による職階別事務職員研修会、実務者説明会・研究会に継続して参加計画を立て実施している。

平成 20 年度の外部機関の研究系及び研究助成に係る研修(出張)参加数 10 件、評価系セミナー５件、自己啓発系５件、事務担当説明会・セミナー11 件、情報系 10 件、管理運営系 23 件、教務系 10 件、学生指導系 22 件、図書系 11 件であった。

平成 21 年度から、教育支援総合センターにＦＤ支援オフィスを設置し、ＦＤ・ＳＤ活動支援を積極的に行っている。

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

本学ではひとつの事務局で大学と短期大学の事務を行っている。

平成 20 年度から始まった中期経営改善計画に沿って、減少した学生数に見合った事務局体制の整備が課題である。平成 19 年度から段階的に部・課の統合によるスリム化を図り、職員は平成 24 年度の 80 名体制（専任・嘱託職員 60 名、臨時職員 20 名）を目指している。

このため、これまで以上に教員との連携を図るとともに、業務遂行・事務処理の見直し・改善に努めているが、継続して課題となっている。

また、業務の複合化や多様化する学生に対応した学生支援等にスムースで適切な処理が必要となっており、複数部署の緊密な連携・協力を一層推進していかなければならないと考えている。

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規定(就業規則、給与規程）を訪問調査の際にご準備下さい。

教職員の就業・服務については、諸規程等に則り適正に行われている。短期大学と大学が、同一校舎内にあり、多くの面で共通の就業状況にあるが、それぞれの独自の特色を生かせるように、教職員のモチベーション向上や意識改革の推進を図ることが課題である。

(参考資料 29：教職員の就業についての規定)

(2) 法人(理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

＜理事長＞

過去(平成 17 年度まで)、理事長が学長職にもあり、法人業務と校務の決定が直接的になっていた。平成 18 年度から、これを改め諸々の改革を行ってきた。学長に教学と校務の統括委任を明確にし、経営と教学を分離している。学内には、理事長、専務理事、学長（理事)、専任教育職員である理事の４名の役員が常勤しており、日常的に教職員とフォーマル、インフォーマルにも意志疎通を図っている状況にある。

＜学　長＞

平成 20 年度から中期経営改善計画の実施をスタートしているが、学生数は継続的に減少する状況にあり、教育の付加価値的創造ならびに学科改組や学科定員の見直しおよび、教育職員の配置など、教学の課題について共有、協働する必要があることを強く感じている。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

平成 15 年度から、学務運営上の各委員会に担当事務部門の課長がこれまでの事務担当から運営委員として加わり、教員と同等の関係で委員会が運営されている。また、委員会運営に限らず事務所内、研究室等で教員と事務職員による打ち合わせ、確認・相談などの光景が頻繁に見受けられ、教員と事務職員が一体となって学生支援及び大学運営が進められている。

教育目標を達成するためには、教職員一丸となって取り組まなければならない。そのためには、互いの立場を尊重し、相互援助し合うことが必要である。

本学では、

(1) 教授会・各委員会などの構成員に事務職員を含め、教育課題の共通認識を図り、課題解決にあたっている。

(2) 学生へのきめ細かな指導を実現させるために、教職員全員が情報交換や相談できる体制を取っている。

(3) 入学時のオリエンテーション、オープンキャンパス、保護者懇談会などにも教員だけでなく、事務職員も参加し、それぞれの役割を果たしている。

(4) 学生の抱える問題、単位不足、履修、不正行為、出席状況など、教員と事務職員と

が連携をし、保護者の連絡、支援など、学生生活に適応できるよう援助している。
教員と事務職員の関係は良好で、協同して学生を育てようとする姿勢が十分にある。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の健康管理として、保健センターで実施する学内定期健康診断の受診を義務づけている。受診率は平成 19 年度で 93.6%、平成 20 年度では 85.5%となっている。未受診者の個別指導とともに、講演会等を実施し健康意識の啓蒙を図っている。学校医・産業医は専任教員として勤務しており、個別健康相談に対応している。

就業環境では、分煙環境の整備、休憩室の設置、全職員のＰＣ環境整備、コンプライアンス実施環境の整備、キャンパスハラスメント相談員の配置など、職場環境の改善に努めている。

就業時間は、４週６休体制により、週平均 37 時間の勤務時間としている。事務・技術職員は現在、中期経営改善計画に則り要員の不補充及び削減を行っている。特に平成 20 年度、21 年度は大学全体の事務システムの更新年度であり、全体的に時間外勤務が増加している状況にあるが、運用が軌道にのると削減される予定である。教育職員は、教育組織の所属と同時に校務執行機関に所属し、学生の課外活動顧問としても就業している。「教育職員の服務に関する内規」に基づいて、週１日の研修日、及び休業期間の研修日を研究等に有効に活用できる就業環境にある。

【特記事項について】

(1) この《Ⅷ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

教員による学務運営機構を事務体制と統合した業務完結型のセンターに組織化するとともに、事務体制の統合と集約化を図り、業務・運営の円滑な遂行に努めている。また、平成 18 年２月にコンプライアンス委員会を設置し、役員をはじめ全教職員にマニュアルを配布するとともに研修会も実施し、学園全体でコンプライアンス意識の向上に努めている。

予算の執行管理は各部門に責任を持たせ、９月末での執行状況と執行見とおし、年度末での執行実績報告を各部門が行うことで一人ひとりが効果的な予算執行と経費削減の意識を持って運営にあたっている。このほか、平成 19 年度からは役員を含む職務手当の段階的削減と支給率の削減、平成 20 年度からは加えて教員・職員の期末手当の支給率削減により人件費を抑制し、財務状況の改善に努めている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成) できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈添付資料〉６．寄附行為
７．学則

〈参考資料〉23. 理事・監事・評議員名簿
24. 平成 20 年度の理事会議事録
25. 学長選考規程
26. 委員会規程等
27. 法人全体の事務組織図
28. 事務組織についての諸規程
29. 教職員の就業についての規程

Ⅸ　財務

【財務運営について】

(1)　学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

＜計画の名称＞

中期経営改善計画

＜策定した経緯＞

平成 17 年 11 月の不祥事により、多額の補助金返還を行なった。経常費補助金については、平成 18 年度は不交付、平成 19 年度から段階的交付となっている。また、不祥事により、志願者は大幅な減少となり、平成 19 年度は大学を含め８学科中５学科で定員割れの状況となった。短期大学部では人間総合学科、こども学科の２学科のうち特に人間総合学科で大幅な志願者・入学者の減少となった。平成 20 年度から人間総合学科は入学定員を 150 人に変更した。

学園では、平成 18 年２月に新学長を選出し、理事の交代・増員、監事の増員などの新体制を発足し、不祥事の原因を究明すると共に失った信頼を回復し運営、財務の健全化を図るため中期計画の策定の検討を開始した。平成 19 年度初めに中期計画検討委員会を発足し、日本私立学校振興・共済事業団との相談を経て平成 20 年２月に財務・運営状況の健全化およびそのための施策、教育内容の充実、学生確保を柱とした「中期経営改善計画」を策定、文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団に提出した。

（参考資料 30：中・長期の財政計画）

(2)　学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

10 月下旬から 11 月上旬に、規程に基づく予算管理委員会で予算編成方針(案) を策定し常勤理事会及び理事会・評議員会で審議、承認を経た後、各予算管理単位(学部学科、学務運営の各センター、事務局各部門)へ編成方針並びに委員会で策定した配賦額を通知する。各予算管理単位は(学部・学科の事業計画及び予算は、教授会審議を経た後)、事業計画の策定と共に予算編成方針に沿った予算措置要請(案) を提出する。予算管理委員会は各部門から提出され、まとまった予算案の精査・確認を行い、必要に応じて各部門とのヒアリングを行い、確認・調整を行う。

予算管理委員会でまとめた事業計画・予算案は、常勤理事会、評議員会、理事会での審議を経て３月に策定する。なお、予算については、前年度決算及び当年度の学生数の確定により調整があるため、５月開催の常勤理事会、評議員会、理事会で確定する。確定した予算は、予算管理委員会から各予算管理単位へ書面をもって通知する。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

各部門等の予算は理事長から学長・事務局長を経て各部門に通知文書をもって伝達される。予算執行、出納業務の流れは、以下のとおり。

(1) 予算管理規程に則り、各部門(各予算管理単位)から支払書、納品・請求書、領収書および稟議決裁書（予算管理単位の長の予算執行委任権限を越える場合）が会計課に提出される。

(2) 会計課で証拠書類を確認し、証拠書類と伝票を経理規程により決められた会計担当部署責任者の決裁印を受け、支払処理をする。

(3) 出張については、決裁規程に基づく出張伺い決裁及び旅費規程に基づく旅費精算書の決裁を受け、会計課に提出される。会計課で証拠書類を確認し、証拠書類と伝票を経理規程により決められた会計担当部署責任者の決裁印を受け、支払処理をする。

財務諸規程の整備状況は、以下のとおりである。

「経理規程」、「予算管理規程」、「決裁規程」、「補助金等取扱規程」、「工事契約に関する規程」、「旅費規程」、「個人研究費規程」、「特別研究費規程」、「公的研究資金等取扱規程」、「公的研究資金等に係わる間接経費取扱規程」、「学費等納付金規程」など、又、「固定資産・物品調達管理規程」は平成 21 年５月に整備計画をしている。

（参考資料 31：経理規程等の財務諸規程）

(4) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

＜監事の監査状況＞

監事の監査は、全ての理事会への出席による法人状況と業務執行状況監査、内部監査室との連携監査、監査法人の期中・期末監査時に行う財産状況等の監査を行っている。

＜公認会計士の監査状況＞

平成 19 年度期中から監査法人による監査を実施しており、指摘事項は当該年度に対応している。監査実施状況は下表のとおりである。

公認会計士による監査実施状況(平成 18 年度～20 年度)

年	月	日	監　査　概　要	指　摘　事　項
19	3	29～30	業務監査	
19	4	2	現金実査	
19	4	28～29	北海道ﾄﾞﾚｽﾒｰｶｰ学院・大学・短期大学授業料、人件費、生涯学習ｾﾝﾀｰ、収益事業監査	
19	5	1～6		
19	5	7～8	北海道ドレスメーカー学院期末監査	
19	5	19～20	大学・短期大学・収益事業期末監査	
19	5	26～27	法人合算会計監査【宮崎公認会計士事務所】	
19	8	20～24	期首の残高の監査及び内部統制評価【新日本監査法人、以後同じ】	海外の取得資産の売却について、平成 19 年度中に完了(銀行口座整

19	10	9～11	内部統制評価	理)。 収益事業元入金に対する引当金計上について、貸借対照表に欠損金注記を行った。
19	12	10～14	期中監査	
20	2	18～22	期中監査	
20	4	1	現金実査	
20	5	12～16	期末監査	
20	8	18～22	内部統制の整備状況の調査	
20	12	8～12	内部統制の運用状況の調査・期中監査	
21	2	23～27	期中監査(議事録・決裁文書、学納金検証、固定資産検証、決算見込、統制テスト)	土地売却計画による基本金取り崩しを含め、予算補正を行った。
21	4	1	現金実査	
21	4	24	北海道ドレスメーカー学院期末監査	
21	5	14～20	法人期末監査	特段の指摘事項なし。

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第４７条第２項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

財務情報の公開は、平成 16 年度までは年４回発行していた学園新聞に掲載し、公開してきた。

平成 17 年度からは、収支計算書及び貸借対照表を学園新聞に掲載し公開した。平成 19 年度からは、ホームページに学校法人の概要、事業概要報告、決算概要、収支計算書、貸借対照表、財務比率、財産目録、監査報告書を掲載し公開している（学園新聞の発行は休止)。

私立学校法第 47 条第２項に基づく財務情報の公開については、本学園の寄附行為第 37 条第１項に「毎会計年度終了後２月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告を作成しなければならない。」同条第２項に「前項の書類及び第 16 条第３号の監査報告書を、事務所に据え置き、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。」と規定している。

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

寄附行為 29 条３項には、「運用財産は法人の設置する学校の経営に必要な財産（将来運用財産）とし」ている。また、同 31 条には「運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、または確実な信託銀行に信託し、又は、確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する」と定めている。法人の設置する学校の経営の安定的、継続的な進展を図ることを目的に資金の保有・運用を行うものである。

法人は、現在、永続的な経営維持のための充分な資金保有が出来ている状況ではないが、経営リスクマネッジメントとして、資金等の運用について運用対象、運用手続き、管理体制等に係る「資金運用規程」を平成 21 年度に制定する計画である。

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

現在、寄附金・学校債の募集は行っていない。平成 21 年５月に特定公益増進法人の証明書の交付を受け、寄附金募集を行う計画である。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式１にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料８のとおり

(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成２１年３月３１日現在）を、別紙様式２にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料９のとおり

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表）について、過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

参考資料 32 のとおり

(4) 過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除いた比率）を、小数点以下第２位を四捨五入し第１位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率(平成 18 年度～20 年度)

区　分	18 年度	19 年度	20 年度
教育研究経費支出　(a)	318,520 千円	253,842 千円	213,723 千円
帰属収入　(b)	1,021,534 千円	830,510 千円	745,167 千円
教育研究経費比率　(a)/(b)	31.2%	30.6%	28.7%

本学の教育研究経費比率は、短期大学部門では全国平均を上回っている状況にある。

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

固定資産管理規程関係	学校法人浅井学園「車両管理規程」 学校法人浅井学園「固定資産及び物品管理規程」 北翔大学「楽器等の維持管理及び使用規程」
図書管理規程関係	北翔大学「図書館規程」 北翔大学「図書館資料収集・管理規程」
施設設備等の管理に関する諸規程関係	北翔大学・北翔大学短期大学部「防災管理規程」 北翔大学「電気工作物保安規程」 北翔大学・北翔大学短期大学部「危険物一般取扱所予防規程」 学校法人浅井学園「工事契約に関する規程」 北翔大学・北翔大学短期大学部「学内施設使用規程」 北翔大学・北翔大学短期大学部「職員の施設使用規程」 北翔大学・北翔大学短期大学部「研究室使用規程」 北翔大学「北方圏学術情報センター規程」 北翔大学「北方圏生涯スポーツ研究センター規程」 北方圏生涯スポーツ研究センター施設設備等の維持管理及び運営に関する内規 体育・スポーツ施設設備等の維持管理及び運営に関する内規
財務諸規程関係	学校法人浅井学園「決裁規程」 学校法人浅井学園「経理規程」 学校法人浅井学園「補助金等取扱規程」 学校法人浅井学園「予算管理規程」

（参考資料 33:固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する規程、財務諸規程）

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

1）火災等の災害対策

学校敷地内の防火設備等は、年２回、委託業者とともに点検を実施している。点検内容は、消防法の規定に基づき、点検結果を消防署に報告を行っている。

2）防犯対策

正門に守衛を配置し、訪問者・進入車両の確認を行っている。また、敷地及び校舎等内の日常定期巡回を実施している。特にロッカー室、更衣室、危険物等設置施設周りには終日記録する監視カメラを設置している。夜間は、機械警備システムを導入している。

3）学生、教職員の避難訓練等の対策

学生には、防災対策・防火設備、避難経路等について学生便覧で示し、オリエンテーション等で注意を促している。教職員には、毎年４月に防災計画書を配布し、各室等の火元責任者、防災対策体制、それぞれが行う役割、防災点検計画日程等を示し、防災意識を高めている。総合的な避難訓練は未実施であり、平成 21 年度は規模を限定し、部門単位、目的単位で個別実施する計画である。

4）コンピュータのセキュリティ対策

【事務組織について】(4)－４）情報システムの安全対策に記載のとおり。

5）省エネ及び地球環境保全対策

施設管理課において光熱水費、使用量、CO_2 換算排出量の月次管理を行っている。

また、冷暖房は、室内温度の状況を把握し、極力、使用を抑えている。その他、紙ベースから情報グループウェア活用に転換してきている。

今後は、学生・教職員に直接働きかけるエコキャンペーン週間等を設け、省エネに努める予定である。

【特記事項について】

(1) この《Ⅸ財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

記載事項なし

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成) できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈添付資料　８．資金収支計算書・消費収支計算書の概要(過去３ケ年)
　　９．貸借対照表の概要
〈参考資料〉30. 中・長期の財務計画
　　31. 経理規程等の財務諸規程
　　32. 財産目録及び計算書類(過去３ケ年)
　　33. 固定資産管理規程、図書管理規程、施設設備等の管理に関する諸規程、財務諸規程

Ｘ　改革・改善

【自己点検・評価について】

(1)　短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

＜自己点検・評価の位置づけ＞

学則第３条に教育研究水準の向上に資するとともに、本学の目的を達成するため、本学の教育・研究、組織・運営及び施設整備の状況について状況について自ら点検・評価を行い、その成果を公表することで大学運営の重要な項目と位置づけている。また、点検評価規程には第８条において結果の公表、第９条において結果の活用を規定している。結果の活用では、改善が適当と認められるものは、学長が学内機関に諮るとともに改善策を理事長に報告すること、また改善勧告を行うことができることとしている。各部門長は、点検評価結果を真摯に受け止め、各分野における諸活動の水準の向上とその活性化に努めるものとすることも規定している。理事長は、学長からの報告、提案に基づき、必要な事項の改善の指針を示し、必要な措置を講じるよう努め、本学の教育研究環境の改善を推進するとしている。

＜自己点検・評価の組織＞

点検評価委員会を設置している。委員会構成員は、大学を含めた全学的組織であり、学長、副学長、学習支援委員長、学生生活支援委員長、研究科長、学部長、学科長、図書館長、各センター(学務運営組織)長、学生相談室長、事務局長及び企画部長を規定しており、27 名で構成をしている。

＜今後の自己点検・評価の実施＞

具体的な点検評価の実施内容、方法等は点検評価委員会で認証評価に準じた点検評価マニュアルに基づいて継続実施していく。

(2)　過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去３ケ年(平成１８年度～２０年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

自己点検・評価報告書は３年ごとに作成することとしており、平成 15 年度から平成 17 年度までの報告書を平成 18 年度に作成した。報告書は、ホームページに掲載し広く公表することとして他大学等関係機関への配付は行っていない。平成 18 年度から平成 20 年度までの自己点検・評価報告書は、この自己点検・評価報告書であり、短期大学基準協会による認証評価を受け、評価結果を合わせてホームページに掲載し、公表する予定である。

なお、毎年実施する自己点検・評価は年次報告書としてまとめ、学内ネットワークに掲載していたが、平成 19 年度の年次報告書からホームページでの公表に改めた。

（参考資料 34：過去３ケ年にまとめられた自己点検・評価報告書）

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成２０年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

自己点検・評価に関して、点検評価規定を設け、点検評価委員会並びに点検評価小委員会及び専門委員会を組織し、教職員の関与並びに活用を行っている。

今後、自己点検・評価に関しての教職員の関与については、教職員全員の経営参画意識を高める必要があると考える。そのためには、現行の報告書作成において各部署の主体性を尊重した討議、客観的なアンケートの実施、事務職員の点検・評価委員会への参加など、教職員全員から何らかの形で自己点検・評価に参画する方法を取り入れていきたいと考えている。

(2) 平成２０年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

理事会は平成 19 年４月から中期経営改善計画の策定を進めており、これまでの点検評価結果、再生委員会提言を考慮しながら経営の安定、大学運営改善に向けた検討を行い、平成 20 年２月に「中期経営改善計画」を策定し、文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団へ報告した。

大学と短期大学は、平成 20 年４月から、この５ケ年にわたる計画に沿った運営・改善を進めているところである。今後は半期ごとに計画の達成（進捗）状況を常勤理事会、理事会へ報告し、確認を行う中で点検評価結果と合わせて修正・見直しを行うなど経営の安定化、運営改善に活かしていくこととしている。

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成２０年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

＜大阪薫英女子短期大学との相互評価＞

平成 12 年度には、両短大に共通する初等教育学科と服飾美術学科を主な対象に、建学の精神、教育の理念および、教育指導（６項目）をテーマとして相互評価を実施した。

評価結果を真摯に受け止め、その後の教育水準の維持発展に努めるとともに学内の組織改革において改善を図った。また、相互評価点検中に保育士課程設置に係る指導・情報をいただき、平成 14 年度、初等教育学科に保育士課程を設置した。

＜国際学院埼玉短期大学との相互評価＞

平成 13 年度には、両短大に共通する初等教育学科と服飾美術学科を主な対象に、建学の精神、教育の理念及び教育指導（５項目）をテーマとして相互評価を実施した。

評価結果は教育水準の維持向上、学内の組織改革に活かされた。また、相互評価点検中の貴重な情報交換が、平成 14 年度の初等教育学科での保育士課程設置及び平成 15 年度の

人間総合学科開設につながった。
＜地域総合科学科適格認定評価及び達成度評価＞
人間総合学科では、平成 14 年度、文部科学省での「地域総合科学科構想」における初年時適格認定を受けた。また、平成 19 年度には達成度評価において適格であるとの評価を得た。いずれの評価においても履修記録ノートや履修相談室の取り組みなど良い評価得た取り組みは一層の充実を図るとともに、指摘を受けた事項に対しては改善に取り組み、学習系列の追加やカリキュラムの見直しを行うなど教育内容・質の向上、学生支援の充実に努めてきた。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

点検評価については、学則に規定するとともに、学則に基づいて点検評価規程を定めている。点検評価規程は、第１条の目的で自己点検評価、外部評価及び第三者評価について客観性の確保及び教育機関としての水準の向上を図るため、点検及び評価の実施等に関し必要な事項を定めることとしている。この目的を達成するために点検評価委員会を置いている。外部評価を「本学が主体となる自己点検評価の一環として行う学外者による評価及び検証」と規定しており、相互評価は外部評価の一つと捉えている。
過去に実施した相互評価は、点検評価委員会の委員である学長、学科長、事務局長等に各学科から複数の教員が加わり実施してきた。具体的な点検評価の実施内容、方法等については点検評価委員会で認証評価に準じた点検評価マニュアルを作成し、実施している。
今後実施する場合も同様に、点検評価委員を中心に相互評価チームを編成し実施する予定である。
（参考資料 35：相互評価、外部評価、第三者評価の実施についての規程等）

【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

点検評価委員会内に短期大学部の副学長をＡＬＯとし、各学科長、担当委員４名を加え、第三者評価報告書作成委員会を組織した。報告書作成にあたっては、作成委員会メンバーおよび短期大学部教授会構成員でＡＬＯから理事長を含む教職員・関係部署への協力を依頼し、全学的な取り組みとして実施した。

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びＡＬＯ（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

第三者評価を受けるということは、自らの教育・研究活動を厳しく自己点検・評価すると同時に、外部の第三者の目で評価されることによって、客観的に本学教育活動の存在意義を再確認し、より質の高い教育活動を実現していく最大のチャンスと考えている。
自己点検・評価に関してはこれまでも３年に１回行ってきているが、外部からの評価と

しては、2短期大学(平成 11 年大阪薫英女子短期大学、及び平成 12 年国学院埼玉短期大学)との相互評価を実施、平成 14 年人間総合学科開設時には短期大学基準協会の審査(「地域総合学科に関する適格認定評価」)を受け、平成 19 年には「達成度評価」で適格評価を得ている。そこでは先の相互評価の実施が、「専門性を備えた人材の育成」の点で先見性ありと評価されている。また、達成度評価ではとくに当初の指摘事項がおおむね良好とされている。それぞれの審査の際には慎重に自己点検・評価(「人間総合学科の適格認定にかかる自己点検・評価報告書」)(「達成度評価に関る自己点検・評価報告書」)を行うことになり、自らの教育を検証する非常によい機会となった。しかし、これまで受けてきた相互評価や外部評価で明らかとなったカリキュラムや指導法、地域貢献・地域連携のあり方などの諸課題に関してはまだ目標達成の途上にある。この第三者評価を手がかりとして、あくまで学生自身の「自ら学ぶ力の育成」を中心に据えたＦＤ・ＳＤ活動を充実し、社会的に存在意義を認められる短期大学づくりを目指したい。

すでに「第三者評価」に関しては、平成 18 年度に認証評価を受ける計画であったものが、前学長・理事長の不祥事問題で先送りとなり、平成 21 年度に評価を受ける運びとなった。この間、不祥事の温床となった運営体制を、透明性のある体制とし、全教職員に向けたアンケートや、大学名称変更の作業をとおして「建学の精神」と本学の掲げる「教育の理念」を大学と短期大学で再確認をしてきた。これらの本学に課せられた課題を真摯に受け止め取り組んだ３年間は真に自己点検・評価となった。生活や地域の担い手を育成し、社会人として世に送り出す短期大学の役割は、今なお存在意義を失っていないと感じている。とりわけ、北海道という経済的にも厳しい状況におかれている地域特性を考えると、本短期大学の社会に果たすことができる役割はこれからも続くと考える。

【特記事項について】

(1) この《Ｘ改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

教育改善を進めるべく、学生による授業評価や研修会の実施などＦＤ活動の活性化に努めてきた。平成 20 年度、その一環としてＦＤネットワーク“つばさ”協議会議長を講師とする研修会を開催した。この研修を契機にＦＤ活動の一層の推進の機運が高まり、本学も同協議会に加盟することとなった。多くの教職員が主体的に参加することにより、一層の教育力の向上が図られる。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

記載事項なし

〈参考資料〉34. 過去３ケ年にまとめられた自己点検･評価報告書
35. 相互評価、外部評価、第三者評価の実施についての規程等

将来計画の策定

＜本学の将来計画（中・長期計画）＞

本短期大学は開設以来、社会の要請の変化に対応した改革を重ね発展してきたが、近年の少子化の進行に加え、前理事長等の不祥事により本学に対する社会的信頼の低下が志願者の減少に追い討ちをかけることになった。こうした状況下での自己点検・評価作業の意味は大きい。信頼回復のための歩みを止めないことは当然のことながら、本学の教育活動やそれを支えるシステムが学生の多様化に適切に対応したものになっているか、そのことに的確でかつ迅速な対応ができているか等、課題が明確になった。

経営面ではすでに策定されている「中期経営改善計画」（平成 20 年度～24 年度）にそって、各年度当初に入学者の確定にあわせて微調整を図りながら効果的な経営に努めているところである。また、教学面では短期大学は大学とは異なる使命を持っており、とりわけ厳しい経済状況にある北海道では短期間で教養と資格を身につけ自立できる人材を養成する短期大学の役割は大きいと判断している。

以上の認識に立って、本学は「中期経営改善計画」とすりあわせながら次の三点を柱に平成 23 年度に向けた改革の検討に入ったところである。

(1) 教育内容の編成

家庭や社会が人間基礎力・社会人基礎力を育てる機能を弱めている現在、それらを育てることが大学に求めらてきている。それは卒業生の就職先への調査や実習先からの要望にも裏付けられている。それらを達成するために、平成 21 年度の教育内容編成のねらいを「多様な学生」の学ぶ意欲や目的を引き出すことと大学教育へのスムースな導入や母校への誇りと信頼を育てることにおき、従来の学習系列を増設（６から８系列に）し、自校学習を取り入れた基礎教養科目を開設している。平成 23 年度に向けては教養教育に裏打ちされた専門的知識・技能を短期間で実現するためのカリキュラムの構築と、複数の専門教育の融合をとおして学ぶ教養教育と社会が求めるコミュニケーション力や自己教育力が育成されるカリキュラムの検討を始めている。

(2) 卒業生・青年、社会人への大学開放

本学は、持てる教育資源を地域に開放すべく生涯学習センターや国際交流センターの活動をとおして地域に開かれた短期大学を目指してきた。これまでの行政や諸団体との連携活動およびボランテイア活動を学生の体験的な学習の機会と捉え、さらなる充実を図ると同時に、平成 21 年度からは上記両センターを統合したエクステンションセンターとして学生だけではなく、再教育を求める卒業生およびニートとよばれる若者たち、そして生涯学習の機会を求める地域住民に国際交流も視野に入れたプログラム提供の検討を始めているところである。

(3) ＦＤ・ＳＤの推進～教育力向上への仕組みづくり

平成 21 年度には、各部署を連携して学生支援を行うことが可能な組織に統合した教育支援総合センターが設置された。当センターには教職員のＦＤ・ＳＤを推進する部署としてＦＤ支援オフィスが位置づけられた。ＦＤネットワーク“つばさ”に加入し、他大学と教育改善の連携・共有と特色ある教育の開発に取り組むことになる。その際、本学の掲げる「建学の精神」「教育の理念」をＦＤ・ＳＤの核として進めることとなる。

おわりに

本学では、年次報告として毎年点検・評価を加えた「年次報告書」をまとめ、３年に１度それらを俯瞰して「自己点検・評価報告書」を作成してきた。このたびは、ちょうどその３年目にあたり、点検・評価報告書作成が、第三者評価を受けるにあたっての「点検・評価報告書」の作成と重なり、緊張感の中での報告書作成作業となった。日常の多忙な業務の中、熱意をもって取り組まれたが想像以上に大変な作業となった。また、各部署から出された情報を一本の報告書として纏め上げる過程では、根拠となるデータの精査と議論を重ね、継承すべきものと改善すべきものを明らかにするために相当なエネルギーと時間を費やした。多くの教職員がそれぞれの立場から報告書作成にかかわることによって本学に対する特色や課題の共通認識を深める作業となり、今後の将来構想検討へとつながっていると確信する。

外部からの認証評価を受けることの意味は、社会や学生に向け教育の質を保証するために、自らの教育内容等を厳しくチェックすることによって高等教育機関としての質の向上を促進させるところにある。この後訪問調査により、直接的かつ具体的な示唆を受け本学の現状と課題を確認し、高等教育機関としてのさらなる充実に生かして行く所存である。

平成２０年度　人間総合学科　教育課程

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数	備考
	ｶﾃｺﾞﾘｰ区分		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	(ｸﾗｽ数)	
全学共通科目	基礎	人間学	○			2				○		115(2)	
		倫理学	○				2				○	44(2)	
		宗教学	○				2				○	21(2)	
		文学	○				2				○	43(2)	
		芸術論	○				2				③	17(4)	
		心理学	○				2				○	90(2)	
		社会学	○				2				②	34(2)	
		法学	○				2				○	22(2)	
		政治学	○				2				○	16(2)	
		経済学	○				2				○	21(2)	
		ｼﾞｪﾝﾀﾞｰｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ	○				2				○	32(2)	
		日本文化論	○				2				○	40(2)	
		環境科学	○				2				②	21(2)	
		韓国語と文化(基礎)	○				2		○		②	25(5)	
		韓国語と文化(発展)	○				2		○			15(2)	
		中国語と文化(基礎)	○				2				②	4(2)	
		中国語と文化(発展)	○				2				○	0(1)	
		ﾄﾞｲﾂ語と文化(基礎)	○				2		○	○		6(2)	
		ﾄﾞｲﾂ語と文化(発展)	○				2		○			4(1)	
		ﾌﾗﾝｽ語と文化(基礎)	○				2				○	21(2)	
		ﾌﾗﾝｽ語と文化(発展)	○				2				○	3(1)	
		特別講義-北翔大学を知る-	○				1				○	1(1)	
		特別講義-学ぶことのおもしろさ-	○				1				○	2(1)	
		外国の歴史と文化	○				2				○	1(2)	
		日本国憲法	○				2				○	37(1)	
		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		○		2				○	②	116(5)	
		情報機器操作		○		2			○		○	112(4)	
		地域文化-YOSAKOI ｿｰﾗﾝ祭り(演出)-	○		○		2				○	9(1)	
		ｷｬﾘｱ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	○				2				○	38(1)	
外国人留学生科目		日本語	○				2		○		○	1(1)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数	備考
	ｶﾃｺﾞﾘｰ区分		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	(ｸﾗｽ数)	
外国人留学生科目		日本の歴史と文化	○				2				○	1(1)	
学部共通科目	基礎	ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	○				2			○		28(2)	
		英語事情	○				2			○		18(2)	
		体育理論	○				1		○	○		81(2)	
		文章表現	○				2				○	13(2)	
		人間関係論	○				2			②		41(1)	
		生涯学習論	○				2				○	36(1)	
		音楽と生活	○				2				○	16(2)	
専門科目(系共通科目)		総合ｾﾐﾅｰA				2			⑲		○	113(15)	通年
		総合ｾﾐﾅｰB				2			⑲		○	128(15)	通年
		情報機器操作Ⅱ				2			○		○	115(3)	
		英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ				2				○	②	110(5)	
	生涯学習	生活経営学	○				2			○		13(1)	
		生活美学	○				2				○	37(1)	
		遊びと文化	○				2			○		19(1)	
		人間と生きがい	○				2				○	22(1)	
		生涯学習の展開	○				2				○	17(1)	
		生涯ｽﾎﾟｰﾂ			○		1		②			39(2)	
		ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論（含実技）	○				2				○	35(1)	
		野外活動		○			1				○	5(1)	
		食物と栄養	○				2				○	19(1)	
		調理実習			○		1				○	7(1)	
		住居学（含製図）	○				2				○	10(1)	
		保育学	○				2			○		0(-)	不開講
	福祉	社会福祉論	○				2				○	20(1)	
		福祉心理学	○				2				○	21(1)	
		ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ介護論	○				2				○	16(1)	
		障害児教育論	○				2				○	31(1)	
	地域課題	地域政策論	○				2				○	16(1)	
		地域経済論	○				2		○			26(1)	
		地域課題研究(含調査論)	○				2			○		0(-)	不開講
		北海道の生活と自然	○				2			○		15(1)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数	備考
	ｶﾃｺﾞﾘｰ区分		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	(ｸﾗｽ数)	
専門科目(系共通科目)	地域課題	観光論	○				2			○		29(1)	
		ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾜｰｸ	○				2		○			5(1)	
		ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ		○			2		③			3(1)	
		現代社会と就職	○				2		②			19(1)	
	服飾美術	被服材料学	○				2				○	32(1)	
		手芸		○			1		○			26(2)	
		被服造形実習(洋裁)Ⅰ			○		2		④			25(2)	
		被服造形実習(ﾌｧｯｼｮﾝとﾘﾌｫｰﾑ)			○		1		○			10(1)	
		衣生活文化論	○				2		○			37(1)	
		色彩学	○				2				○	62(1)	
		ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅰ		○			1				○	26(1)	
		ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽA	○				2		○		○	26(1)	
		基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝ			○		1				○	22(1)	
		被服造形論	○				2		○			25(1)	
	ｽﾎﾟｰﾂ科学	体育・ｽﾎﾟｰﾂ論	○				2		○			36(1)	
		ﾌｨｯﾄﾈｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ			○		1		○	○		37(1)	
	養護保健	看護学概論	○				2		○			17(1)	
		解剖生理学	○				2		○			19(1)	
		救急処置	○				2		○			16(1)	
		栄養科学(含食品学)	○				2			○		19(1)	
	経営情報	生活と経済	○				2		○			17(1)	
		企業と経営	○				2		○			24(1)	
		秘書概論	○				2		○			21(1)	
		簿記原理Ⅰ	○				2		○			15(1)	
		情報学基礎	○				2				○	14(1)	
		ｿﾌﾄｳｪｱ概論	○				2				○	21(1)	
		ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ概論	○				2		○			13(1)	
	舞台芸術	舞台芸術概論	○				2				○	16(1)	
		舞台美術論	○				2		○			15(1)	
		演劇史（含美術史）	○				2		○			11(1)	
	服飾美術	衣環境学	○				2				○	31(1)	
		服装史	○				2		○			32(1)	

科目の種別	カテゴリー区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数（クラス数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（系専門科目）	服飾美術	服装心理学	○				2				○	30(1)	
		染色		○			1				○	20(2)	
		製帽		○			1		○			20(1)	
		服飾ﾃﾞｻﾞｲﾝ（含演習）	○	○			2		○			20(1)	
		被服整理学	○				2				○	30(1)	
		被服材料学実験			○		1				○	8(1)	
		被服造形実習(洋裁)Ⅱ			○		2		②			23(2)	
		被服造形実習(洋裁)Ⅲ			○		2		②			17(2)	
		被服造形実習(洋裁)Ⅳ			○		2		②			18(2)	
		被服造形実習(和裁)			○		1				○	18(1)	
		ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ演習		○			2				○	19(1)	
		ｽﾃｰｼﾞ総合実習(含ﾒｲｸ)			○		2				②	14(1)	
		ﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰﾄ		○			2		○			17(1)	
		現代ﾌｧｯｼｮﾝ論	○				2		○			31(1)	
		ﾌｧｯｼｮﾝ画Ⅱ		○			1				○	22(1)	
		ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽB	○				2		○			21(1)	
		ﾌｧｯｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論(含演習)	○	○			2		○			22(1)	
		ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ演習Ⅰ		○			1		○			26(2)	
		ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ演習Ⅱ		○			1		○			24(2)	
		ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ実習			○		1		○			16(1)	
		ｱﾊﾟﾚﾙＣＡＤⅠ		○			1		○			25(2)	
		ｱﾊﾟﾚﾙＣＡＤⅡ		○			1		②			20(2)	
		ｱﾊﾟﾚﾙ設計演習		○			1		○			23(1)	
	スポーツ科学	学校保健（含小児保健、精神保健、学校安全）	○				2		○			43(1)	
		体育経営管理学	○				2				○	38(1)	
		体育測定評価(含演習)	○	○			2			○		-(-)	開講時期変更
		体育心理学	○				2				○	53(1)	
		健康管理論	○				2		○		○	44(1)	
		運動学	○				2		○			40(1)	
		ｽﾎﾟｰﾂ栄養学	○				2		○			78(2)	
		ｽﾎﾟｰﾂ社会学	○				2		○			42(1)	
		ｽﾎﾟｰﾂ指導論	○				2		○			47(2)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数	備考
	ｶﾃｺﾞﾘｰ区分		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	(ｸﾗｽ数)	
専門科目(系専門科目)	スポーツ科学	こどもとｽﾎﾟｰﾂ		○			1		○	○		25(1)	
		ｽﾎﾟｰﾂ科学演習Ⅰ		○			1		⑤			10(1)	
		ｽﾎﾟｰﾂ科学演習Ⅱ		○			1		⑤			5(1)	
		ｽﾎﾟｰﾂ医学	○				2				⑤	41(1)	
		ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ論	○				2			○		51(1)	
		ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ演習		○			1			○		14(1)	
		ﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ	○				2				○	33(1)	
		体つくり運動			○		1				○	35(1)	
		陸上競技			○		1				○	35(2)	
		器械運動Ⅰ			○		1		○			32(1)	
		器械運動Ⅱ			○		1		○			22(1)	
		ｴｱﾛﾋﾞｯｸ			○		1		○			36(2)	
		ｴｱﾛﾋﾞｯｸ指導演習		○			1		○			29(1)	
		ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ			○		1				○	34(1)	
		ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ			○		1		○			34(1)	
		ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ﾃﾆｽ・ｻｯｶｰ			○		1		○		②	39(3)	
		水泳・水中運動			○		1		○		③	38(1)	
		ｽｷｰ			○		1		④			36(1)	
		救急処置Ⅰ	○				2		○		○	45(1)	
		解剖学	○				2		○			38(1)	
		生理学(含運動生理学)	○				2			○		44(1)	
		衛生学及び公衆衛生学	○				2				○	36(1)	
		保健体育科指導法	○				2		○		○	17(1)	※教職科目と併用
		社会体育演習(ｻｯｶｰ)		○			1		○			1(1)	
		社会体育演習(健康運動)		○			1		②	○		11(1)	
		社会体育演習(水上安全)		○			1		○			3(1)	
		社会体育演習 (ｴｱﾛﾋﾞｯｸ)		○			1		○			1(1)	
		社会体育実習			○		1		②			17(1)	
	養護保健	学校保健(含小児保健)	○				2		○			15(1)	
		健康相談活動の理論及び方法	○				3		○			17(1)	
		養護概説	○				2		○			15(1)	
		精神保健	○				2		○			17(1)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数	備考
	ｶﾃｺﾞﾘｰ区分		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	(ｸﾗｽ数)	
専門科目(系専門科目)	養護保健	看護学各論	○				2		○			14(1)	
		看護技術演習		○			2		○			14(1)	
		看護学臨床実習			○		3		○			8(1)	
		薬理学概論	○				2				○	28(1)	
		微生物学(含免疫学)	○				2				○	9(1)	
		衛生学及び公衆衛生学(含予防医学)	○				2				○	16(1)	
	経営情報	簿記原理Ⅱ	○				2		○			13(1)	
		会計学	○				2		○			17(1)	
		環境経済論	○				2		○			23(1)	
		中小企業論	○				2		○			33(1)	
		経営組織論	○				2		○			15(1)	
		経営統計学	○				2				○	17(1)	
		ﾋﾞｼﾞﾈｽ関連法規	○				2				○	21(1)	
		ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｹﾞｰﾑ	○				2		○			31(2)	
		ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞﾘｻｰﾁ	○				2		○			25(1)	
		秘書実務Ⅰ	○				2		○			19(1)	
		秘書実務Ⅱ	○				2		○			16(1)	
		ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ	○				2				○	25(1)	
		情報ｼｽﾃﾑ論Ⅰ	○				2				○	10(1)	
		情報ｼｽﾃﾑ論Ⅱ	○				2				○	25(1)	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ会計	○				2		○			20(1)	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼ	○				2				○	29(1)	
		ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	○				2				○	31(1)	
		ｳｪﾌﾞﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			○		1				○	21(1)	
		ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習Ⅰ		○			1		○			10(1)	
		ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習Ⅱ		○			1		○			8(1)	
		経営情報演習Ⅰ		○			1		③			22(3)	
		経営情報演習Ⅱ		○			1		③			22(3)	
	舞台芸術	演劇入門Ⅰ		○			1		②		○	6(1)	
		演劇入門Ⅱ		○			1		②		○	6(1)	
		演出論	○				2				○	15(1)	
		ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ論	○				2				○	13(1)	

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数	備考
	ｶﾃｺﾞﾘｰ区分		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	(ｸﾗｽ数)	
専門科目(系専門科目)	舞台芸術	ｱｰﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	○				2		②		○	12(1)	
		舞台装置入門（含舞台ﾃﾞｯｻﾝ）	○	○			2				○	14(1)	
		舞台衣装（含ﾒｲｸ・ﾍｱﾒｲｸ）	○	○			2				○	6(1)	
		舞踊芸術Ａ		○			1		②		○	14(1)	
		舞踊芸術Ｂ		○			1		○			9(1)	
		ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞⅠ(含演習)	○				2		②		⑧	6(1)	
		ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞⅡ(含演習)	○				2		②		⑧	6(1)	
		照明・音響演習Ⅰ		○			1		②		⑥	14(1)	
		照明・音響演習Ⅱ		○			1		②		⑥	11(1)	
		映像概論（含演習）	○	○			2				○	10(1)	
		映像総合演習		○			1				○	5(1)	
		特殊効果	○	○			2				○	11(1)	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽⅠ	○		○		2				○	20(1)	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽⅡ	○		○		2				②	15(1)	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾐｭｰｼﾞｯｸ１	○		○		2				○	15(1)	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾐｭｰｼﾞｯｸⅡ	○		○		2				○	25(1)	
		ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ映像	○		○		2				○	10(1)	
		ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋﾞﾃﾞｵ編集	○		○		2				○	12(1)	
		身体表現Ａ		○			1		②		○	6(1)	
		身体表現Ｂ		○			1		②		○	7(1)	
		身体表現Ｃ		○			1		②		○	14(1)	
		朗読・ﾅﾚｰｼｮﾝ		○			1				○	6(1)	
		戯曲研究Ⅰ	○				2				②	14(1)	
		戯曲研究Ⅱ	○				2				②	11(1)	
		総合演習Ａ		○			2		②		○	5(1)	通年
		総合演習Ｂ		○			2		②		○	15(1)	通年
		特別演習Ⅰ		○			1		②		⑩	6(1)	
		特別演習Ⅱ		○			1		②		⑩	11(1)	
		舞台芸術研修		○			2		②		○	11(1)	
訪問介護員養成研修課程		訪問介護論Ⅰ	○				4		○		②	11(1)	
		訪問介護特別講義Ⅰ	○				4		○		○	11(1)	
		訪問介護技術Ⅰ			○		2		○			11(1)	

科目の種別 カﾃｺﾞﾘｰ 区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数 (ｸﾗｽ数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
	訪問介護見学実習Ⅰ			○		2		○			11(1)	
教職に関する科目	教師論	○				2			○		26(2)	
	教育原理	○				2			○		26(2)	
	教育心理学	○				2				○	23(2)	
	総合演習		○			2		④			20(4)	通年
	教育経営学(含教育課程)	○				2		○			14(2)	
	教育方法論（含情報機器･教材活用）	○				2			②		26(2)	
	道徳教育の研究	○				1			②		20(2)	
	特別活動の研究	○				1			②		20(2)	
	生徒指導論（含進路指導）	○				2		○			20(1)	
	教育相談論(含ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの基礎)	○				2			○		23(2)	
	家庭科指導法	○				2			○		0(0)	不開講
	保健体育科指導法	○				2		○		○	※(※)	専門科目と併用
	教育実習講義	○				2		②		○	9(1)	
	教育実習			○		4		○			13(1)	
	養護実習講義	○				2		○			14(1)	
	養護実習			○		4		○			9(1)	

平成 20 年度　こども学科　教育課程

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数(ｸﾗｽ数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
全学共通科目	人間学	○				2		○			81(2)	
	倫理学	○				2				○	10(2)	
	宗教学	○				2				○	3(2)	
	文学	○				2				○	17(2)	
	芸術論	○				2				③	11(4)	
	心理学	○				2				○	108(2)	
	社会学	○				2				②	7(2)	
	法学	○				2				○	5(2)	
	政治学	○				2				○	2(2)	
	経済学	○				2				○	3(2)	
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ	○				2				○	121(2)	
	日本文化論	○				2				○	8(2)	
	環境科学	○				2				②	4(2)	
	韓国語と文化(基礎)	○				2			○	②	6(5)	
	韓国語と文化(発展)	○				2			○		0(2)	
	中国語と文化(基礎)	○				2				②	3(2)	
	中国語と文化(発展)	○				2				○	0(1)	
	ﾄﾞｲﾂ語と文化(基礎)	○				2		○	○		2(2)	
	ﾄﾞｲﾂ語と文化(発展)	○				2			○		0(1)	
	ﾌﾗﾝｽ語と文化(基礎)	○				2				○	5(2)	
	ﾌﾗﾝｽ語と文化(発展)	○				2				○	0(1)	
	特別講義－北翔大学を知る－	○				1				○	3(1)	
	特別講義－学ぶことのおもしろさ－	○				1				○	0(1)	
	外国の歴史と文化	○				2				○	2(2)	
	日本国憲法	○				2				○	143(1)	
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		○			2		○			144(3)	
	情報機器操作		○			2			○	②	143(3)	
	地域文化-YOSAKOI ｿｰﾗﾝ祭り(演出)-	○		○		2				○	10(1)	
	ｷｬﾘｱ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	○				2				○	0(1)	
外国人留学生科目	日本語	○				2			○	○	0(1)	
	日本の歴史と文化	○				2				○	0(1)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
学部共通科目	ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	○				2		○				
	英語事情	○				2		○				
	体育理論	○				1		○				
	文章表現	○				2				○		
	人間関係論	○				2		②				
	生涯学習論	○				2				○		
	音楽と生活	○				2				○		
専門科目（共通科目）	こども学原論	○			2			③				
	こどもと環境	○				2		○				
	こどもの養育	○				2				○		
	こどものﾌｧｯｼｮﾝ		○			2			②			
	こどもと音楽Ⅰ		○			1		②		○		
	こどもと音楽Ⅱ		○			1		②		○		
	こどもと造形Ⅰ		○			1		○		○		
	こどもと造形Ⅱ		○			1		○		○		
	こどもと運動遊び		○			1		②				
	こどもの野外活動		○			1				○		
	体育実技			○		1			③			
	教育原理	○			2			○				
	発達心理学Ⅰ	○			2					○		
	発達心理学Ⅱ	○				2				○		
	教育心理学	○			2					○		
	教育･保育実習講義Ⅰ	○				2		④				
	教育･保育実習講義Ⅱ	○				2		④				
	器楽Ⅰ			○	1			②		⑧		
	器楽Ⅱ			○	1			②		⑦		
	器楽応用			○	1			②		⑦		
	演奏基礎Ⅰ			○		1		②		○		
	演奏基礎Ⅱ			○		1		②		○		
	基本造形Ⅰ			○	1			○		○		
	基本造形Ⅱ			○	1			○		○		
	美術表現Ⅰ			○		1		○		○		

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門科目（共通科目）		美術表現Ⅱ			○		1		○		○		
		基本運動Ⅰ			○	1				②	④		
		基本運動Ⅱ			○	1					②		
		運動基礎Ⅰ			○		1			○	②		
		運動基礎Ⅱ			○		1			○			
		学外演習		○		1			⑤		○		
		救急処置	○	○			2						不開講
		総合演習Ⅰ		○			1		③				
		総合演習Ⅱ		○			1		③				
専門科目（小学校教諭関連科目）		社会	○				2		○				
		理科	○				2		○				
		家庭	○				2		○				
		国語科指導法	○				2		○				
		社会科指導法	○				2		○				
		算数科指導法	○				2		○				
		理科指導法	○				2		○				
		生活科指導法	○				2		○				
		音楽科指導法	○				2		○				
		図画工作科指導法	○				2		○				
		家庭科指導法	○				2		○				
		体育科指導法	○				2				○		
		道徳指導法	○				1		○				
		特別活動指導法	○				1		○				
		生徒指導Ⅰ（含進路指導）	○				2		○				
	専門科目（幼稚園教諭関連科目）	国語（含書写）	○				2		○				
		算数	○				2		○				
		生活	○				2		○				
		音楽	○				2		○				
		図画工作	○				2		○				
		体育	○				2		○				
		教師論	○			2			②				
		教育課程論	○				2		○				

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
	専門科目（幼稚園教諭関連科目）	教育方法論（含情報機器・教材活用）	○				2		○				
		教育相談とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ	○				2		○				
		教育実習Ⅰ			○		4		○				
		教育実習Ⅱ			○		2		○				
専門科目（保育士関連科目）		保育原理Ⅰ	○			2			○				
		保育原理Ⅱ	○				2		○				
		保育内容総論		○			1		○				
		保育内容環境		○			1		○				
		保育内容人間関係		○			1				○		
		保育内容言葉		○			1		○				
		保育内容表現		○			1				○		
		保育内容健康		○			1				○		
		こどもと遊び		○			2		○				
		こどもと絵本	○				2				○		
		社会福祉	○				2				○		
		社会福祉援助技術		○			2				○		
		児童福祉	○				2		○				
		養護原理	○				2		○				
		小児保健Ⅰ	○				2			○			
		小児保健Ⅱ	○				2			○			
		小児保健実習			○		1			○			
		小児栄養		○			2		○				
		精神保健	○				2				○		
		家族援助論	○				2		○				
		乳児保育		○			2		○		○		
		障害児保育		○			1		○				
		養護内容		○			1		○				
		保育実習Ⅰ			○	4			④				
		保育実習Ⅱ			○		2		④				
		保育実習Ⅲ			○		2		④				
		家族関係論	○				2				○		
		音楽療法概論	○				2		○				

科目の種別		授業科目名	授業形態			単位			教員配置			履修人数（ｸﾗｽ数）	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
		音楽療法演習		○			2		○				